

**京都府における
学校教育MM普及事業**

報告書

平成 26 年 3 月

京都府建設交通部交通政策課

— 目 次 —

1. 事業概要	
1-1 事業概要	1-1
1-2 本年度の概要	1-2
2. 教材やカリキュラムの検討	
2-1 プログラムの定着化・新たな地域での実施	2-1
2-2 家庭へのフィードバックおよび体験学習の検討	2-77
2-3 バスを使った見学プログラムの検討	2-93
3. 実施時の補助	
3-1 授業の実施	3-1
3-2 家庭へのフィードバックおよび体験学習の実施	3-18
3-3 バスを使った見学プログラム	3-19
4. 効果の検証	
4-1 実施したプログラムの評価	4-1
4-2 これまでの取り組みの評価	4-60
4-3 目指す方向	4-65
5. 発信・コミュニケーションの仕組みづくり	
5-1 発信の試行	5-1
5-2 課題の整理	5-10
5-3 発信・コミュニケーションの仕組みの構築	5-11
6. 手引書の作成	
6-1 作成内容	6-1
6-2 「交通環境学習のすすめ」の作成	6-1
6-3 実践資料集の作成	6-13
7. 協議会等の開催補助	
7-1 開催概要	7-1
7-2 第6回協議会	7-2
7-3 第7回協議会	7-8
8. まとめと今後の課題	
8-1 まとめ	8-1
8-2 今後の課題	8-3

1. 事業概要

1-1 事業概要

1-1-1 事業の目的

京都府では、平成 17 年度から久御山町等で公共交通に関する出前授業などを実施しており、立上げは京都府が導入支援し、その後市町村に主体を移行して取り組む予定であったが、市町村側の実施体制が整わないことや学校の負担感等の理由で、移行と同時に取り組みが終わってしまっており、継続可能な仕組みを構築する必要がある。

そこで本事業は、学識経験者、学校関係者、市民団体、運輸局、行政（実施市町を含む交通政策部局、教育部局）などからなる委員会（協議会）を立ち上げ、23 年度からの 3 力年中で、京都府全域で展開できる教育カリキュラムを構築し、それらを手引きとしてまとめるとともに、継続的に実施するための仕組みづくりを行ったものである。

1-1-2 事業のフロー

京都府では、「京都府交通需要マネジメント基本計画」に基づき、小学校に対しても交通環境学習を実施してきた。今後、これらを継続的・持続的に実施していくことが必要である。

そのため、京都府下の小学校における交通環境学習の普及・定着を目的として、3 年間の試行、検証の繰り返しを通じて、しくみづくりを実施した。



図1-1 本事業のフロー

1-2 本年度の概要

1-2-1 目的

京都府では、平成 17 年度から久御山町等で公共交通に関する出前授業などを実施しており、立上げは京都府が導入支援し、その後市町村に主体を移行して取り組む予定であったが、市町村側の実施体制が整わないことや学校の負担感等の理由で、移行と同時に取り組みが終わってしまっており、継続可能な仕組みを構築する必要がある。

そこで本事業は、学識経験者、学校関係者、市民団体、運輸局、行政（実施市町を含む交通政策部局、教育部局）などからなる委員会（協議会）を立ち上げ、23 年度からの 3 カ年中で、京都府全域で展開できる教育カリキュラムを構築し、それらを手引きとしてまとめるとともに、継続的に実施するための仕組みづくりを行ったものである。

23 年度は亀岡市の 2 校、24 年度は亀岡市と福知山市、城陽市で汎用性のあるプログラムの開発を目指して試行・評価を行った。25 年度は、これまでに実施した亀岡市と福知山市、城陽市においてプログラムの定着を図るとともに、市町村向けの手引書を作成した。また継続実施のための仕組みづくりも行った。

1-2-2 実施概要

以下に実施フローを示す。

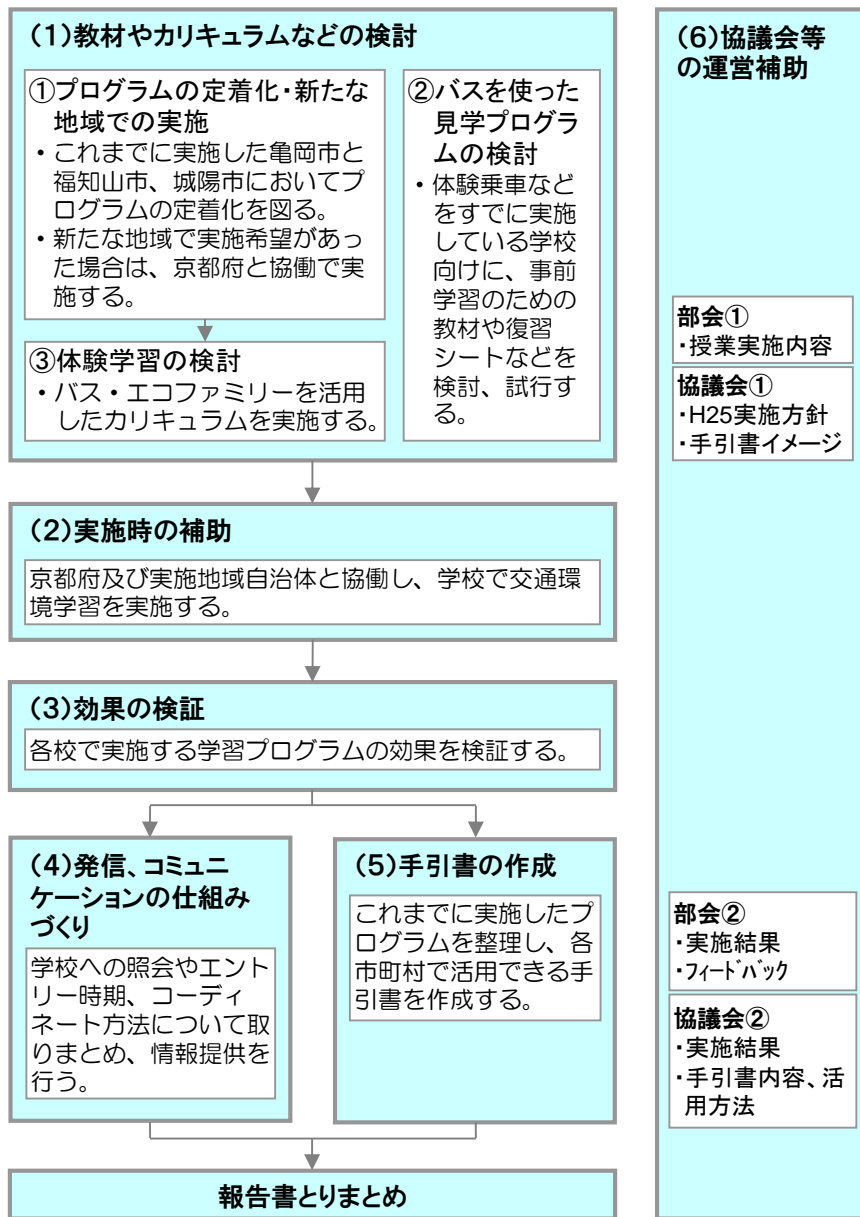


図1-2 実施フロー

1-2-3 実施項目

(1) 教材やカリキュラムなどの検討

1) プログラムの定着化・新たな地域での実施

これまでに実施した亀岡市と福知山市、城陽市においてプログラムの定着化を図った。
新たな地域で実施希望があった場合は、京都府と協働で実施した。

2) バスを使った見学プログラムの検討

体験乗車などをすでに実施している学校向けに、事前学習のための教材や復習シートなどを検討、試行した。

3) 体験学習の検討

バス・エコファミリーを活用したカリキュラムを実施した。

(2) 実施時の補助

京都府及び実施地域自治体と協働し、学校で交通環境学習を実施した。

(3) 効果の検証

各校で実施する学習プログラムの効果を検証した。

(4) 発信、コミュニケーションの仕組みづくり

学校への照会やエントリー時期、コーディネート方法について取りまとめ、情報提供を行った。

(5) 手引書の作成

これまでに実施したプログラムを整理し、各市町村で活用できる手引書を作成した。

(6) 協議会等の運営補助

協議会の運営のため、会議資料の作成・印刷、議事録の作成などを行った。

2. 教材やカリキュラムの検討

2-1 プログラムの定着化・新たな地域での実施

2-1-1 実施対象

過年度から実施している3校での継続に加え、各地域での情報発信等により新たに6校を対象とし、合計9校でプログラムを実施した。

地域状況、学校の意向を踏まえて調整、連携を図りつつ、多様な地域で展開していくためのバリエーションの強化を図った。

対象校	きっかけ・経緯	学年	題材	学校の意向等を踏まえた留意点	日時
亀岡	大井	5年	物流工夫 (ヤマト運輸)	・前後の授業(社会科等)との連携	11/28(木)
	川東	5年	バス車両 (京阪京都交通)	・継続実施	9/19(木)
	南つ つじ ヶ丘	5年	バス車両 (京阪京都交通)	・地域の将来(高齢化等)をイメージして考える ・環境にやさしい自動車づくりとの関連 (利用が多い地域でのバリエーション)	10/22(火)
福知 山	成仁	5年	バス車両 (京都交通)	・継続実施 ・見学の円滑化(班数を削減)	9/26(木)
	美鈴	全学年 (複式)	バス車両 (京都交通)	・ふだん見られないまち中のバス車両の工夫から、 地域のバスの役割を考える (人口が少ない地域でのバリエーション)	9/30(月)
	川合	全学年 (複式)	バス車両 (京都交通)		9/30(月)
城陽	寺田	5年	鉄道仕事 (JR西日本)	・既往プログラムを基本に実施 (亀岡以外で鉄道プログラムのバリエーション)	12/19(木)
	富野	4年	交通すごろく	・既往プログラムを基本に体験型(安全ボタン、シニア体験等)で実施	1/23(木)
長岡 京	第十	4年	バス車両 (阪急バス)	・既往プログラムを基本に実施 (福祉・地域学習をメインにしたバリエーション)	10/3(木)

図 2-1 実施対象

2-1-2 亀岡市

(1) 大井小学校

1) プログラムの概要

物流企業の環境面の工夫を実感し自分の行動を考えてもらうことを目的として、物流車両の工夫を見学することをコンセプトとした。

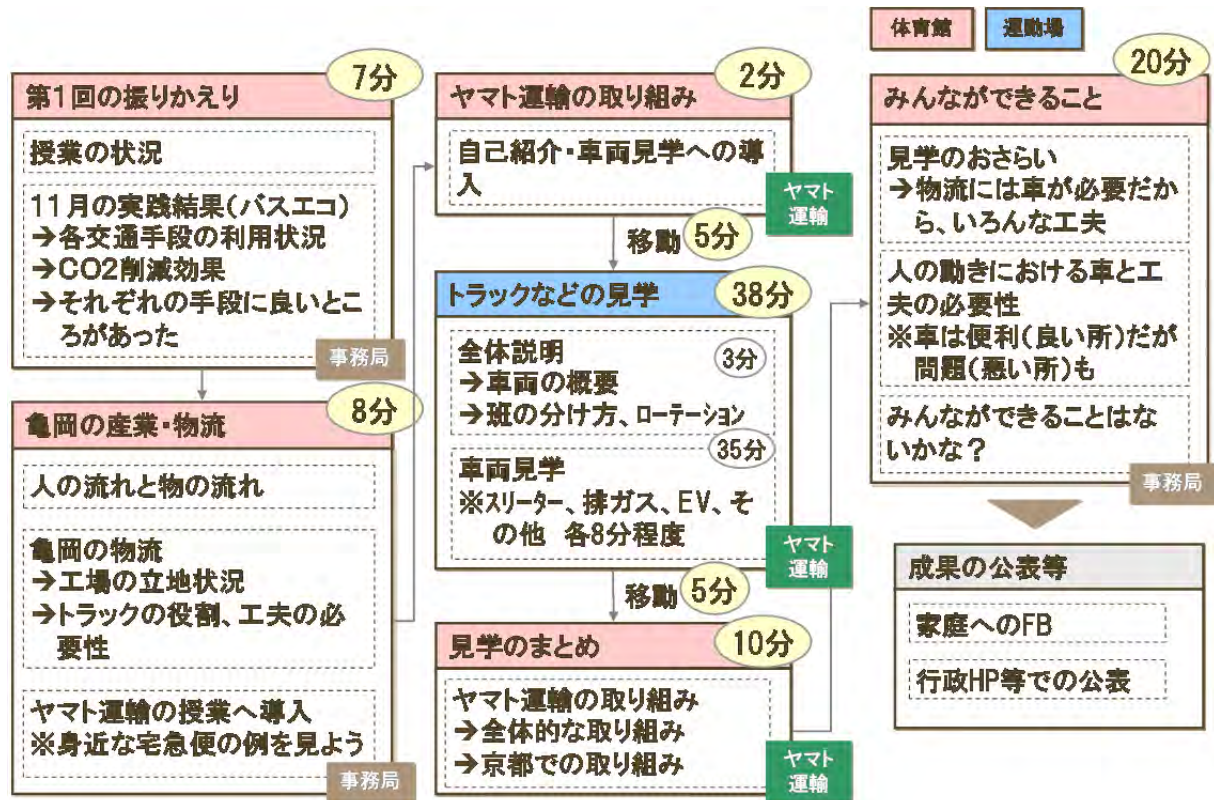


図2-2 授業の概要(大井小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.11
交通環境学習 in 大井小学校

前半

物流の工夫を知って、
みんなの交通を考えよう！！



交通ってなに？

動くのは人だけ？



交通ってなに？

物の動きを勉強してみよう

① 工場へ運ばれるもの

② お店に並ぶ製品や食料品

③ 宅急便等の荷物

亀岡の物流

これの製品は何でしょう？



交通ってなに？

みんなが普段利用する乗り物は？



交通ってなに？

物の動きを勉強してみよう



亀岡の物流

例えば、この会社では？



亀岡の物流

どこから、どこへ運ばれているかな？



亀岡の物流

トラックが産業を支えているけど、環境への影響も



物流の工夫

いろいろな工夫がされているはず



どんな工夫がされているか勉強してみよう!

交通ってなに?

物の動きを勉強してみよう



2013.11
交通環境学習 in 大井小学校

後半

物流の工夫を知って、
みんなの交通を考えよう!!



物流の工夫

みんなの交通について考えよう



物流の工夫

そのため、いろいろな工夫がされていた!



物流の工夫

物流には車が必要だけど、なくなると困る...



みんなができること

みんなは「人の動き」について考えよう!



みんなができること

16

人の動きでも車はとても便利

車のない生活を
するのは難しい



みんなができること

17

だけど、車には問題もたくさんある...

車の悪い所

渋滞が
発生

二酸化炭素
(CO₂)がたくさん

事故が
起こりやすい

車で行けない商
店街はシャッ
ター通りに



みんなができること

18

CO₂がたくさん出ると？



みんなができること

19

「人の動き」でも、みんなにできることがあるはず

物流の工夫のように、
みんなにできることを
考えてみよう！



みんなができること

20

まずは、

① できるだけ車を使わないように
する...

みんなができること

21

電車やバスの良い所は？

高齢者でも気軽
に移動できる！

事故が少なく
安全！



色々な人と
仲良くなれる？

二酸化炭素
(CO₂)が少ない！

みんなができること

22

できるだけ車を使わないようにする

① クルマより多い

② 同じくらい

③ 半分くらい

④ 1/10くらい



みんなができること

23

できるだけ車を使わないようにする



みんなができること

24

交通手段の良い所・悪い所をよく考えて選ぼう！

●早さや便利さ

だけじゃなく…

●環境や渋滞などの影響

●安全、楽しさ

●将来のまちのすがた

も考えながら
選ぼう！



みんなができること

25

車を環境やまちにやさしく使うには？

無駄を減らして効率的に
使うには？



みんなができること

26

まずは、

①できるだけ車を使わないように
する…

どうしても使わないと
いけない場合は、

②車を環境にやさしく使う…

みんなができること

27

車を環境やまちにやさしく使うには？

●できるだけ一度で用事を済ませよう

●渋滞する時間には出かけないように
しよう

●歩行者や自転車に注意して、安全に
運転しよう（してもらおう）



みんなができること

28

その他にもできることがないかな？

①できるだけ車を使わないようにする…

②車を環境にやさしく使う…

●その他にも、みんなにできることがな
いか考えてみよう。

●たとえば、電車やバスで**行ってみよう**
と**思う場所**などを考えてみよう。



(b) ワークシート

物流の工夫を知ってみんなの交通を考えよう！	
組 番 氏名	
(1) それぞれ、工夫されていた点や気づいたことを記入しましょう！	
天然ガス車	
電気自動車	
スリーター	
車内見学 (ハイブリット車)	

図 2-3 ワークシート(表)

(2) 自分にできることがないか考えてみよう!
(3) 今日の授業の感想を書いてください

図 2-4 ワークシート(裏)

(c) 実施体制

物流車両見学の部分はヤマト運輸、その他の説明部分は主に亀岡市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-1 実施体制(大井小学校)

講師	導入（地域の産業・物流概況）⇒亀岡市 物流車両見学 ⇒ヤマト運輸 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

(2) 川東小学校

1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

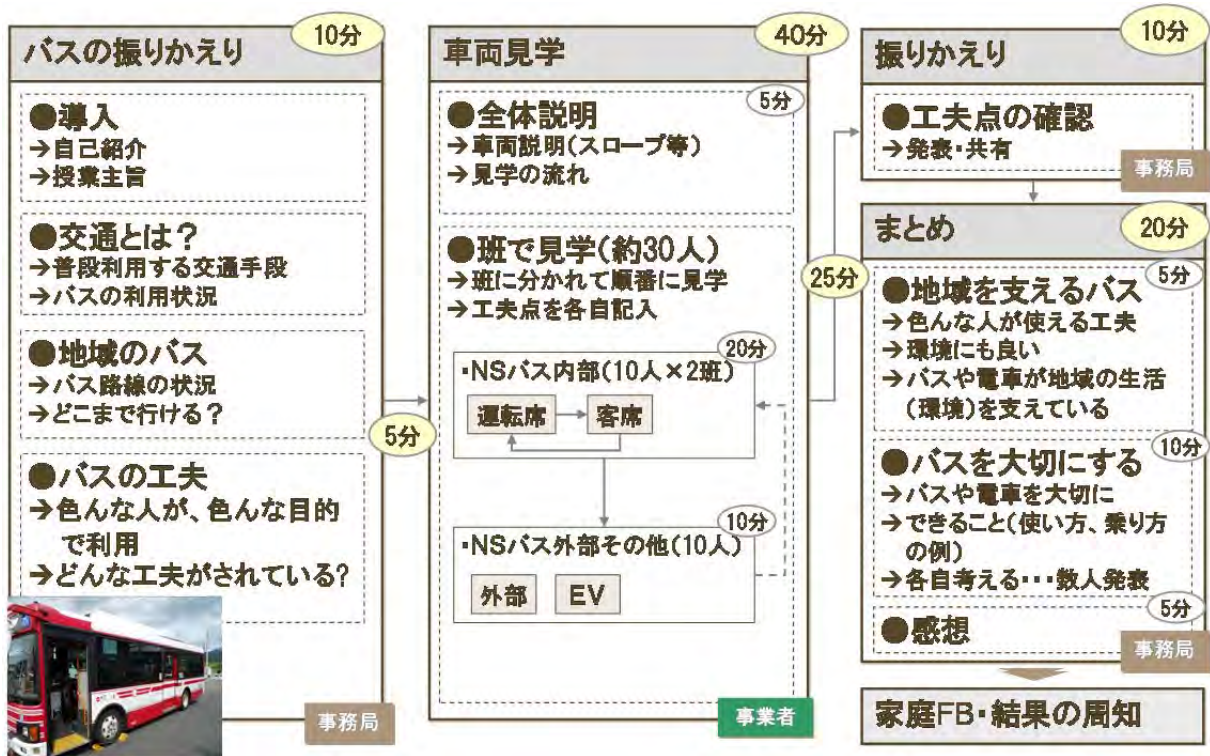


図2-5 授業の流れ(川東小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.9
交通環境学習 in 川東小学校

川東を走る バスを知ろう！



交通ってなに？

家族で買物に行く時どの乗り物を使うかな？



交通ってなに？

みんなが普段利用する乗り物は？



交通ってなに？

バスを使う人は？



交通ってなに？

今日はバスについて
勉強しよう！



学校のまわりのバスを知ろう

川東小学校はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

千代川駅はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

通学でバスを利用している人は？



学校のまわりのバスを知ろう

どこのバス停から乗っているかな？



バスでどこまで行けるかな？

南の方はどこにつながっているかな？



バスでどこまで行けるかな？

亀岡市のバスはどこまで広がっているかな？



バスでどこまで行けるかな？

通学以外で、バスを使ったことがある人？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

色々な所に行けるバスは、みんなが使いやすいように工夫されている！



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

実際に車両を見て、気づいたところをメモしよう！



バスの工夫点

16

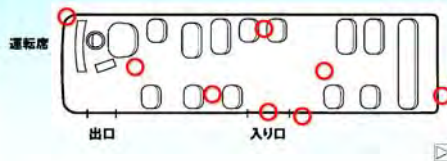
どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

17

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

18

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のスロープ



車いすの人が
乗り降りしやす
いように

バスの工夫点

19

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすやベビーカー
がバスのゆれで動か
ないように

バスの工夫点

20

どんな工夫がされていたかな？

▼優先席



お年寄りや
体の不自由な人が
座れるように

バスの工夫点

21

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に
止まったりしても
転ばないように

バスの工夫点

22

どんな工夫がされていたかな？

▼運転席の周りのたくさんのかがみ



バスの周りを歩く人な
どが運転席からちゃん
と見えるように

バスの工夫点

23

どんな工夫がされていたかな？

▼ドライブレコーダ



事故などがあつた
時にその状況や原因が
わかるように

バスの工夫点

24

どんな工夫がされていたかな？

▼「乗降中」のサイン



うしろの車の人が
注意してくれる
ように

バスは人にやさしい

26

色々な工夫がされていたのが分かりましたね？



色々な人が
暮らしている

バスが生活を
支えている！

バスの工夫点

25

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のインターホン



車いすの人などが
バスに乗らなくても
運転手さんと話か
けるように

バスは環境にも良い

27



バスは環境にも
やさしい！！



バスは環境にも良い

28

どうして環境にやさしいのかな？

クルマで10人が移動

バスで10人が移動



同じ人数を運ぶ
時に出る排気ガスの
量が少ない

バスは環境にも良い

30

二酸化炭素がたくさん出るとなぜ良くないのかな？



地球温暖化を
進めてしまう！

バスは環境にも良い

29

排気ガスはなぜ環境に良くないのかな？



排気ガスには、
二酸化炭素(CO₂)が
たくさん含まれていて
地球全体の環境問題の
原因に...

バスは環境にも良い

31

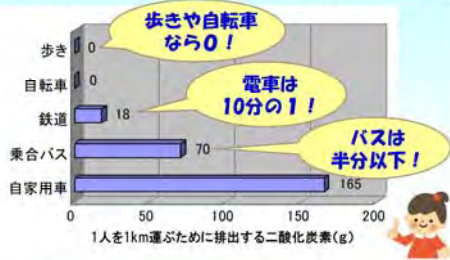
バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？

- ① クルマより多い
- ② 同じくらい
- ③ 半分くらい
- ④ 1/10くらい

バスは環境にも良い

32

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？



地域にとって大切なバス

34

だから、地域にとってバスはとても大切！



地域にとって大切なバス

33

だから、地域にとってバスはとても大切！



地域にとって大切なバス

35

だから、地域にとってバスはとても大切！



バスを大切にしよう

36

どんなことができるかな？

みんなにできることはどんなことか考えてみよう

バスを大切にしよう

38

バスを使って行けるところには、できるだけバスを使って行こう！



バスでどこまで行けるかな？

37

バスを使って行けるところには、できるだけバスを使って行ってみよう！



バスを大切にしよう

39

バスを使うときは、他の人が気持ちよく使えるようにしよう

→周りの人たちが、気持ちよく利用できるよう、騒いだり・うるさくしないようにしよう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってきたら席をゆずろう！

バスを大切にしよう

40

その他にもできることがないかな？

- その他に、**バスを大切にするためにできること、バスで行ってみようと思う場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみてください。



(b) ワークシート

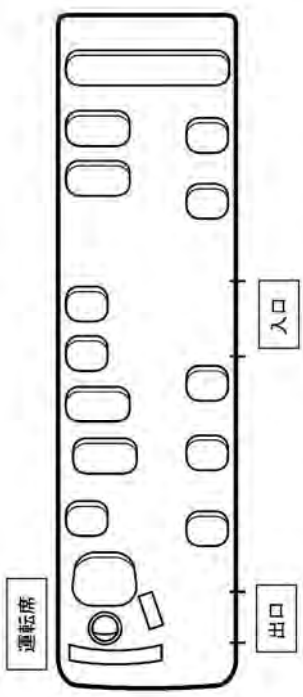
<h3>バスの工夫点を見てみよう！！</h3>	
組 _____ 番 氏名 _____	
<p>(1) バスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう</p>	
 <p>The diagram shows a top-down view of a bus interior. On the left side, there is a driver's seat labeled '運転席'. The rest of the bus is filled with rows of seats. On the right side, there are two doors labeled '出口' (Exit) and '入口' (Entrance).</p>	
<p><バスを見たり、運転手さんの説明を聞いた感想></p>	

図 2-6 ワークシート(表)

(c) 実施体制

バス見学の部分は京阪京都交通、その他の説明部分は主に亀岡市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-2 実施体制(川東小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒亀岡市 バス見学 ⇒京阪京都交通 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

(3) 南つつじヶ丘小学校

1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

なお、バスのサービスレベルが高く利用が多い一方、高齢化の課題もある地域であることを踏まえ、将来の利用者数の変化から街の将来を考えてもらうことも考慮した。



図2-8 授業の流れ(南つつじヶ丘小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.9
交通環境学習 in 南つつじヶ丘小学校

南つつじヶ丘を走る バスを知ろう！



交通ってなに？

家族で買物に行く時どの乗り物を使うかな？



交通ってなに？

交通ってなに？

みんなが普段利用する乗り物は？



交通ってなに？

バスを使う人は？



今日はバスについて
勉強しよう！



学校のまわりのバスを知ろう

南つつじヶ丘小学校はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

亀岡駅と馬堀駅はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

バスで馬堀駅まで行けると思う人？



学校のまわりのバスを知ろう

8

どんな人が使っているかな？

行き先	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
(路線30) (路線32) 亀岡駅前	05 105	07 107	09 109	11 111	13 113	15 115	17 117	19 119	21 121	23 123	01 09	03 11	05 13	07 15	09 17	11 19	13 21
(路線34) (路線36) 長塚駅前	09 109	11 111	13 113	15 115	17 117	19 119	21 121	23 123	01 09	03 11	05 13	07 15	09 17	11 19	13 21	15 23	17 25

通勤・通学
する人

買い物・通院
する人

学校のまわりのバスを知ろう

9

電車との関係はどうなっているかな？

大塚	池袋	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線
大塚	池袋	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線	有楽町線	丸の内線	山手線

JR 路線	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
6	05	07	09	11	13	15	17	19	21	23	01	03	05	07	09	11	13	15	17
7	07	09	11	13	15	17	19	21	23	01	03	05	07	09	11	13	15	17	19
8	09	11	13	15	17	19	21	23	01	03	05	07	09	11	13	15	17	19	21



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

10

色々な人が使うバスは、
みんなが使いやすいよう
に工夫がされている！



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

11

実際に車両を見て、
気づいたところを
メモしよう！



バスの工夫点

12

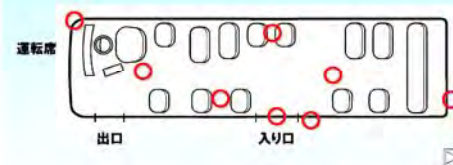
どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

13

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点 (色々な人のための)

14

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のスロープ



車いすの人が
乗り降りしやす
いように

バスの工夫点 (色々な人のための)

15

どんな工夫がされていたかな？

▼優先席



お年寄りや
体の不自由な人が
座れるように

バスの工夫点 (色々な人のための)

16

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のインターホン



車いすの人などが
バスに乗らなくても
運転手さんと話が
できるように



バスの工夫点 (安全のための)

17

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすやベビーカー
がバスのゆれで動か
ないように



バスの工夫点 (安全のための)

18

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に
止まったりしても
転ばないように



バスの工夫点 (安全のための)

19

どんな工夫がされていたかな？

▼運転席の周りのたくさんのかがみ



バスの周りを歩く人な
どが運転席からちゃん
と見えるように



バスの工夫点 (安全のための)

20

どんな工夫がされていたかな？

▼ドライブレコーダ



事故などがあつた
時にその状況や原因が
わかるように



バスの工夫点 (安全のための)

21

どんな工夫がされていたかな？

▼「乗降中」のサイン



うしろの車の人が
注意してくれる
ように



バスは人にやさしい

22

色々な工夫がされていたのが分かりましたね？



色々な人が
暮らしている

バスが生活を
支えている！



バスは環境にもやさしい

23



バスは環境にも
やさしい！！



バスは環境にも良い

24

どうして環境にやさしいのかな？

クルマで10人が移動

バスで10人が移動



バスは環境にも良い

26

二酸化炭素がたくさん出るとなぜ良くないのかな？



バスは環境にも良い

25

排気ガスはなぜ環境に良くないのかな？



バスは環境にも良い

27

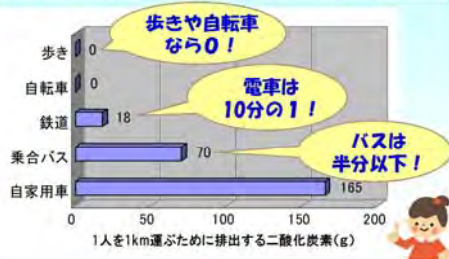
バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？

- ① クルマより多い
- ② 同じくらい
- ③ 半分くらい
- ④ 1/10くらい

バスは環境にも良い

28

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？



地域にとって大切なバス

29

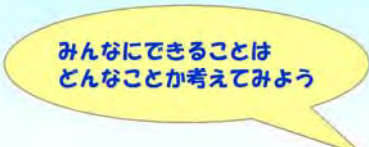
だから、地域にとってバスは大切なんだね！



バスを大切にしよう

30

どんなことができるかな？



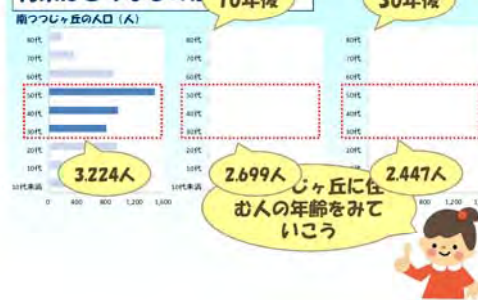
できるだけ使ってみよう

31

将来はどうなるのか

10年後

30年後



バスでどこまで行けるかな？

バスを使って行けるところには、
できるだけバスを使って行ってみよう！



バスを大切にしよう

その他にもできることがないかな？

- その他に、**バスを大切にするためにできること、バスで行ってみようと思う場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみてください。



バスを大切にしよう

バスを使うときは、他の人が**気持ちよく**使えるようにしましょう

→周りの人たちが、**気持ちよく利用できる**よう、騒いだり・うるさくしないようにしましょう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってきたら**席をゆずろう！**



(b) ワークシート

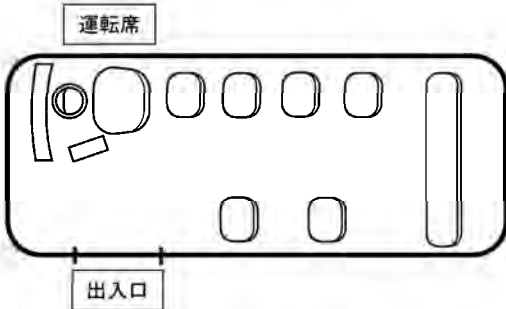
バスの工夫点を見てみよう！！	
_____組 _____番 氏名	
(1) バスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう	
	
(2) バス停や乗り方の説明を聞いて、気づいた工夫点を記入してみよう	
(3) 電気自動車や環境にやさしいバスの説明を聞いて、気づいた工夫点を記入してみよう	

図 2-9 ワークシート(表)

(4) 今日の授業を聞いて、やってみようと思うこと、気をつけること、感想

<自分たちに出来ること>

<今日の授業の感想>

図 2-10 ワークシート(裏)

(c) 実施体制

バス見学の部分は京阪京都交通、その他の説明部分は主に亀岡市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-3 実施体制(南つつじヶ丘小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒亀岡市 バス見学 ⇒京阪京都交通 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

2-1-3 福知山市

(1) 成仁小学校

1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

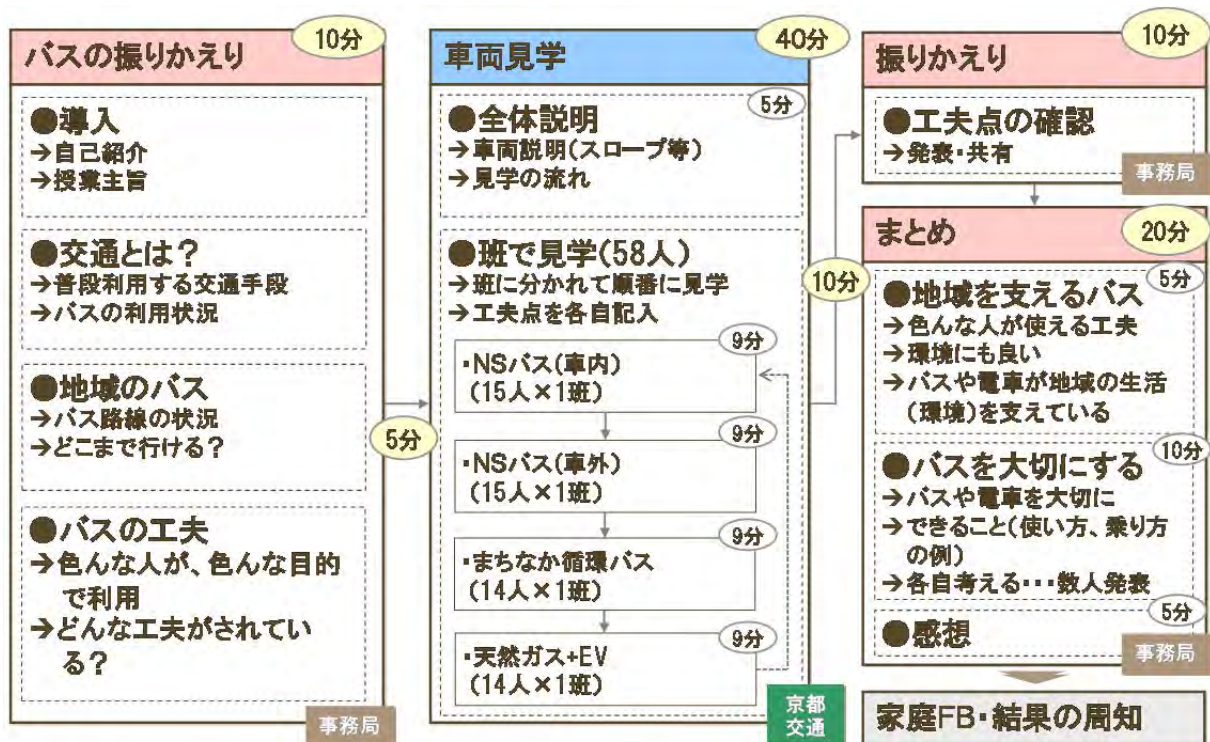


図2-11 授業の流れ(成仁小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.9
交通環境学習 in 成仁小学校

中坂町を走る バスを知ろう!



交通ってなに?

家族で買物に行く時の乗り物を使うかな?



交通ってなに?

みんなが普段利用する乗り物は?



交通ってなに?

バスを使う人は?



交通ってなに?

今日はバスについて
勉強しよう!



学校のまわりのバスを知ろう

成仁小学校はどこかな?



学校のまわりのバスを知ろう

福知山駅はどこかな?



学校のまわりのバスを知ろう

バスを利用したことがある人は?



バスでどこまで行けるかな？

成仁小のまわりを走っているのは？



バスでどこまで行けるかな？

福知山駅のまわりを走っているのは？



バスでどこまで行けるかな？

このバスに乗ったことがある？



バスでどこまで行けるかな？

このバスに乗ったことがある？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

色々な所に行けるバスは、みんなが使いやすいように工夫がされている！



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

実際に車両を見て、気づいたところをメモしよう！



バスの工夫点

16

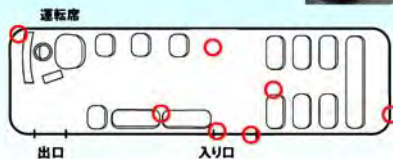
どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

17

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

18

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のスロープ



車いすの人が
乗り降りしやす
いように

バスの工夫点

19

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすがバスのゆれ
で動かないように

バスの工夫点

20

どんな工夫がされていたかな？

▼優先席



お年寄りや
体の不自由な人が
座れるように

バスの工夫点

21

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に
止まったりしても
転ばないように

バスの工夫点

22

どんな工夫がされていたかな？

▼運転席の周りのたくさんのかがみ



バスの周りを歩く人な
どが運転席からちゃん
と見えるように

バスの工夫点

23

どんな工夫がされていたかな？

▼「乗降中」のサイン



うしろの車の人が
注意してくれる
ように

バスの工夫点

24

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のインターホン



車いすの人などが
バスに乗らなくても
運転手さんと話が
できるように



バスの工夫点

25

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

26

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすやベビーカー
がバスのゆれで動か
ないように



バスの工夫点

27

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に
止まったりしても
転ばないように



バスの工夫点

28

色々な工夫がされていたのが

色々な人が
使いやすいように



色々な人が
暮らしている

バスが生活を
支えている！



バスの工夫点

29

ききょうの杜っておぼえてる？



車いすの人が
いたよね！

車いすの人でも工夫さ
れているバスなら
乗りやすいね



バスは環境にも良い

30



バスは環境にも
やさしい！！



バスは環境にも良い

31

どうして環境にやさしいのかな？



バスは環境にも良い

32

排気ガスはなぜ環境に良くないのかな？

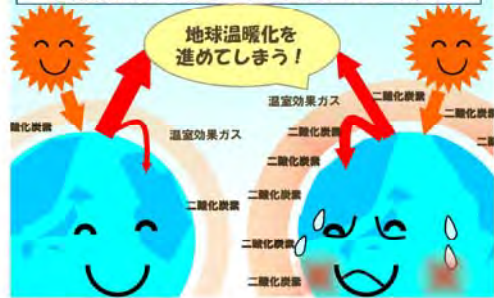


排気ガスには、**二酸化炭素 (CO₂)** がたくさん含まれていて地球全体の環境問題の原因に...

バスは環境にも良い

33

二酸化炭素がたくさん出るとなぜ良くないのかな？



バスは環境にも良い

34

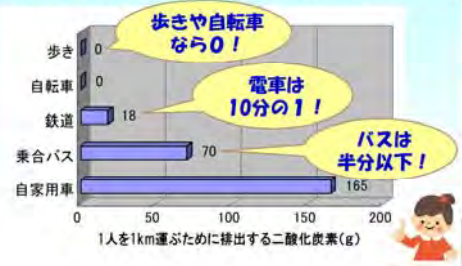
バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？

- ① クルマより多い
- ② 同じくらい
- ③ 半分くらい
- ④ 1/10くらい

バスは環境にも良い

35

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？



地域にとって大切なバス

36

だから、地域にとってバスはとても大切！



地域にとって大切なバス

37

だから、地域にとってバスはとても大切！



地域にとって大切なバス

38

だから、地域にとってバスはとても大切！



バスを大切にしよう

39

どんなことができるかな？

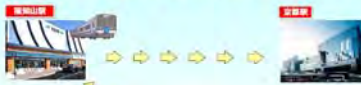
みんなにできることはどんなことか考えてみよう



バスを大切にしよう

40

バスを使って行けるところには、
できるだけバスを使って行ってみよう！



バスエコファミリーで
大人1人につき
小学生2人まで
無料！



次は、鉄道で
京都駅まで！



バスを大切にしよう

41

その他にもできることがないかな？

- その他に、**バスを大切にするためにできること、バスで行ってみようと思う場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみて下さい。



バスを大切にしよう

41

バスを使うときは、他の人が**気持ちよく**使えるようにしましょう

→周りの人たちが、**気持ちよく利用**できるよう、騒いだり・うるさくしないようにしましょう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってきたら**席をゆずろう！**



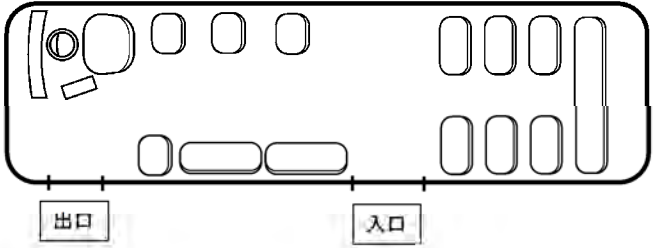
(b) ワークシート

バスの工夫点を見てみよう！！

組 _____ 番 氏名 _____

(1) ノンステップバスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう

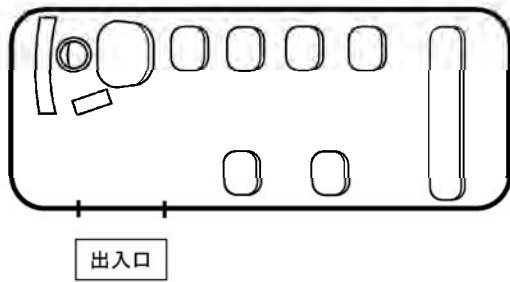
運転席



出口 入口

(2) まちなか循環バスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう

運転席



出入口

図 2-12 ワークシート(表)

<p>(2) 今日の授業を聞いて、やってみようと思うこと、気をつけること、感想</p> <p><自分たちに出来ること></p>
<p><今日の授業の感想></p>

図 2-13 ワークシート(裏)

(c) 実施体制

バス見学の部分は京都交通、その他の説明部分は主に福知山市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-4 実施体制(成仁小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒福知山市 バス見学 ⇒京都交通 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

(2) 美鈴小学校

1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

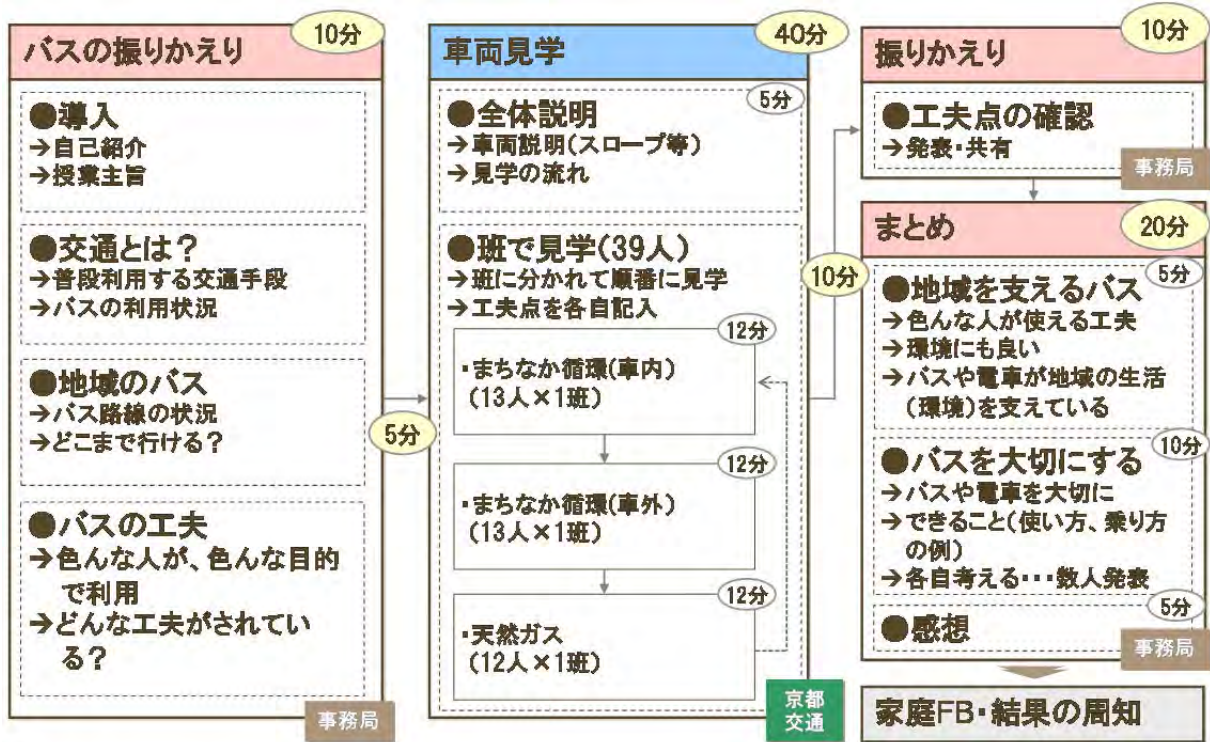


図2-14 授業の流れ(美鈴小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.9
交通環境学習 in 美鈴小学校

大江町を走る バスを知ろう！



交通ってなに？

みんなが普段利用する乗り物は？



交通ってなに？

家族で買物に行く時の乗り物を使うかな？



交通ってなに？

バスを使う人は？



交通ってなに？

今日はバスについて
勉強しよう！



学校のまわりのバスを知ろう

美鈴小学校はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

福知山駅はどこかな？



学校のまわりのバスを知ろう

バスで福知山駅まで
行けると思う人は？



学校のまわりのバスを知ろう

鉄道でも福知山駅まで行けます！



バスでどこまで行けるかな？

このバスに乗ったことある？



駅のまわりのバスを知ろう

このバスに乗ったことある？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



学校のまわりのバスを知ろう

美鈴小のまわりを走っているのは？



駅のまわりのバスを知ろう

福知山駅のまわりを走っているのは？



バスでどこまで行けるかな？

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

色々な所に行けるバスは、みんなが使いやすいように工夫がされている！



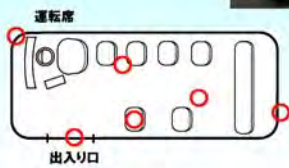
色々な所に行けるバスをよく知ろう！ 16

実際に車両を見て、気づいたところをメモしよう！



バスの工夫点 18

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点 17

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点 20

どんな工夫がされていたかな？

▼優先席



お年寄りや体の不自由な人が座れるように

バスの工夫点 21

どんな工夫がされていたかな？

▼運転席の周りのたくさんのかがみ



バスの周りを歩く人などが運転席からちゃんと見えるように

バスの工夫点 22

どんな工夫がされていたかな？

▼「乗降中」のサイン



うしろの車の人が注意してくれるように

バスの工夫点 23

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすやベビーカーがバスのゆれで動かないように

バスの工夫点

24

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に止まったりしても転ばないように

バスの工夫点

25

色々な工夫がされていたのが分かりましたね？



色々な人が喜んでいる

バスが生活を支えている！

生活を支えるバス

26

同じようにバスが通っている



生活を支えるバス

27

まちなかと同じ



色々な人が喜んでいる

バスが生活を支えている！

バスは環境にも良い

28



バスは環境にもやさしい！！



バスは環境にも良い

29

どうして環境にやさしいのかな？



鉄道も環境にも良い

30

鉄道はたくさんの人を運べる！



みんなが車を使うと渋滞するんだね！

鉄道は環境にも良い

31

KTRなら??

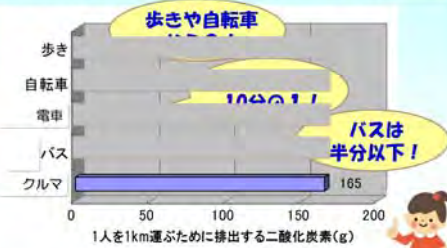


100×7=700で、700mだね！

環境に良いのりもの

32

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？



地域にとって大切なバス

33

だから、地域にとってバスはとても大切！



バスは地域の人たちを支えていて環境にも優しい



地域にとって大切なバス

34

だから、地域にとってバスはとても大切！



もし、バスが無くなったたり、使いにくかったら...



地域にとって大切なバス

35

だから、地域にとってバスはとても大切！



みんなでバスを大切にしよう！



バスを大切にしよう

36

どんなことができるかな？

みんなにできることはどんなことか考えてみよう



バスを大切にしよう

37

バスを使って行けるところには、できるだけバスを使って行ってみよう！



鉄道も大切にしよう

38

地域を支えているのは鉄道も同じ！
鉄道もできるだけ使ってみよう！



バスや鉄道を大切にしよう

39

バスや鉄道使うときは、他の人が気持ちよく使えるようにしましょう

→周りの人たちが、気持ちよく利用できるよう、騒いだり・うるさくしないようにしましょう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってきたら席をゆずろう！



バスや鉄道を大切にしよう

40

その他にもできることがないかな？

- その他に、バスや鉄道を**大切にすること**のためにできること、バスや鉄道で**行ってみようと思う場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみてください。



(b) ワークシート

バスの工夫点を見てみよう！！

組 _____ 番 氏名 _____

(1) バスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう

The diagram shows a top-down view of a bus interior. On the left side, there is a driver's seat labeled '運転席' (Driver's seat). The rest of the bus is filled with rows of passenger seats. On the right side, there is an entrance/exit labeled '出入口' (Entrance/Exit). The bus has rounded corners and a simple line-art style.

図 2-15 ワークシート(表)

(c) 実施体制

バス見学の部分は京都交通、その他の説明部分は主に福知山市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-5 実施体制(美鈴小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒福知山市 バス見学 ⇒京都交通 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

(3) 川合小学校

1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

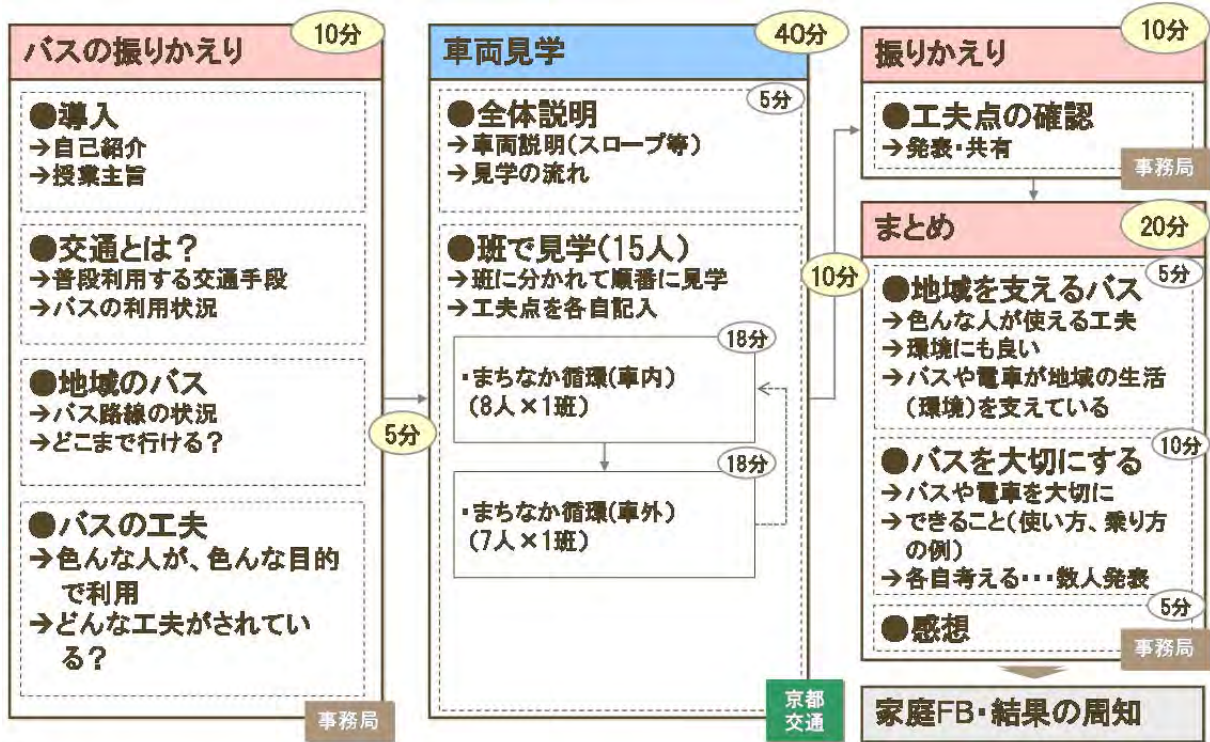


図2-17 授業の流れ(川合小学校)

2) プログラムの内容

(a) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.9
交通環境学習 in 川合小学校

三和町を走る バスを知ろう!



交通ってなに?

家族で買物に行く時の乗り物を使うかな?



交通ってなに?

みんなが普段利用する乗り物は?



交通ってなに?

バスを使う人は?



交通ってなに?

今日はバスについて
勉強しよう!



学校のまわりのバスを知ろう

川合小学校はどこかな?



学校のまわりのバスを知ろう

福知山駅と綾部駅はどこかな?



学校のまわりのバスを知ろう

バスで福知山駅まで行けると思う人は?



学校のまわりのバスを知ろう

8

川合小のまわりを走っているのは？



学校のまわりのバスを知ろう

9

このバスに乗ったことがある？

三和バス



駅のまわりのバスを知ろう

10

福知山駅のまわりを走っているのは？



学校のまわりのバスを知ろう

11

このバスに乗ったことがある？

まちなか循環バス



バスでどこまで行けるかな？

12

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



バスでどこまで行けるかな？

13

これより遠くには、どんなところに行けるかな？



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

14

色々な所に行けるバスは、みんなが使いやすいように工夫がされている！



色々な所に行けるバスをよく知ろう！

15

実際に車両を見て、気づいたところをメモしよう！



バスの工夫点

16

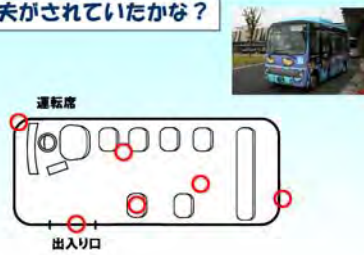
どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

17

どんな工夫がされていたかな？



バスの工夫点

18

どんな工夫がされていたかな？

▼入り口のスロープ



車いすの人が
乗り降りしや
すいように

バスの工夫点

19

どんな工夫がされていたかな？

▼優先席



お年寄りや
体の不自由な人が
座れるように

バスの工夫点

20

どんな工夫がされていたかな？

▼運転席の周りのたくさんのかきみ



バスの周りを歩く人な
どが運転席からちゃん
と見えるように

バスの工夫点

21

どんな工夫がされていたかな？

▼「乗降中」のサイン



うしろの車の人が
注意してくれる
ように

バスの工夫点

22

どんな工夫がされていたかな？

▼車いすを固定する器具



車いすやベビーカー
がバスのゆれで動か
ないように

バスの工夫点

23

どんな工夫がされていたかな？

▼立っている人がつかまる棒



バスが急に
止まったりしても
転ばないように

バスの工夫点

24

色々な工夫がされていたのが分かりましたね？



生活を支えるバス

25

同じようにバスが通っている



川合小の周りも・・・

26

まちなかと同じ



バスは環境にも良い

27



バスは環境にもやさしい！！



バスは環境にも良い

28

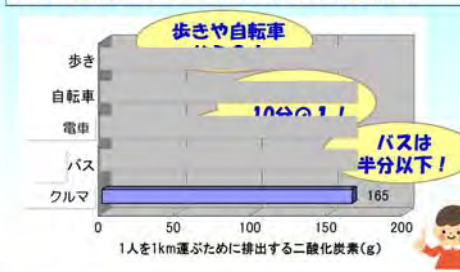
どうして環境にやさしいのかな？



環境に良いのりもの

29

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？



地域にとって大切なバス

30

だから、地域にとってバスはとても大切！



バスは地域の人たちを支えていて環境にも優しい

地域にとって大切なバス

31

だから、地域にとってバスはとても大切！



もし、バスが無かったり、使いにくかったら・・・

地域にとって大切なバス

32

だから、地域にとってバスはとても大切！



みんなでバスを大切にしよう！



バスを大切にしよう

34

バスを使って行けるところには、できるだけバスを使って行ってみよう！



京都駅までバスと鉄道で行こう！



バスを大切にしよう

36

その他にもできることがないかな？

- その他に、**バスを大切にするためにできること、バスで行ってみようと思う場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、**思いついたことを書いてみて下さい。**



バスを大切にしよう

33

どんなことができるかな？

みんなにできることはどんなことか考えてみよう



バスを大切にしよう

35

バスを使うときは、他の人が**気持ちよく**使えるようにしよう

→周りの人たちが、**気持ちよく利用**できるよう、騒いだり・うるさくしないようにしよう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってきたら**席をゆずろう**！



(b) ワークシート

バスの工夫点を見よう！！

組 _____ 番 氏名 _____

(1) バスの車両を見て、気づいた工夫点を記入してみよう

The diagram shows a top-down view of a bus interior. On the left side, there is a driver's seat labeled '運転席' (Driver's seat). The main cabin contains several rows of seats. On the right side, there is an entrance labeled '出入口' (Entrance/Exit). The bus has rounded corners and a simple line-art style.

図 2-18 ワークシート(表)

<p>(2) 今日の授業を聞いて、やってみようと思うこと、気をつけること、感想</p> <p>＜自分たちに出来ること＞</p>
<p>＜今日の授業の感想＞</p>

図 2-19 ワークシート(裏)

(c) 実施体制

バス見学の部分は京都交通、その他の説明部分は主に福知山市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-6 実施体制(川合小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒福知山市 バス見学 ⇒京都交通 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

2-1-4 城陽市・寺田小学校

(1) プログラムの概要

学校のニーズと鉄道プログラムのバリエーション強化のため、座学ではなく体験型の学習を実施するものとした。

鉄道の上手な使い方を体験・学習し、自分の行動を考えてもらうことをねらいとして、鉄道の安全装置の体験、疑似シニア体験、鉄道に関する環境学習等を実施するものとした。

(2) プログラムの内容

1) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.12
交通環境学習 in 寺田小学校

城陽市を走る 鉄道を知ろう!



学校のまわりの鉄道を知ろう

寺田小学校はどこかな?



交通ってなに?

みんなが普段利用する乗り物は?



学校のまわりの鉄道を知ろう



学校のまわりの鉄道を知ろう

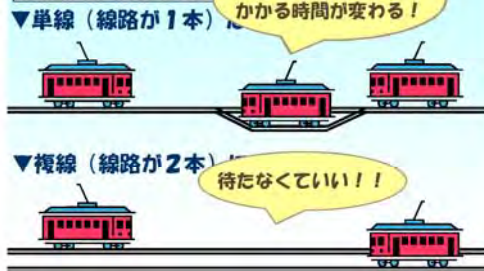
ますます早く行ける!?



鉄道の昔の様子を知ろう

どういふことかといふ

待ち時間によって
かかる時間が変わる!



鉄道の昔の様子を知ろう

昔の奈良線をはしる機関車です!



長池駅あたりで
撮影された写真!

鉄道の昔の様子を知ろう

昔はこんな様子です!



青谷駅で
仮停車中!

鉄道の昔の様子を知ろう

8

昔は京都まで各駅停車でどれくらい時間がかかったんだろう？

- ① 3時間くらい
- ② 1時間くらい
- ③ 30分くらい



今なら京都まで約30分だけど...



鉄道の昔の様子を知ろう

9

山城青谷駅



昭和50年頃



現在



鉄道の昔の様子を知ろう

10

ここはどこでしょう？



鉄道の昔の様子を知ろう

11

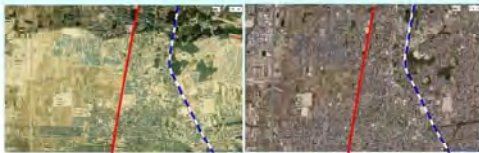
城陽駅



鉄道と地域のつながりを知ろう

12

鉄道とともに地域が発展している！ どう！



鉄道が便利になったことでまちも発展したんだね！



鉄道と地域のつながりを知ろう

13

鉄道はまちの発展を支えている！

鉄道はまちの発展を支えていてとっても重要！



鉄道を支える工夫

14

鉄道はどうやって支えられているんだろう？

地域にとって重要な鉄道についてもっと知ろう！

今日はJR西日本の人に来てもらったのでお話を聞いてみよう！



鉄道を支える工夫

15

JR西日本 車掌の
まつもと よしこ
松本 佳子です。



鉄道を支える工夫

16

鉄道にはどんな仕事があるのかな？



鉄道を支える工夫

17

鉄道を支える私たちの仕事

鉄道には
色々な仕事があります！



鉄道を支える工夫

18

いろいろなきっぷを
販売しています



みどりの窓口

鉄道を支える工夫

19

改札で案内



改札

鉄道を支える工夫

20

お手伝い



ホーム

鉄道を支える工夫

21

鉄道を支える私たちの仕事

運転士・車掌の仕事



運転士・車掌の仕事

鉄道を支える工夫

22

鉄道を支える私たちの仕事

点検・修理の仕事



鉄道を支える工夫 24

車両の仕事

電車を下から点検



電車を分解して点検

鉄道を支える工夫 26

電気の仕事

踏切



こんどつる
転轍機



がせん
架線



信号機



鉄道を支える工夫 28

間接部門の仕事

お金の管理や
駅・乗務員のサポート



指令所の仕



電車の運行を
24時間管理

体験学習 30

体験学習

- ・ 理科室
安全教室・・・非常ボタンの使い方を知る。
(より安全で使いやすい鉄道に！)
- ・ 音楽室
シニア体験・・・体の不自由な人の気持ちを知る。
(誰でも利用しやすい駅に！)
- ・ 調理室
環境学習・・・電車とクルマの違いを知る。
(電車に乗ると地球にやさしい！)

鉄道を支える工夫 25

施設（保線）の仕事

線路の地が引地



安全に走行できるよう
線路を修理



鉄道を支える工夫 27

鉄道を支える私たちの仕事



その他の仕事

鉄道を支える工夫 29

みんなと一緒になれば
より安全な鉄道になります

みんなであえば
駅がもっと快適に！

クルマよりも電車をえば
地球の環境にもやさしい

鉄道を支える工夫 31

鉄道には色々なお仕事があります！



鉄道を支える工夫

32

① 安全教室

- ・非常ボタンの役割って何？
- ・どんな時に押すの？



② シニア体験・バリアフリー教室

- ・バリアフリーって何？
- ・目が見えにくい？高い段差の登り降りがづらい？



③ 環境（かんきょう）学習

- ・なぜ電車は環境にいいの？



みんなにできることって何だろう？

34

① 安全教室

安全に鉄道を利用するために・・・
携帯を見ながら歩かない。ホームや踏切でふざけない。

② シニア体験・バリアフリー教室

お年寄りや妊婦さんや身体の不自由な方がいたら・・・
席をゆずろう。荷物をもってあげよう。声かけをしよう。

③ 環境（かんきょう）学習

出かける時は・・・
(遠くは)電車、(近くは)自転車や歩きで行こう。

鉄道を大切にしよう

36

どんなことができるかな？

みんなにできることはど
んなことか考えてみよう



地域にとって大切な鉄道

35

鉄道は色々な人が利用する、
大切な移動手段！
環境にもやさしい！！

もし、鉄道が無く
なったり、使えなくな
ったら・・・



鉄道を大切にしよう

38

鉄道にはたくさんの人が乗っています！！

→周りの人たちが、気持ちよく利用できるよう、
騒いだり・うるさくしないようにしましょう！

→けいたい電話はマナーモードにして、乗ってい
る時は話さない。

その他にもできることがないかな？

- その他に、鉄道を大切にするために
できること、鉄道で行ってみよう
と思う場所などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみて下さい。



3) 実施体制

体験学習の部分は JR 西日本、近畿運輸局京都支局、京都府が連携して実施し、その他の説明部分は主に京都府が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-7 実施体制(寺田小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒京都府 体験学習 ・導入 ⇒JR 西日本 ・安全施設体験 ⇒JR 西日本 ・疑似シニア体験 ⇒近畿運輸局京都支局 ・環境学習 ⇒京都府 まとめ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

2-1-5 長岡京市・第十小学校

(1) プログラムの概要

地域を支えるバスの役割から、社会のしくみの理解と自分の行動を考えてもらうことを目的として、ノンステップのバス車両を見学し、その工夫点や理由を考えることをコンセプトとした。

(2) プログラムの内容

1) 授業説明用スライド

次頁以降に授業説明用スライドを示す。

2013.10
交通環境学習 in長岡京市第十小学校

長岡京市内を走る バスを知ろう!

交通ってなに?

みんなが普段利用する乗り物は?

バス 電車 車 自転車 歩き

交通ってなに?

バスに乗ったことはある?
どんな時 (どこに行く時) に乗った?

バス 電車 車 自転車 歩き

交通ってなに?

今日はバスについて勉強しよう!

学校のまわりのバスを知ろう

長岡京十小はどこかな?

学校のまわりのバスを知ろう

学校のまわりを走るバス?

長岡京市 第十小学校

バスでどこまで行けるかな?

長岡京市のバスはどこまで広がっているかな?

はっぴバス 北ルート 西ルート

バスでどこまで行けるかな?

これより遠くには、どんなところに行けるかな?

東京(新宿・池袋) 北九州・福岡

名神大山崎から 高速バスで約7時間

バスのことをもっと知ろう！

色々な所に行けるバスは、他にもたくさん良いところがある！

色々な所に行けるバスをよく知ろう！

バスについてもっとよく知ろう！

バスのいろいろ

気づいたことを発表しよう？

- お年寄りの体験
- 環境について
- バスの乗り方教室

バスのいろいろ

①「お年寄りの体験」

- お年寄りや体の不自由な人が座れるように
- 車いすやヘビーカーの人が乗り降りしやすいように
- 車いすやヘビーカーがゆれて動かないように

バスのいろいろ

▽立っている人がつかまも梯

バスが急に止まったりしても転ばないように

バスに乗らなくても運転手さんと話ができるように

バスは環境にも良い

②「環境（地球温暖化）の話」

バスは環境にもやさしい！！

バスは環境にも良い

どうして環境にやさしいのかな？

クルマで10人が移動 バスで10人が移

同じ人数を運ぶ時に出る排気ガスの量が少ない

バスは環境にも良い

バスから出る二酸化炭素の量は、クルマと比べてどれくらいかわかるかな？

歩きや自転車

バスは半分以下！

1人を1km運ぶために排出する二酸化炭素(g)

歩き	約 10g
自転車	約 20g
電車	約 100g
バス	約 50g
クルマ	165g

バスはみんなの乗り物

③「乗り方教室」



誰でも乗り降りする場所が分かるように。

▲バス停

▲バス乗降の時刻表

いつバスが来るのか、どこに行くのかも知るために。

▲方向幕

乗りたいバスかを確認するために。

バスは人にやさしい



色々な人が使いやすいように

環境に良い

バスが、地域の人たちの生活を支えている！

地域にとって大切なバス

だから、地域にとってバスはとても大切！



バスは地域の人たちを支えていて、環境にも優しい！

もし、バスが無くなったり、使いにくかったら…

バスを大切にしよう

どんなことができるかな？

みんなにできることはどんなことか考えてみよう

バスを大切にしよう

バスを使うときは、他の人が**気持ちよく**使えるようにしよう

→周りの人たちが、**気持ちよく利用できるよう**、騒いだり・うるさくしないようにしよう！

→お年寄りや妊婦さん、体が不自由な人が乗ってこられたら**席をゆずろう！**

その他にもできることがないかな？

- その他に、**バスを大切に**するためにできること、**バスで行ってみようと思える場所**などを考えてみよう。
- それぞれ、思いついたことを書いてみて下さい。

2) 実施体制

バス見学の部分は阪急バス、その他の説明部分は主に長岡京市（導入）、京都府（まとめ）が講師を担当することとし、実施体制を検討した。また、小学校の先生には授業に参加していただき、作業のサポート等をしていただいた。

以下に実施体制を示す。

表2-8 実施体制(第十小学校)

講師	導入（地域の概況）⇒長岡京市 バス見学 ⇒阪急バス まとめ ⇒京都府
その他	担任の先生 オリエンタルコンサルタンツ

2-2 家庭へのフィードバックおよび体験学習の検討

2-2-1 目的・ねらい

実践を通じて理解を深めるため、以下のコンセプトでフィードバック(チラシ配布)および宿題を実施した。

- 授業の結果を親にも伝え、家族での実践を促す
- 利用した交通手段について再度考える機会とする

2-2-2 ツールの作成

(1) 家庭向けチラシ(フィードバックシート)

それぞれの授業結果を踏まえて、以下のような構成でフィードバックシートを作成した。

表2-9 フィードバックシートの内容

	項目	主旨(素材)
授業の報告	授業の概要	・構成、趣旨を説明
	授業の様子	・授業実施状況がイメージできる写真を掲載
	結果・効果	・子どもの感想から理解した内容等を整理
実践の後押し	実践の後押し	・家庭での宿題の実施、実際の利用を促すメッセージを記載

1) 亀岡市
(a) 大井小学校

平成25年
11月28日

環境にやさしい物流について勉強しました!!

環境にやさしい物流車両を見学し、自分たちの交通について考えました!

- 亀岡の物流のしくみや、宅急便の様々な車両について勉強し、物流では環境への影響を減らすために様々な工夫がされていることを学びました。
- 人の移動では車よりバスや電車等の公共交通が環境にやさしいことを学び、環境をまもるために自分にもできることを考えました。



▼バス見学の様子



今回の授業ではヤマト運輸(株)の方がトラックなどを持ってきて工夫点の説明をしてくれました!

▼授業で分かったこと・感想

■自分のできること

- ・近くだったら、歩いて行ったり、自転車を使っていく。もし遠いところに行くときはなるべく電車やバスで行くようにする。
- ・あまり遠いところではなく、自分のまちで買い物をすませる。
- ・仕事の人も頑張っているから、暖房とかこたつとかできるだけつけないにしたいと思います。

■授業の感想

- ・車についていろいろな工夫やしくみがわかってよかったです。すごかったです。
- ・どのトラックも、(配達用の)自転車も環境に良かった。自分が知らないことをたくさん知れてよかった。
- ・この授業をして初めてクロネコのマークの意味が分かった。車のガスが出ないようにまちをキレイに心がけて、大井町をキレイにしたい。
- ・自分にもできることがあるから、それを頑張り環境を良くすることを心がけたい。
- ・これからは地球のことを考えて自分のできることをしたい。

よろしければご家庭でも考えてみてください。

- ご家族でも環境をまもるためにできることについて、一緒に考えてみてください。また家庭でのお出かけに、ぜひバスや電車等の公共交通をご利用ください。
- なお、宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

図 2-21 フィードバックシート(大井小学校)

(b) 川東小学校

平成25年
9月19日

川東を走るバスについて勉強しました!!

バス車両を見学し、バスが地域を支えていることを学びました!

- 実際のバス車両を見学し、バスが高齢者や障がいのある人などが安心して使うことができるように様々な工夫がされており、人にやさしい乗り物であることを学びました。
- また、バスは車に比べCO₂の排出量が少ないなど環境にもやさしいことを学びました。
- 地域を支えているバスを大切にするためにできることを考えました。

▼バス見学の様子



今回の授業では、京阪京都交通株式会社の方が校庭にバスを持ってきて工夫点の説明をしてくれました!

▼授業で分かったこと・感想

■バスを大切にするために自分たちにできること

- ・できるだけ亀岡駅周辺にはバスで行く。
- ・バスを荒く使わず大切にきれいに使いたいです。
- ・バスを大切に、車よりバスを使って、乗るときは騒がず静かに使いたいです。通学の時は席を譲ってあげたいです。
- ・車いすに乗った人やベビーカーを押している人がバスに乗っていたら、席を変えてあげたり、車いすに乗っている人の車いすを固定するのを手伝ってあげたいです。

■授業の感想

- ・バスがないと地域の人たちは歩いていかなければいけないので、バスはあるとうれしいと思いました。
- ・1年生の頃から今までずっと乗ってきたバスにも全然知らない工夫とかがたくさんあったし、バスのことがよく分かりました。自分たちにできることもたくさんあるので、できることをたくさんしていきたいです。
- ・いつも普通に乗っているバスに、たくさんの工夫がしてあるんだなあと思いました。車いすの人たちやお年寄りのことも考えて作ったのだなあと思いました。
- ・おもしろかったのでバスに乗りたくなりました。いろいろな工夫があるのがわかったので、お母さんやおばあちゃんに教えてあげたいです。
- ・私のおじいちゃんが元バスの運転手で話は聞いていて、エアサス・スロープ・ミラーぐらいは知ってたけど、またおじいちゃんに話を聞きたいです。

ご家庭でも、一度、バスを利用してみてください!

- ぜひ、秋の行楽等ご家庭でのお出かけにバスを利用してみてください。また、できましたら子どもと一緒にバスの工夫点を探してみてください。
- 宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

※京都府では、11月の土・日・祝日にご家族と一緒にバス利用すると、子どもの料金が無料になる「バス・エコファミリー」を実施します。ご家庭でのお出かけにご活用ください。



図 2-22 フィードバックシート(川東小学校(1/2))

バスのお得なご利用方法はこちら！

各路線の運賃等はホームページ等でご確認ください。

○亀岡市内のバスの運賃○

- 大人（中学生以上）：大人運賃です。各区間の金額は右情報をご確認ください。
- 小児（6歳以上・小学生）：大人運賃の半額です。（10円単位に切り上げ）
- 幼児（1歳以上6歳未満）：大人1名もしくは小児1名につき、幼児2名（特定路線は1人）は無賃、幼児3人目（特定路線は2人目）からはそれぞれ小児運賃となります。
- 乳児（1歳未満）：無賃

定期券について ※コミュニティバスには定期券はありません

定期運賃は、通常運賃で毎日利用した場合に比べて、通勤で30%引き、通学で40%引きが基本となります。3か月・6か月定期（6か月は通勤のみ）の場合はさらに、5%・10%引きとなります。

通勤定期は「持参人式」ですので、ご家族など誰でも利用できます。

◆時刻表・運賃を調べるには

時刻表の配布場所	インターネットで調べるには
<ul style="list-style-type: none"> ●亀岡市役所 市民情報コーナー ●京阪京都交通(株) 亀岡営業所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●亀岡市観光協会 	亀岡市コミュニティバス http://www.city.kamooaka.kyoto.jp/seis/n/kurashi/kurashikotsu/basai/community.html
<ul style="list-style-type: none"> ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●亀岡市観光協会 	亀岡市ふるさとバス http://www.city.kamooaka.kyoto.jp/suis/n/kurashi/kurashikotsu/basui/furusato.html
<ul style="list-style-type: none"> ●京阪京都交通(株) 亀岡営業所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●亀岡市観光協会 	京阪京都交通 http://www.keihankyotokotsu.jp/



色々なカードをうまく使えば、バスをお得に利用できます！

○使用できるカードがたくさんあります○

PiTaPa(ピタパ)

スルッとKANSAIのICカード。ポストペイ(後払い)方式なので事前にチャージ(入金)の必要はありません。(但しJRをご利用の場合は事前にチャージ(入金)が必要です。)1ヶ月間のご利用額で割引率が変動するお得なカードです。



ICOCA(イコカ)

JR日本のICカード。事前にチャージ(入金)が必要です。



京阪グループ 共通バスカード

京阪グループ専用の磁気カード式回数券。バスの中でも購入でき、割引があります。



スルッと KANSAI

スルッとKANSAIの磁気カードです。



電たんバス

土曜・休日に使える1日乗車券(500円)。亀岡市・南丹市域でご利用できます。



券種	発売額	利用可能額
普通カード	1,000円券	1,100円
	2,000円券	2,200円
	3,000円券	3,300円
	5,000円券	5,500円
昼間割引バスカード(11時～18時の乗車時限定)	3,000円券	3,700円
子どもバスカード(小児用)	1,000円券	1,100円

ご利用の量に合わせて、お得にバスをご利用ください！

●たまに利用される場合は…
 昼間のご利用には「昼間割引カード」がお得です。昼間以外も利用される場合で、ひと月の合計額が**1,100円以上**なら各バスカードより「PiTaPa」(利用額割引)がお得です。

～バスカードとPiTaPaとの比較～

種類	利用額(円)	バスカード発売額(円)	PiTaPaお支払額(円)
普通2200	2,200	2,000	1,990
普通3300	3,300	3,000	2,980
普通5600	5,600	5,000	4,990

※バスカードを1ヶ月間に1人で使い切る場合との比較です。
 ※お昼のご利用は昼間割引バスカードが一番お得です。

●通勤等で日常利用される場合は…
 ひと月22日以上利用される場合、通常運賃に比べて1か月定期がお得になります。

また、「PiTaPa」なら、ひと月24日までの利用の場合、一か月定期よりお得です。

～通勤定期券とPiTaPaとの比較～

	利用額(円)	定期券代(円)	PiTaPaお支払額(円)
200円区間	9,600	8,400	8,190
230円区間	11,040	9,660	9,342
240円区間	11,520	10,080	9,726

※各カードご利用時の運賃の詳細情報は、京阪京都交通HP(<http://www.keihankyotokotsu.jp/index.html>)をご確認ください。

○環境定期券制度もご活用ください○

「環境定期券」は、土曜日・休日に京阪京都交通路線をご利用の際に、通勤定期券をお持ちの方と同乗されたご家族(同居されている方に限る)の運賃が大人100円、お子様50円(老の坂峠を越えると大人200円、お子様100円)になる制度です。お休みのご家族でのお出かけにご活用ください。

図 2-23 フィードバックシート(川東小学校(2/2))

(c) 南つつじヶ丘小学校

平成25年
10月22日

南つつじヶ丘を走るバスについて勉強しました!!

バス車両を見学し、バスが地域を支えていることを学びました!

- 実際のバス車両を見学し、バスが高齢者や障がいのある人などが安心して使うことができるように様々な工夫がされており、人にやさしい乗り物であることを学びました。
- また、バスは車に比べCO₂の排出量が少ないなど環境にもやさしいことを学びました。
- 地域を支えているバスを大切にするためにできることを考えました。



▼バス見学の様子



▼授業で分かったこと・感想

今回の授業では、京阪京都交通株式会社の方がバスを持ってきて工夫点の説明をしてくれました!



■バスを大切にするためにできること

- ・妊婦さんやお年寄り、障害のある人に席をゆずってあげたい。
- ・めいわくをかけない。バスの中でうるさくさわいだりしりしない。
- ・天ぷら油をリサイクルしてみたい。
- ・もし自分が車いすの方やおとしよりの方といっしょにバスにのったり、のっている人を見たら、少しでも助けてあげたいです。
- ・大きくなったらバスを使うと思うし、マナーをしっかり守ってバスに乗りたいです。

■授業の感想

- ・電気自動車やバスの勉強は楽しみにしていたのでうれしかったです。2つつながっているバスや天ぷら油で動くバスがあるのはおどろいた。
- ・時こくひょうのみかたが分かって次にのるときに見てみようと思う。
- ・バスはとても人のことを考えてつくられてたので、すごい人思いでいいなと思いました。
- ・車いすの人も、バスに乗れると知ってすごく人の事を考えていることがわかりました。いろんなバスにのってみたいです。今日はいろいろおしえてもらってうれしかったです。
- ・バスの仕くみが分かったから次にのるときに安心してのれる。家族にお話してあげようと思った。
- ・2だんバスなどができればいい。ふくやさんなど店の前に(バス停が)立っていたらいい。

ご家庭でもバスについて考えてみてください。

- ぜひ、秋の行楽等ご家庭でのお出かけにバスを利用してみてください。また、できましたら子どもと一緒にバスの工夫点を探してみてください。
- 宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

※京都府では、11月の土・日・祝日にご家族と一緒にバス利用すると、子どもの料金が無料になる「バス・エコファミリー」を実施します。ご家庭でのお出かけにご活用ください。



図 2-24 フィードバックシート(南つつじヶ丘小学校(1/2))

バスのお得なご利用方法はこちら！

各路線の運賃等はホームページ等でご確認ください。

○亀岡市内のバスの運賃○

- 大人（中学生以上）：大人運賃です。各区間の金額は右情報をご確認ください。
- 小児（6歳以上・小学生）：大人運賃の半額です。（10円単位に切り上げ）
- 幼児（1歳以上6歳未満）：大人1名もしくは小児1名につき、幼児2名（特定路線は1人）は無賃、幼児3人目（特定路線は2人目）からはそれぞれ小児運賃となります。
- 乳児（1歳未満）：無賃

定期券について ※コミュニティバスには定期券はありません

定期運賃は、通常運賃で毎日利用した場合に比べて、通勤で30%引き、通学で40%引きが基本となります。3か月・6か月定期（6か月は通勤のみ）の場合はさらに、5%・10%引きとなります。

通勤定期は「持参人式」ですので、ご家族など誰でも利用できます。

◆時刻表・運賃を調べるには

時刻表の配布場所	インターネットで調べるには
<ul style="list-style-type: none"> ●亀岡市役所 市民情報コーナー ●京阪京都交通(株) 亀岡営業所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●亀岡市観光協会 	<ul style="list-style-type: none"> ●亀岡市コミュニティバス http://www.city.kamoooka.kyoto.jp/sai/n/kurashi/urashi/otau/basufcommunity.html ●亀岡市ふるさとバス http://www.city.kamoooka.kyoto.jp/sai/n/kurashi/urashi/kotsu/basufurusato.html ●京阪京都交通(株) 亀岡営業所 ●京阪京都交通(株) 亀岡駅前案内所 ●亀岡市観光協会



色々なカードをうまく使えば、バスをお得に利用できます！

○使用できるカードがたくさんあります○

PiTaPa(ピタパ)

スルッとKANSAIのICカード。ポストペイ(後払い)方式なので事前にチャージ(入金)の必要はありません。(但しJFをご利用の場合は事前にチャージ(入金)が必要です。)1ヶ月間のご利用額で割引率が変わるお得なカードです。



ICOCA(イコカ)

JR西日本のICカード。事前にチャージ(入金)が必要です。



京阪グループ 共通バスカード

京阪グループ専用の磁気カード回数券。バスの中でも購入でき、割引があります。



スルッと KANSAI

スルッとKANSAIの磁気カードです。



亀たんバス

土曜・休日に使える1日乗車券(500円)。亀岡市・南丹市域でご利用できます。



○環境定期券制度もご活用ください○

「環境定期券」は、土曜日・休日に京阪京都交通路線をご利用の際に、通勤定期券をお持ちの方と同乗されたご家族(同居されている方に限る)の運賃が大人100円、お子様50円(老の坂峠を越えると大人200円、お子様100円)になる制度です。お休みのご家族でのお出かけにご活用ください。

ご利用の量に合わせて、お得にバスをご利用ください！

- たまに利用される場合は… 昼間のご利用には「昼間割引カード」がお得です。昼間以外も利用される場合で、ひと月の合計額が1,100円以上なら各バスカードより「PiTaPa」(利用額割引)がお得です。

～バスカードとPiTaPaとの比較～

種類	利用額(円)	バスカード 発売額(円)	PiTaPa お支払額(円)
普通2200	2,200	2,000	1,990
普通3300	3,300	3,000	2,980
普通5600	5,600	5,000	4,990

※バスカードを1ヶ月間に1人で使い切る場合との比較です。

※お星のご利用は昼間割引バスカードが一番お得です。

- 通勤等で日常利用される場合は… ひと月22日以上利用される場合、通常運賃に比べて1か月定期がお得になります。

また、「PiTaPa」なら、ひと月24日までの利用の場合、一か月定期よりお得です。

～通勤定期券とPiTaPaとの比較～

	利用額(円)	定期券代(円)	PiTaPa お支払額(円)
200円区間	9,600	8,400	8,190
230円区間	11,040	9,660	9,342
240円区間	11,520	10,080	9,726

※各カードご利用時の運賃の詳細情報は、京阪京都交通HP(<http://www.keihankyotokotsu.jp/index.html>)をご確認ください。

図 2-25 フィードバックシート(南つつじヶ丘小学校(2/2))

2) 福知山市

(a) 成仁小学校

平成25年
9月26日

福知山市を走るバスについて勉強しました!!

バス車両を見学し、バスが地域を支えていることを学びました!

- 実際のバス車両を見学し、バスが高齢者や障がいのある人などが安心して使うことができるように様々な工夫がされており、人にやさしい乗り物であることを学びました。
- また、バスは車に比べCO₂の排出量が少ないなど環境にもやさしいことを学びました。
- 地域を支えているバスを大切にするためにできることを考えました。

▼バス見学の様子



▼授業で分かったこと・感想

今回の授業では、京都交通株式会社の方がバスを持ってきて工夫点の説明してくれました!

■バスを大切にするためにできること

- ・バスがなくなったらお年寄りの人が大変だし、車を持っていない人は買い物も行けないので、できるだけバスを使ってバスがなくならないように心掛けたいです。
- ・車5台よりバス1台の方がガスが出る量が少ないと分かったので、バスを使おうと思いました。
- ・社会見学の時ザワザワしたりして運転手の人が運転に集中できないかな?とってしまう時があります。だからバスを大切にしようと思いました。

■授業の感想

- ・バスはみんなのもので誰が乗っても使いやすいようにしてあるからバスはとても便利だと思いました。今日の授業を聞いてこれからはできるだけバスを利用したいです。
- ・車を何台も出してエンジンを使うよりバス1台で行く方がいいなと思いました。また今度バスを利用してみたいなと思いました。私はバスのことを全然知らないけど、乗ったこともあまりないけど、今度絶対使います。
- ・今まであまり使わなかったバスが今日これだけ便利なんだと知りました。これからは移動したりする時にバスで移動したいと思いました。地球にやさしい行動をしたいです。
- ・今までバスに乗ったことはあったけど、バスの良さまではあまり知りませんでした。今日の授業でバスの便利さや良さを知ってこれからはバスを利用したいです。今日はバスの良さを知ることができてよかったです。

ご家庭でもバスについて考えてみてください。

- ぜひ、秋の行楽等ご家庭でのお出かけにバスを利用してみてください。また、できましたら子どもと一緒にバスの工夫点を探してみてください。
- 宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

※京都府では、11月の土・日・祝日にご家族と一緒にバス利用すると、子どもの料金が無料になる「バス・エコファミリー」を実施します。ご家庭でのお出かけにご活用ください。



図 2-26 フィードバックシート(成仁小学校)

(b) 美鈴小学校

平成25年
9月30日

福知山市を走るバスについて勉強しました!!

バス車両を見学し、バスが地域を支えていることを学びました!

- 実際のバス車両を見学し、バスが高齢者や障がいのある人などが安心して使うことができるように様々な工夫がされており、人にやさしい乗り物であることを学びました。
- また、バスは車に比べCO₂の排出量が少ないなど環境にもやさしいことを学びました。
- 地域を支えているバスを大切にするためにできることを考えました。

▼バス見学の様子



今回の授業では、京都交通様の方がバスを持ってきて工夫点の説明をしてくれました!

▼授業で分かったこと・感想

■バスを大切にするためにできること

- ・席を譲ってもらうのではなく譲ってあげる。自分が座っていたところでもおじいさんやおばさんがバスに乗ってきたら席を譲ってあげるようにしたいです。
- ・車をなるべく使わないで、自転車や歩きで移動したりする。バスや電車でもいい。お年寄りの人をいたわるようにしたい。
- ・自分たちに来ることはお年寄りや体の不自由な人たちに席を譲ることです。自分から席をかわれるようにしたいです。それと、バスに乗る時はうるさくしないで、ほかの乗っている人に迷惑にならないようにしたいです。どんな人も簡単に利用できるようにしたいです。

■授業の感想

- ・車いすを押す人は重たいんだなあと思いました。
- ・体や目や耳が不自由だったりする人がいて、運転手さんはその人をバスに乗せるために支えているのですごいなあと思いました。ちょっとバスの運転手さんになりたいなあと思いました。
- ・バスの中にはバリアフリーがたくさんあって、私が知らないことがたくさんあってビックリしたし、私はほんちょに乗ったことがないので乗ってみたいです。
- ・今日バスのことがわかって本当に良かったです。バスに興味をちょっとでも持てました。

ご家庭でもバスについて考えてみてください。

- ぜひ、秋の行楽等ご家庭でのお出かけにバスを利用してみてください。
- また、できましたら子どもと一緒にバスの工夫点を探してみてください。
- 宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

※京都府では、11月の土・日・祝日にご家族と一緒にバス利用すると、子どもの料金が無料になる「バス・エコファミリー」を実施します。ご家庭でのお出かけにご活用ください。



図 2-27 フィードバックシート(美鈴小学校)

平成25年
9月30日

福知山市を走るバスについて勉強しました!!

バス車両を見学し、バスが地域を支えていることを学びました!

- 実際のバス車両を見学し、バスが高齢者や障がいのある人などが安心して使うことができるように様々な工夫がされており、人にやさしい乗り物であることを学びました。
- また、バスは車に比べCO₂の排出量が少ないなど環境にもやさしいことを学びました。
- 地域を支えているバスを大切にするためにできることを考えました。

▼バス見学の様子



今回の授業では、京都交通株
の方がバスを持ってきて工夫点の
説明をしてくれました!

▼授業で分かったこと・感想

■バスを大切にするためにできること

- ・みんなでバスに乗ってみたいです。
- ・騒がしくしたりはしゃいだりしないようにする。バスのマナーをちゃんと守るようにする。
- ・お年寄りの人やけがをしている人などがバスに乗ってきたら、席を譲ったりして優しくしてあげたいです。

■授業の感想

- ・バスのことがいっぱい知れてよかったです。タイヤがいっぱいついてた。
- ・本物のバスが来てビックリしました。バスのことがいっぱい分かりました。バスに乗りたいです。
- ・これから遠い所に行く時、できたらバスで行きたいです。
- ・今日はバスについていろんな工夫やマナーを教えてもらって、これから乗ることがあったらマナーを守って乗るように心掛けたいです。
- ・バスの仕組みや色々体験できたし、車いすの体験で重かったけどいいことが分かってよかったです。

ご家庭でもバスについて考えてみてください。

- ぜひ、秋の行楽等ご家庭でのお出かけにバスを利用してみてください。
また、できましたら子どもと一緒にバスの工夫点を探してみてください。
- 宿題シートの裏に保護者様向けのアンケートがありますので、お手数ですがご回答をお願いします。

※京都府では、11月の土・日・祝日にご家族と一緒にバス利用すると、子どもの料金が無料になる「バス・エコファミリー」を実施します。ご家庭でのお出かけにご活用ください。



図 2-28 フィードバックシート(川合小学校)

(2) 宿題シート

授業を振り返り理解を深めるため、以下のような宿題シートを作成した。

表2-10 宿題シートの内容

	内容
授業の振り返り	• 授業で提示した内容のおさらいをする問題
実践・理解を深める	• 授業では出てこなかった内容の問題 (親と考えることを促す) • バスや電車を利用して再度考えてもらう問題

1) 亀岡市

(a) 大井小学校

宿題シート

物流の工夫についてお家の人と一緒に考えよう!

_____ 番 氏名 _____

●物流のトラックなどを見学して学んだことを復習しましょう!
→トラックには環境を守るためにどんな工夫があったかを思い出してみよう!
→環境をまもるために、自分にどんなことができるか、お家の人と一緒に考えてみよう!

(1) 環境を守るためにトラックにはどんな工夫があったか、写真を見て思い出してみよう!	
	どんな工夫があったかな?

(2) 自分にどんなことができるかお家の人と一緒に考えよう!

--

図 2-29 宿題シート(大井小学校)

(b) 川東小学校

宿題シート

地域を支えるバスの工夫についてお家の人と一緒に考えよう！

番 氏名 _____

●交通環境学習でバスを見学して学んだことを復習しましょう！

→見学したバスにはどんな工夫があったか、何のための工夫だったかを思い出してみよう！

→バスに乗ってみて、バスにどんな工夫点があるかをお家の人と一緒に考えてみよう！

(1) いろいろな人が利用できるようにするためにバスにはどんな工夫があったか思い出してみよう！

	どんな工夫があったかな？	なぜ、そうなっているのかな？
		
		
		

(2) バスには他にどんな工夫があるかを考えてみよう！

※お家の人と一緒に考えよう

○バスに乗って、他にどんな工夫があるか探してみよう！また、みんながバスをもっと安全で便利に使えるようにするために、どうしたらいいかも考えてみよう！

図 2-30 宿題シート(川東小学校)

(c) 南つつじヶ丘小学校

宿題シート

地域を支えるバスの工夫についてお家の人と一緒に考えよう！

番 氏名 _____

●交通環境学習でバスを見学して学んだことを復習しましょう！

→見学したバスにはどんな工夫があったか、何のための工夫だったかを思い出してみよう！

→バスに乗ってみて、バスにどんな工夫点があるかをお家の人と一緒に考えてみよう！

(1) いろいろな人が利用できるようにするためにバスにはどんな工夫があったか思い出してみよう！

	どんな工夫があったかな？	なぜ、そうなっているのかな？
		
		

(2) バスには他にどんな工夫があるかを考えてみよう！

※お家の人と一緒に考えよう

○バスに乗って、他にどんな工夫があるか探してみよう！また、みんながバスをもっと安全で便利に使えるようにするために、どうしたらいいかも考えてみよう！

図 2-31 宿題シート(南つつじ小学校)

2) 福知山市

(a) 成仁小学校

宿題シート

地域を支えるバスの工夫についてお家の人と一緒に考えよう!

番 氏名 _____

●交通環境学習でバスを見学して学んだことを復習しましょう!

→見学したバスにはどんな工夫があったか、何のための工夫だったかを思い出してみよう!

→バスに乗ってみて、バスにどんな工夫点があるかをお家の人と一緒に考えてみよう!

(1) いろいろな人が利用できるようにするためにバスにはどんな工夫があったか思い出してみよう!



どんな工夫があったかな?

なぜ、そうなっているのかな?

(2) バスには他にどんな工夫があるかを考えてみよう!

※お家の人と一緒に考えよう

○バスに乗って、他にどんな工夫があるか探してみよう! また、みんながバスをもっと安全で便利に使えるようにするために、どうしたらいいかも考えてみよう!

図 2-32 宿題シート(成仁小学校)

(b) 美鈴小学校

宿題シート

地域を支えるバスの工夫についてお家の人と一緒に考えよう！

番 氏名 _____

●交通環境学習でバスを見学して学んだことを復習しましょう！

→見学したバスにはどんな工夫があったか、何のための工夫だったかを思い出してみよう！

→バスに乗ってみて、バスにどんな工夫点があるかをお家の人と一緒に考えてみよう！

(1) いろいろな人が利用できるようにするためにバスにはどんな工夫があったか思い出してみよう！

	どんな工夫があったかな？	なぜ、そうなっているのかな？
		
		

(2) バスには他にどんな工夫があるかを考えてみよう！

※お家の人と一緒に考えよう

○バスに乗って、他にどんな工夫があるか探してみよう！また、みんながバスをもっと安全で便利に使えるようにするために、どうしたらいいかも考えてみよう！

図 2-33 宿題シート(美鈴小学校)

(c) 川合小学校

宿題シート

地域を支えるバスの工夫についてお家の人と一緒に考えよう！


番 氏名 _____

●交通環境学習でバスを見学して学んだことを復習しましょう！

→見学したバスにはどんな工夫があったか、何のための工夫だったかを思い出してみよう！

→バスに乗ってみて、バスにどんな工夫点があるかをお家の人と一緒に考えてみよう！

(1) いろいろな人が利用できるようにするためにバスにはどんな工夫があったか思い出してみよう！

	どんな工夫があったかな？	なぜ、そうなっているのかな？
		
		

(2) バスには他にどんな工夫があるかを考えてみよう！

※お家の人と一緒に考えよう

○バスに乗って、他にどんな工夫があるか探してみよう！また、みんながバスをもっと安全で便利に使えるようにするために、どうしたらいいかも考えてみよう！

図 2-34 宿題シート(川合小学校)

2-3 バスを使った見学プログラムの検討

(1) 目的

久御山町などで、コミュニティバスを使った生活科・社会科の見学が実施されている。現在は、施設までの移動にコミュニティバスを利用するのみで、H24 の中学生アンケートの結果では認知度の向上や公共交通への興味には効果が見られるが、実際の行動やマナー向上の効果は見られない結果となっている。

そのため、これをより効果的なものとするプログラムを検討した。

(2) プログラムの考え方

1) ねらい

生活科や社会科のテーマとして「地域に関心を持ち自分との関わりを理解すること」、「社会生活についての理解を図り、公民的資質を養う」等が掲げられている。

これに対し、地域をつなぐバスを活用する場合、「地域と自分のつながりについて理解を深める」ことが求められると考えられる。

これをねらいとして、教育面でも実践面でも効果を高められるような内容となるよう検討した。

2) 対象

2年生（生活科）・5年生（社会科）において、バスを活用したまちや施設見学の際に併せて実施できるプログラムとした。

3) 形態

見学のバス乗車前後の学習（動機づけ、まとめ）や、乗車時のワークを追加することで理解を深められるような形態を検討した。

(3) プログラムのイメージ

1) テーマ

地域と自分のつながりについて理解を深めることをねらいとして、学年の理解度を踏まえて以下のようにテーマを設定した。

【2年生】まちと自分がつながっていることを知る

【5年生】まちや地域の人々とのつながり方を知る

2) 骨子イメージ

上記を踏まえ、2年・5年での骨子を検討するとともに、実施可能性の高い2年生で活用するワークシート案を作成した。

表 2-11 バス見学への組み込みの骨子

		主旨	2年生・生活科	5年生・社会科	備考
テーマ		—	まちと自分がつながっていることを知る	まちや地域の人々とのつながり方を知る（共有の理解）	
概要	見学前	<ul style="list-style-type: none"> 興味、イメージを沸かせる 何をやるか意識づける 	<ul style="list-style-type: none"> ●バスについて <ul style="list-style-type: none"> 大きな車両、みんなが一緒に乗る いろんなところに行く、停まる ●導入 <ul style="list-style-type: none"> 今度の見学に利用する どんな人が利用していて、ところに行けるのか観察してみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ●バスについて <ul style="list-style-type: none"> 交通手段の一つ みんなが一緒に利用する いろんな箇所に行ける ●導入 <ul style="list-style-type: none"> 今度の見学に利用する どんな人が利用していて、ところに行けるのか観察してみよう 	
	乗車時	<ul style="list-style-type: none"> 観察を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察 <ul style="list-style-type: none"> バスが通ったところや停まったバス停の近くに何かあったか どんな人が乗ってきたか 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察・考察 <ul style="list-style-type: none"> バスの本数・時間（乗車時にバス停で確認） バス停周辺の施設（地図に記入？） バスの中の工夫 どんな人が利用しているか それぞれの理由 	
	見学後	<ul style="list-style-type: none"> ポイントの共有確認 理解を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返り <ul style="list-style-type: none"> 何かあったか、どんな人が乗ってきたかを発表 ●まとめ <ul style="list-style-type: none"> バスは色々な所に行ける（色々な人が使う）乗り物 みんなと地域が（バスで）つながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返り <ul style="list-style-type: none"> 時刻表の理由、走行ルート、設備の工夫点等について意見交換 ●まとめ <ul style="list-style-type: none"> みんなはバスで〇〇に行くことができた 同時に他の人たちも色々な目的で、色々な場所に行けるようになっている 地域の人と一緒に利用できるように、ルートも車両もつくられている みんなで共有できるしくみがあるおかげで、あたなと地域はうまくつながっている 	



のってこバスに乗ってみよう！

●のってこバスを知ってるかな？

なんにんの
何人乗れるかな？



どんな時に乗るかな？
どんな人が使っているかな？

●バスに乗るときには…

○うるさくしないようにしよう

○お年よりや体の不自由な人がきたら席をゆずろう

◎バスの中やまわりをよく見よう！

⇒どんな人が利用しているかな？

⇒どんな所を通るかな？

◎はっけんカードに書いてみよう！



図 2-35 2年生向けワークシート(イメージ)(1/3)



バスはっけんカード

月 日 番号 () 名前 ()

バスがとお通ったところ所には何があったかな？

どんな人ひとが乗のってきたかな？

バスのき好きなところをみ見つけよう！

図 2-36 2年生向けワークシート(イメージ)(2/3)



みんなの生活をささえるのってこバス

● どのな所^{ところ}に行けたか、どのな人^{ひと}が使^{つか}っていたか、思い出^{おも}してみよう



どのなものがあつたかな？



どのな人^{ひと}が使^{つか}っていたかな？



どのな所^{ところ}を通^{とお}つたかな？

● バスをもつと使^{つか}ってみよう！

○ イオンや図書館^{としょかん}、近鉄大久保駅^{きんてつおおくほえき}にも行ける
 ○ 買い物^{かいもの}の人^{ひと}や病院^{びょういん}に行くお年^{いとし}よりなども使^{つか}っている
 ⇒ バスがみんなとまちやまちの人^{ひと}たちをつないでいる！

→ おうちの人^{ひと}にバスにのつたことを話^{はな}してみよう！

→ バスを使^{つか}っているろんなところ^{ところ}に行^いってみよう！



図 2-37 2年生向けワークシート(イメージ)(3/3)

3. 実施時の補助

3-1 授業の実施

2章に示した9校について実施の補助を行った。以降に実施状況を示す。

3-1-1 亀岡市

(1) 大井小学校

1) 実施状況

平成 25 年 11 月 28 日（木）に大井小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。

<p>①導入</p> 
<p>②見学</p> 
<p>③まとめ</p> 

図 3-1 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-1 授業の主な感想

	児童の主な感想
自分にできること	<ul style="list-style-type: none">• 近くだったら、歩いて行ったり、自転車を使っていく。もし遠いところに行くときはなるべく電車やバスで行くようにする。• あまり遠いところではなく、自分のまちで買い物をすませる。• 仕事の人もしっかりしているから、暖房とかこたつとかできるだけつけないようにしたいと思います。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none">• 車についていろいろな工夫やしくみがわかってよかったです。すごいと思いました。• どのトラックも、(配達用の)自転車も環境に良かった。自分が知らないことをたくさん知れてよかった。• この授業をして初めてクロネコのマークの意味が分かった。車のガスが出ないようにまちをキレイに心がけて、大井町をキレイにしたい。• 自分にもできることがあるから、それを頑張り環境を良くすることを心がけたい。• これからは地球のことを考えて自分でできることをしたい。

(2) 川東小学校

1) 実施状況

平成 25 年 9 月 19 日（木）に川東小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-2 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-2 授業の主な感想

	児童の主な感想
バスを大切にするために自分たちにできること	<ul style="list-style-type: none"> • できるだけ亀岡駅周辺にはバスで行く。 • バスを荒く使わず大切にきれいに使いたいです。 • バスを大切に、車よりバスを使って、乗るときは騒がず静かにしたいです。通学の時は席を譲ってあげたいです。 • 車いすに乗った人やベビーカーを押している人がバスに乗っていたら、席を変わってあげたり、車いすに乗っている人の車いすを固定するのを手伝ってあげたいです。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none"> • バスがないと地域の人たちは歩いていかなければいけないので、バスはあるとうれしいと思いました。 • 1年生の頃から今までずっと乗ってきたバスにも全然知らない工夫とかがたくさんあったし、バスのことがよく分かりました。自分たちにできることもたくさんあるので、できることをたくさんしていきたいです。 • いつも普通に乘っているバスに、たくさんの工夫がしてあるんだなあと思いました。車いすの人たちやお年寄りのことも考えて作ったのだなあと思いました。 • おもしろかったのでバスに乗りたくなりました。いろいろな工夫があるのがわかったので、お母さんやおばあちゃんに教えてあげたいです。 • 私のおじいちゃんが元バスの運転手で話は聞いていて、エアサス・スロープ・ミラーぐらいは知ってたけど、またおじいちゃんに話を聞きたいです。

(3) 南つつじヶ丘小学校

1) 実施状況

平成 25 年 10 月 22 (火) に南つつじヶ丘小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-3 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-3 授業の主な感想

	児童の主な感想
バスを大切にすることのためにできること	<ul style="list-style-type: none">• 妊婦さんやお年寄り、障害のある人に席をゆずってあげたい。• めいわくをかけない。バスの中でうるさくさわいだりしたりしない。• 天ぷら油をリサイクルしてみたい。• もし自分が車いすの方やおとしよりの方といっしょにバスにのったり、のっている人を見たら、少しでも助けてあげたいです。• 大きくなったらバスを使うと思うし、マナーをしっかり守ってバスに乗りたいです。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none">• 電気自動車やバスの勉強は楽しみにしていたのでうれしかったです。2 つつながっているバスや天ぷら油で動くバスがあるのはおどろいた。• 時こくひょうのみかたが分かって次にのるときに見てみようと思う。• バスはとても人のことを考えてつくられてたので、すごい人思いでいいなと思いました。• 車いすの方も、バスに乗れると知ってすごく人の事を考えていることがわかりました。いろんなバスにのってみたいです。今日はいろいろおしえてもらってうれしかったです。• バスの仕くみが分かったから次にのるときに安心してのれる。家族にお話してあげようと思った。• 2だんバスなどができればいい。ふくやさんなど店の前に（バス停が）立っていたらいい。

3-1-2 福知山市

(1) 成仁小学校

1) 実施状況

平成 25 年 9 月 26 日（木）に成仁小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-4 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-4 授業の主な感想

	児童の主な感想
バスを大切にすることのためにできること	<ul style="list-style-type: none">• バスがなくなったらお年寄りの人が大変だし、車を持っていない人は買い物も行けないので、できるだけバスを使ってバスがなくならないように心掛けたいです。• 車5台よりバス1台の方がガスの出る量が少ないと分かったので、バスを使おうと思いました。• 社会見学の時ザワザワしたりして運転手の人が運転に集中できないかな?とってしまう時があります。だからバスを大切にしようと思いました。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none">• バスはみんなのもので誰が乗っても使いやすいようにしてあるからバスはとても便利だと思いました。今日の授業を聞いてこれからはできるだけバスを利用したいです。• 車を何台も出してエンジンを使うよりバス1台で行く方がいいなと思いました。また今度バスを利用してみたいなと思いました。私はバスのことを全然知らないけど、乗ったこともあまりないけど、今度絶対使います。• 今まであまり使わなかったバスが今日これだけ便利なんだと知りました。これからは移動したりする時にバスで移動したいと思いました。地球にやさしい行動をしたいです。• 今までバスに乗ったことはあったけど、バスの良さまではあまり知りませんでした。今日の授業でバスの便利さや良さを知ってこれからはバスを利用したいです。今日はバスの良さを知ることができてよかったです。

(2) 美鈴小学校

1) 実施状況

平成 25 年 9 月 30 日（月）に美鈴小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-5 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-5 授業の主な感想

	児童の主な感想
バスを大切にすることのためにできること	<ul style="list-style-type: none">• 席を譲ってもらうのではなく譲ってあげる。自分が座っていたところでもおじいさんやおばあさんがバスに乗ってきたら席を譲ってあげるようにしたいです。• 車をなるべく使わないで、自転車や歩きで移動したりする。バスや電車でもいい。お年寄りの人をいたわるようにしたい。• 自分たちに出来ることはお年寄りや体の不自由な人たちに席を譲ることです。自分から席をかわれるようにしたいです。それと、バスに乗る時はうるさくしないで、ほかの乗っている人に迷惑にならないようにしたいです。どんな人も簡単に利用できるようにしたいです。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none">• 車いすを押す人は重たいんだなあと思いました。• 体や目や耳が不自由だったりする人がいて、運転手さんはその人をバスに乗せるために支えているのすごいなあと思いました。ちょっとバスの運転手さんになりたいなあと思いました。• バスの中にはバリアフリーがたくさんあって、私が知らないことがたくさんあってビックリしたし、私はほんちょに乗ったことがないので乗ってみたいです。• 今日バスのことがわかって本当に良かったです。バスに興味をちょっとでも持てました。

(3) 川合小学校

1) 実施状況

平成 25 年 9 月 30 日（月）に川合小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-6 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-6 授業の主な感想

	児童の主な感想
バスを大切にすること ためにできること	<ul style="list-style-type: none">• みんなでバスに乗ってみたいです。• 騒がしくしたりはしゃいだりしないようにする。バスのマナーをちゃんと守るようにする。• お年寄りの人やけがをしている人などがバスに乗ってきたら、席を譲ったりして優しくしてあげたいです。
授業の感想	<ul style="list-style-type: none">• バスのことがいっぱい知れてよかったです。タイヤがいっぱいついていました。• 本物のバスが来てビックリしました。バスのことがいっぱい分かりました。バスに乗りたいです。• これから遠い所に行く時、できたらバスで行きたいです。• 今日はバスについていろんな工夫やマナーを教えてもらって、これから乗ることがあったらマナーを守って乗るように心掛けたいです。• バスの仕組みや色々体験できたし、車いすの体験で重かったけどいいことが分かってよかったです。

3-1-3 城陽市

(1) 寺田小学校

1) 実施状況

平成 25 年 12 月 19 日（木）に寺田小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-7 授業の実施状況

2) 実施結果

授業時の児童の主な感想・コメントを以下に示す。

表3-7 授業の主な感想

	児童の主な感想
人の気持ちの理解に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・目が見えない人はとなりに人がいて誘導してくれててもすごく怖いんだなと分かりました。 ・アイマスク体験で段差がとても怖かった。「目が見えてよかった」と思った。 ・目の見えない人はどんなに暗くて不安なのかということも分かりました。特にアイマスクをしていると、階段がとても不安でした。絶対1人ではアイマスクをつけたまま歩きたくないなと思いました。 ・非常ボタンなどの設備のことや障害のある人やお年寄りの人の気持ちに少しなれました。そういう授業をととても楽しくしてもらった。 ・おじいさん・おばあさんの気持ちが分かった。おじいさん・おばあさんは頑張って歩いていることが分かった。 ・目が不自由な人がすごく悲しいなあとと思いました。なので絶対目が不自由な人がいたら助けたいと思います。
鉄道を通じた地域への理解についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・電車にはいろいろな関わりがあるんだなと思いました。 ・電車はいろいろな人がいて動いているんだなと思いました。
鉄道を上手に使うための自分の行動についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・実用的なことを教えていただきとてもためになった。 ・今日交通安全の授業があって自分にもできることがあるんだと思いました。おばあさんかおじいさんを助けられるなんて初めて知りました。 ・電車に乗る時今日のことを思い出して乗ろうと思う。 ・目が見えない人がいたら、荷物などを持ってあげたり、となりに一緒にいてあげたりすること。もし駅のホームや踏切で危ないことがあったら、非常ボタンを押してあげること。困っている人がいたら自分から声をかけてあげること。
鉄道に対する興味についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が電車のことを全然知らなかったなのでこの授業で電車の良い点分かってよかったです。排出ガスの量が車だとすごく電車より多いことが分かり、できるだけ車を使用しない方がいいと思う。 ・車掌さんがやっていることがよく分かりました。 ・電車の仕事もいろいろあるんだと思いました。 ・電車は今日勉強初め、正直全然興味はありませんでした。でも今勉強を終えて好きになりました。 ・昔のJRの様子や、電車に関係するいろいろな仕事とその内容分かってよかった。

(2) 富野小学校

1) 実施状況

平成 26 年 1 月 23 日（木）に富野小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図 3-8 授業の実施状況

2) マイスターバッジ

実施環境を視覚化するためのグッズとして、マイスターバッジを試作し授業後配布した。



図 3-9 マイスターバッジ

3-1-4 長岡京市・第十小学校

平成 25 年 10 月 3 日（木）に第十小学校での授業を実施した。
以下に授業の実施状況を示す。



図3-10 授業の実施状況

3-2 家庭へのフィードバックおよび体験学習の実施

2章に示した6校について、授業実施後に家庭向けチラシおよび宿題シートを作成し、各家庭に配布した。

表 3-8 家庭向けのフィードバックおよび体験学習の実施

		実施時期
亀岡市	大井小学校	平成 25 年 12 月ごろ
	川東小学校	平成 25 年 10 月ごろ
	南つつじ小学校	平成 25 年 11 月ごろ
福知山市	成仁小学校	平成 25 年 10 月ごろ
	美鈴小学校	平成 25 年 10 月ごろ
	川合小学校	平成 25 年 10 月ごろ

3-3 バスを使った見学プログラム

久御山町で今年度体験乗車を実施予定であった東角小学校、佐山小学校の2校に対して、2章で示したワークシートの説明、資料提供を行い実施していただいた。

次頁に、各校への説明・資料提供時の議事録を示す。

1) 東角小学校への説明・資料提供

打ち合わせメモ

日 付 平成 25 年 8 月 28 日 (水)

場 所 東角小学校

出席者 東角小学校／谷口教頭、教諭 2 名 (2 年生)
京都府／馬籠主事
OC／土崎

1. バス利用見学での資料活用について

- ・ 2 年生の生活科で年 2 回のってこバスを利用している。今年は秋見つけを 2 学期に実施し、バスに乗ることをメインにした体験を 3 学期に実施する予定である。
- ・ これまでも、バスをメインにした体験の時には、簡単なワークシートを作成し配布していた。
- ・ この体験では、毎年町役場まで行っているが、町役場でバスの待ち時間がある。その時間に、乗務員の方をお願いしてバスの説明をしてもらったり、インタビューさせてもらっている。
- ・ また、マナー等の話も乗車前に簡単にしているが、実際に一般の方が乗車してくることも少なく、あまりその点はしっかりと学習できていない。
- ・ 2 年生では自分のノートに色々な事を書くのは難しい。2 年の生活科では、いろんなものをワークシートに書いて残している。生活科では地域のことを学習することが多いが、学校には写真等の資料がなくて困ることが多い。このような資料があるとありがたい。
- ・ 内容も、体験・見学を行う際の資料としては、一般的な流れを押しえられていると思う。

2. その他

- ・ 今年度 3 学期の体験に活用することとする。実施する 1 カ月くらい前までに、修正の依頼があれば連絡する。
- ・ 実施後、先生より感想や課題について意見を頂くタイミングを設ける。

以 上

2) 佐山小学校への説明

打ち合わせメモ

日 付 平成 25 年 8 月 28 日 (水)

場 所 佐山小学校

出席者 佐山小学校/教頭

京都府/馬籠主事

OC/土崎

1. バス利用見学での資料活用について

- ・今年度は2年生でのってこバスを利用することを計画している。
- ・担任にも確認しており、このようなワークシートを試用することは可能である。

2. その他

- ・修正の依頼があれば連絡する。
- ・実施後、先生より感想や課題について意見を頂くタイミングを設ける。ワークシートの回収等を行わない予定とする。

以 上

4. 効果の検証

4-1 実施したプログラムの評価

4-1-1 評価の考え方

授業の評価として、受講した児童の感想だけでなく、周囲の大人の視点からの効果を把握するとともに、課題を把握することを目的として、家庭へのアンケート、学校の先生・事業者・自治体へのヒアリング調査を実施した。

表4-1 調査対象と内容

	把握した内容
家庭へのアンケート	<ul style="list-style-type: none">・家庭での内容の伝わり方・親の視点からの評価・親への啓発効果
先生へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none">・授業の感想・評価・今後の取り組みについて
事業者へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none">・授業の感想・今後の取り組みについて
自治体ヒアリング	<ul style="list-style-type: none">・授業の感想・今後の取り組みについて

4-1-2 家庭へのアンケート調査

(1) アンケートの内容

家庭での内容の伝わり方や親の視点からの評価、親への啓発効果等を把握することを目的に、以下のようなアンケートを実施した。

なお、授業の内容について評価をしてもらうため、フィードバックシートと一緒に配布（宿題の裏面に印刷）して実施した。

表4-2 アンケートの内容

	質問
授業後の状況について	<ul style="list-style-type: none">•（授業で実施した）様々な工夫や仕事をご存知でしたか？•お子さんと交通環境学習についてのお話をされましたか？•お子さんから、鉄道に乗ってみたい等のお願いをされましたか？•ご家族で公共交通などを利用して外出された際に、お子さんが周りの人に配慮するようになったなどの変化はあったと思いますか？
鉄道やバスの利用について	<ul style="list-style-type: none">•今回の授業を通じて事業者に対するイメージは変化しましたか？•このような授業が学校で実施されて良かったと思いますか？•普段バスや鉄道を利用されますか？•今後、鉄道その交通手段の利用を実際にしてみようと思われませんか？•自由記述

(2) アンケート票

1) バスプログラム(川東・南つつじヶ丘・成仁・美鈴・川合)

交通環境学習(バス見学等)に関するアンケート

今後、交通環境学習を効果的に進めていくため、保護者様のご意見をお伺いします。授業のチラシやお子さんが回答した宿題等をご覧になり、ご回答をお願いいたします。

亀岡市政策推進課・京都府交通政策課

(1) バスに様々な工夫がされていることはご存知でしたか？

知っていた 授業のチラシを見て知った 子供から聞いて知った

(2) お子さんとバス見学や交通環境学習についてのお話をされましたか？

した
 していない

→ どのような話をされましたか？

(3) お子さんから、バスに乗ってみたい等のお願いをされましたか？

お願いされて乗った お願いされたが乗っていない お願いされていない

(4) ご家族で公共交通などを利用して外出された際に、お子さんが周りの人に配慮するようになったなどの変化はあったと思いますか？

思う 少し思う わからない あまり思わない 思わない

何故そう
思われますか？

→ どのような話をされましたか？

(5) 今回の授業を通じて京阪京都交通圏に対するイメージは変化しましたか？

良くなった 少し良くなった 変わらない 少し悪くなった 悪くなった

(6) このような授業が学校で実施されて良かったと思いますか？

思う 少し思う わからない あまり思わない 思わない

(7) 普段、ご家族でバスを利用されることはありますか？

よく利用する たまに利用する ほとんど利用しない 全く利用しない

(8) 今後、ご家族でバスを利用してみようと思いますか？

思う 少し思う わからない あまり思わない 思わない

(9) 今回の授業等に対するご感想、このような取り組みに関するご意見等がございましたらご記入ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2) 物流プログラム(大井)

交通環境学習(物流車両見学等)に関するアンケート

今後、交通環境学習を効果的に進めていくため、保護者様のご意見をお伺いします。授業のチラシやお子さんが回答した宿題等をご覧になり、ご回答をお願いいたします。

亀岡市政策推進課・京都府交通政策課

(1) 物流の車両に様々な工夫がされていることはご存知でしたか？

知っていた 授業のチラシを見て知った 子供から聞いて知った

(2) お子さんとの授業について(物流の車両見学等)お話をされましたか？

した していない

→ どのような話をされましたか？

(3) お子さんから、バスや電車に乗ってみたい等のお願いをされましたか？

お願いされて乗った お願いされたが乗っていない お願いされていない

(4) 今回の授業を通じてヤマト運輸に対するイメージは変化しましたか？

良くなった 少し良くなった 変わらない 少し悪くなった 悪くなった

(5) このような授業が学校で実施されて良かったと思いますか？

思う 少し思う わからない あまり思わない 思わない

(6) 普段、ご家族でバスや電車を利用されることはありますか？

よく利用する たまに利用する ほとんど利用しない 全く利用しない

(7) 今後、ご家族でバスや電車を利用してみようと思いますか？

思う 少し思う わからない あまり思わない 思わない

(8) 今回の授業等に対するご感想、このような取り組みに関するご意見等がございましたらご記入ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

(3) アンケート実施結果

1) 亀岡市

(a) 大井小学校

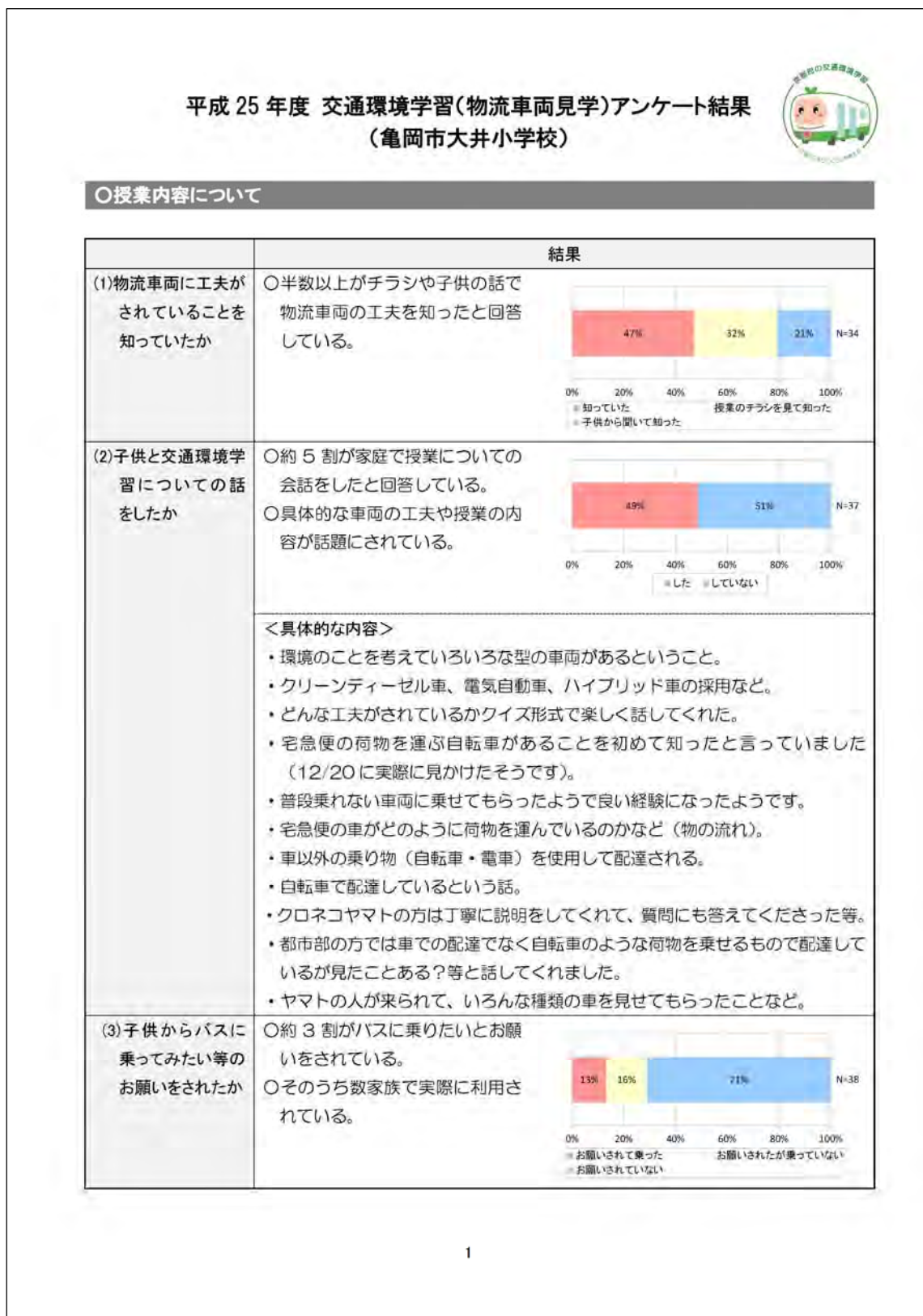


図 4-1 アンケート実施結果(大井小学校(1/3))

○バスや電車の利用等について

		結果
(4)ヤマト運輸に対するイメージは変化しましたか	○5 割以上がイメージが向上したと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>● 悪くなった ● 少し悪くなった ● 変わらない ● 少し良くなった ● 良くなった</p>
(5)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	○約 9 割がこの授業が実施されて良かったと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>● 思う ● 少し思う ● わからない ● あまり思わない ● 思わない</p>
(6)普段家族でバスや電車を利用することはあるか	○約 6 割が普段からバスや電車を利用すると回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>● よく利用する ● たまに利用する ● ほとんど利用しない ● 全く利用しない</p>
(7)今後家族でバスや電車を利用しようと思うか	○7 割以上が今後バスや電車を利用しようと思うと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>● 思う ● 少し思う ● わからない ● あまり思わない ● 思わない</p>

図 4-2 アンケート実施結果(大井小学校(2/3))

○その他

- 亀岡にいと車で移動するのが当たり前ようになってしまっているので、少しでも環境のことを気にするようになってよかったと思います。
- 自分たちの生活に反映できることを考える、話し合う機会を設けることが有意義だと思います。時間が許すなら、学年単位ではなく、学級単位で説明が聞けて体験できれば良いように思います。
- とてもいい取り組みだと思います。
- 教室外の勉強も子供たちに良い刺激を与えていると思います。これからも機会があれば実施していただきたいと思います。
- 環境にやさしい物流車両の勉強をして知らなかったことがいろいろ分かってよかったと思いました。
- 小さい子供もいるので荷物を持っての移動が大変なので車で移動が多い。春秋にあるパーク&ライドの取り組みなどは良いとは思いますが、希望する場所までの移動が案外大変なので駐車できる場所をもっと増えると利用しやすいと思います（3年ほど前に1度伏見の運輸局を利用）。
- 交通安全から物流のシステムなどまで、勉強になると思うので、どんどん行っていただきたいです。安易にモノが手に入る世の中なので、こういう裏方の仕事にも子供たちの生活を支える一部であることも知る必要があると思います。
- このような体感型の授業はとても楽しいようなので、また実施してほしいと思います。
- 交通環境学習がなぜ行われたか忘れていたのか理解していなかったのか、いまひとつはっきりしていなかった。せっかく良い授業をしているのに残念だ。ただの車の見学になっていた。
- あまり自分からしゃべる子ではなく、聞いても話はしてくれなかったので、授業内容の理解はできませんでした。とても残念です。しかし学校や家族以外の方が来ていただきお話ししてくれることは良いことだと思います。ありがとうございました。
- 普段見れない車が見れたりして良かったと思います。
- 言葉や資料だけでなく、実際にトラックなどを見せてもらいながらの授業で、子供もより興味深く聞いたのではないかと思います。またこのような授業があってほしいと思います。
- 少しでもエコに対して興味を持ってくれて嬉しく思いました。配達の車両を見ると授業で習ったことを教えてくれます。
- 見学に行くだけでなく、学校に業者の人に来てもらい触れることができるのもいいなと思いました。
- 物流の車両見学の話を自宅でしていなかったのが親として寂しかったです。ヤマト運輸の皆様には子供たちの教育のために貴重なお時間をご協力頂きありがとうございました。実際の目で見て感じることは、書面で学ぶのとは違った印象で刺激にもなると思います。私（母親）自身の子供の時もこんな体験がしたかったなあと思いました。
- 環境について意識を高める取り組みがいろいろなされるのはとてもよいことだと思います。これをきっかけに家でももっと話ができるといいなあと思います。

図 4-3 アンケート実施結果(大井小学校(3/3))

(b) 川東小学校

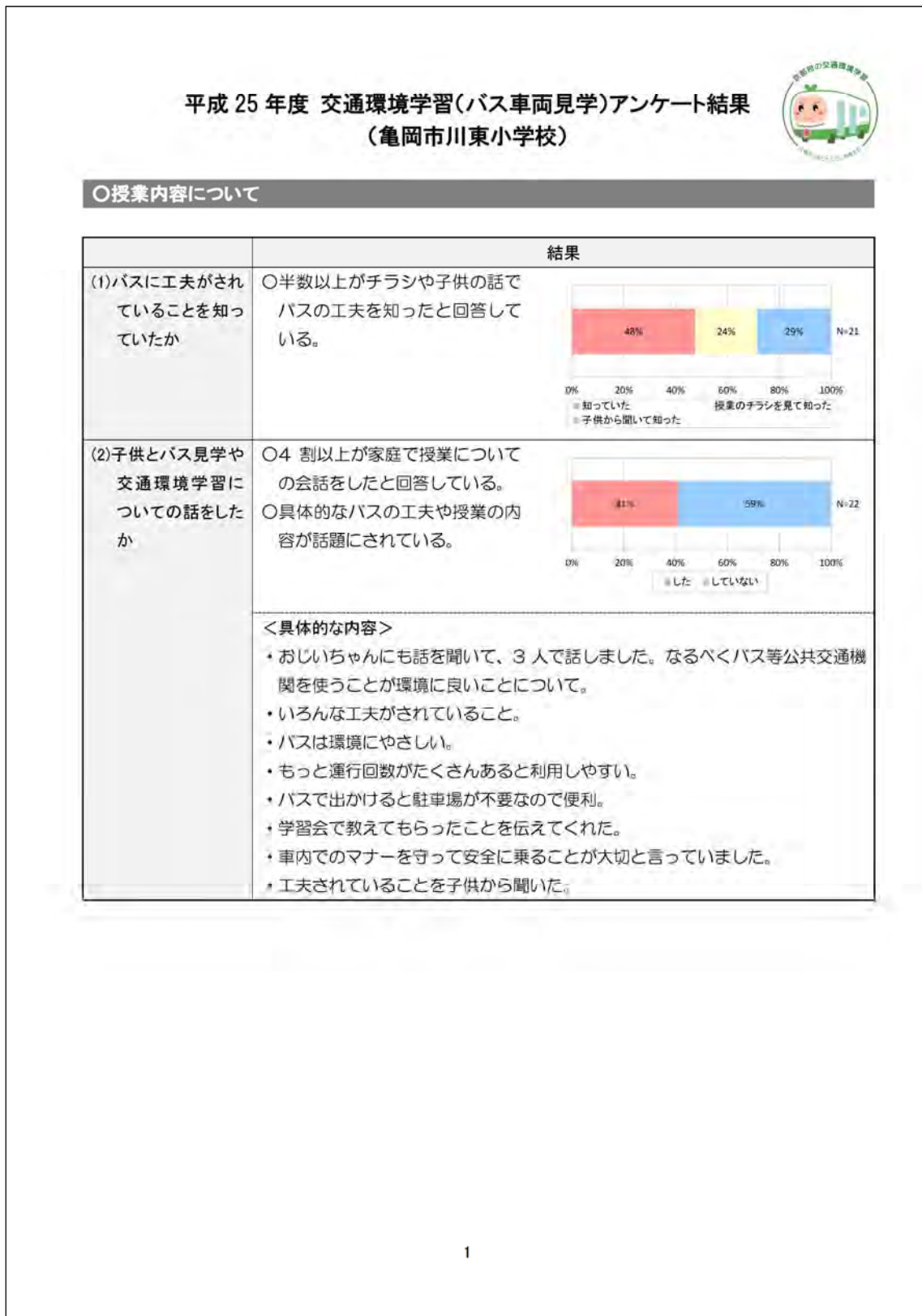


図 4-4 アンケート実施結果(川東小学校(1/4))

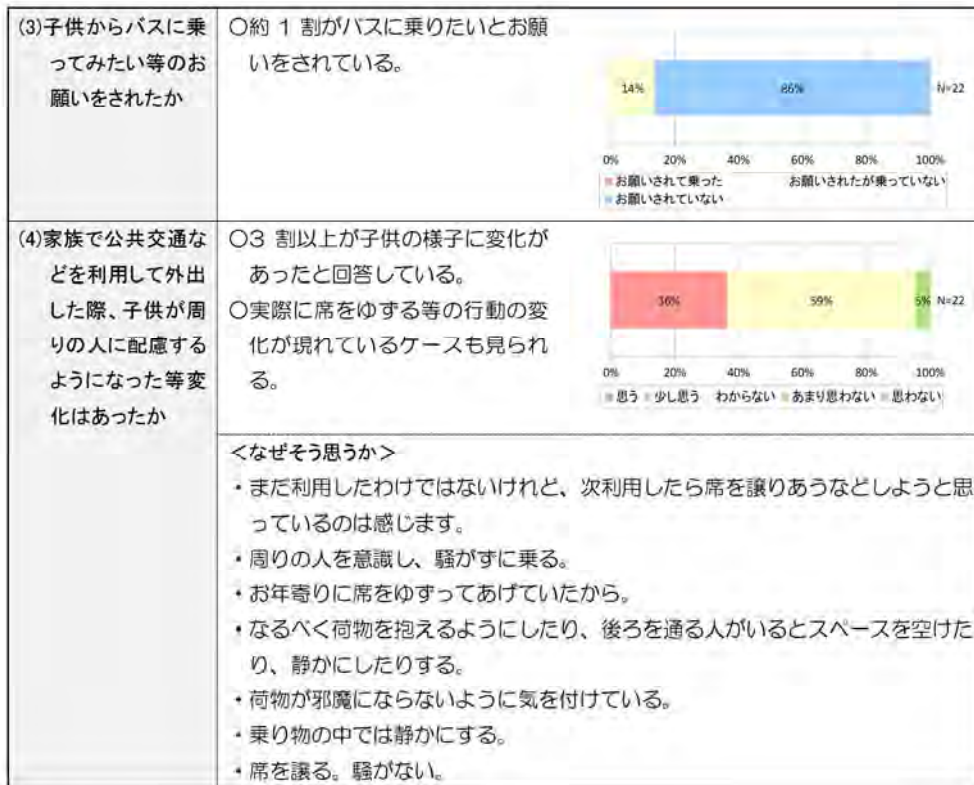


図 4-5 アンケート実施結果(川東小学校(2/4))

○バスの利用等について

		結果
(5)京阪京都交通に対するイメージは変化したか	○約 7 割がイメージが向上したと回答している。	<p>36% 32% 32% N=22</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■良くなった ■少し良くなった ■変わらない ■少し悪くなった ■悪くなった</p>
(6)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	○9 割以上がこの授業が実施されて良かったと回答している。	<p>68% 27% 5% N=22</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>
(7)普段家族でバスを利用することはあるか	○約 1 割が普段からバスを利用すると回答している。	<p>9% 55% 36% N=22</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■よく利用する ■たまに利用する ■ほとんど利用しない ■全く利用しない</p>
(8)今後家族でバスを利用しようと思うか	○約 7 割が今後バスを利用しようと思うと回答している。 ○ほとんど利用しない人や全く利用しない人でも、多くが利用しようと思うと回答している。	<p>全体 27% 41% 9% 14% 9% N=22</p> <p>よく利用する N=0</p> <p>たまに利用する 50% 50% N=2</p> <p>ほとんど利用しない 25% 50% 17% 8% N=12</p> <p>全く利用しない 25% 25% 25% 25% N=8</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない</p>

図 4-6 アンケート実施結果(川東小学校(3/4))

○その他

- ・まだ素直に物事を受け止めてくれるこの時期にこういった環境・人との助け合い・譲り合い・いろいろな道徳を授業していただけることは大人になっていくうえでプラスになってくれると願います。
- ・いつも通学でお世話になっています。バスにはたくさんの工夫があることを子供は本当に興味深く話しておりました。
- ・バス会社さんの方で路線やどこからどこまでどこを通っているのか、遠くへ行く時は乗り継ぐことなど子供に分かりやすく見せてもらいたいです。
- ・思いやりや優しさを具体的な形として子供が認識できる良い取り組みだと思います。
- ・今回のようにバスの見学をしていただくいつもの通学バスでの態度も変わってくるし、これからも授業で今回のように実際に体験することがあるといろんなことに関心も出てくると思います。
- ・子供は毎日のように通学でバスの利用をしているので、親よりもバスのことはよく知っている。今回の学習で毎日利用しているバスもいろんな人が利用できるようたくさんの工夫がされていることを学べたので良かったと思います。
- ・社会生活を送る中でいろんな体験ができそこから学びまた一つ成長できたらうれしいと思います。

図 4-7 アンケート実施結果(川東小学校(4/4))

(c) 南つつじヶ丘小学校



図 4-8 アンケート実施結果(南つつじヶ丘小学校(1/4))

<p>(3)子供からバスに乗ってみたい等のお願いをされたか</p>	<p>○約 2 割がバスに乗りたいとお願いをされている。 ○そのうち数家族で実際に利用されている。</p>	<table border="1"> <caption>バス乗りたい等のお願い結果</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>お願いされて乗った</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>お願いされたが乗っていない</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>お願いされていない</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	お願いされて乗った	80%	お願いされたが乗っていない	14%	お願いされていない	6%				
回答	割合													
お願いされて乗った	80%													
お願いされたが乗っていない	14%													
お願いされていない	6%													
<p>(4)家族で公共交通などを利用して外出した際、子供が周りの人に配慮するようになった等変化はあったか</p>	<p>○2 割以上が子供の様子に変化があったと回答している。 ○実際に席をゆずる等の行動の変化が現れているケースも見られる。</p>	<table border="1"> <caption>行動の変化に関する回答</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>思う</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>少し思う</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>あまり思わない</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>思わない</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	思う	65%	少し思う	14%	わからない	10%	あまり思わない	6%	思わない	4%
回答	割合													
思う	65%													
少し思う	14%													
わからない	10%													
あまり思わない	6%													
思わない	4%													
<p><なぜそう思うか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園でも公共のものは障がい者やお年寄り・妊婦さんなどをいたわるように教えていただいて、それからは家族でも公共機関のものは気を付けています。 ・優先席にはどのような人に座ってもらうか分かっているので自分では座らない。 ・社会見学の時にお年寄りに席を譲ったことなど。 ・妹がゲームをしていた時、音量について注意していた。 ・小さい子やお年寄りに席を譲ったり、バスの中等では静かにする。 ・家族で乗ることはないですが、習い事のサッカーで試合の移動がバスの時があり、席を譲ったりしているようです。 ・モラルのない人を見て「あかんのに」と思っていた。 														

図 4-9 アンケート実施結果(南つつじヶ丘小学校(2/4))

○バスの利用等について

		結果
(5)京阪京都交通に対するイメージは変化したか	○約 6 割がイメージが向上したと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■良くなった ■少し良くなった ■変わらない</p> <p>●少し悪くなった ●悪くなった</p>
(6)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	○約 9 割がこの授業が実施されて良かったと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない</p> <p>●あまり思わない ●思わない</p>
(7)普段家族でバスを利用することはあるか	○約 4 割が普段からバスを利用すると回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■よく利用する ■たまに利用する</p> <p>■ほとんど利用しない ■全く利用しない</p>
(8)今後家族でバスを利用しようと思うか	○6 割以上が今後バスを利用しようと思うと回答している。 ○ほとんど利用しない人でも、多くが利用しようと思うと回答している。	<p>全体 25% 37% 22% 12% 4% N=51</p> <p>よく利用する 80% 20% N=5</p> <p>たまに利用する 54% 31% 15% N=13</p> <p>ほとんど利用しない 8% 52% 20% 20% N=25</p> <p>全く利用しない 57% 34% 29% N=7</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない</p> <p>●あまり思わない ●思わない</p>

図 4-10 アンケート実施結果(南つつじヶ丘小学校(3/4))

○その他

- ・今回参加できず残念でした。授業で振り返りの学習や友達からの話で想像はつくと思いますが、やはり本物を一度でもよいので見せてあげたいと思いました。地域でもこのような機会があったら嬉しく思います。
- ・普段利用することはないですが、身近で便利であることがよく分かりました。これから習い事や進学などで利用することがあると思います。
- ・どのような授業をされたのかよく分かりませんが…保護者も参観できればいいと思います。車イスは実際どうやって乗り込むのでしょうか。私たちも手伝えるのでしょうか？
- ・今までバスに何気なく乗っていたので、改めて授業でバスが工夫されている点などを勉強できて良かったと思います。
- ・車で移動することが当たり前となっている子供たちに、公共交通機関について考える良い機会だったと思います。南つつじから駅方面に行くには利用することがあってもなかなか他の方面に利用することはなく難しいところです。
- ・こんな特別な事業があってよかったと思いました。
- ・普段あまりバスに乗る機会がないので、バスのことがよく分かったので良かったです。
- ・あまり1人でバスを利用することは少ないですが、土地柄大きくなると利用も増えてくると思うので、この体験は大切なものになったと思います。ありがとうございました。
- ・今回子供たちがバスの見学をさせていただき、子供たちそして私たち親も改めて勉強になったと思います。また、たくさんの方がバスを利用できるようになったらいいなと思います。
- ・通学定期代が高すぎるので購入を断念しています。バスの番号を気にするなど興味を持ち始めていました。身近なバスなので、知ることが出来てよかったと思います。
- ・身近なバスであり、車も利用することが当たり前の環境で、もっと良いバス作りのためにも、もっともっと利用すべきと考えさせられました。とても良い勉強だったと思いますので続けてほしいです。
- ・家族それぞれでの利用はありますが、家族みんなでというのはなかなかありません。
- ・普段公共交通を利用させていただく機会が全くないので、子供にとっても良い機会だったと思います。ありがとうございました。
- ・普段からよく利用しているが、ますますバスが好きになったようでした。

図 4-11 アンケート実施結果(南つつじヶ丘小学校(4/4))

2) 福知山市
(a) 成仁小学校

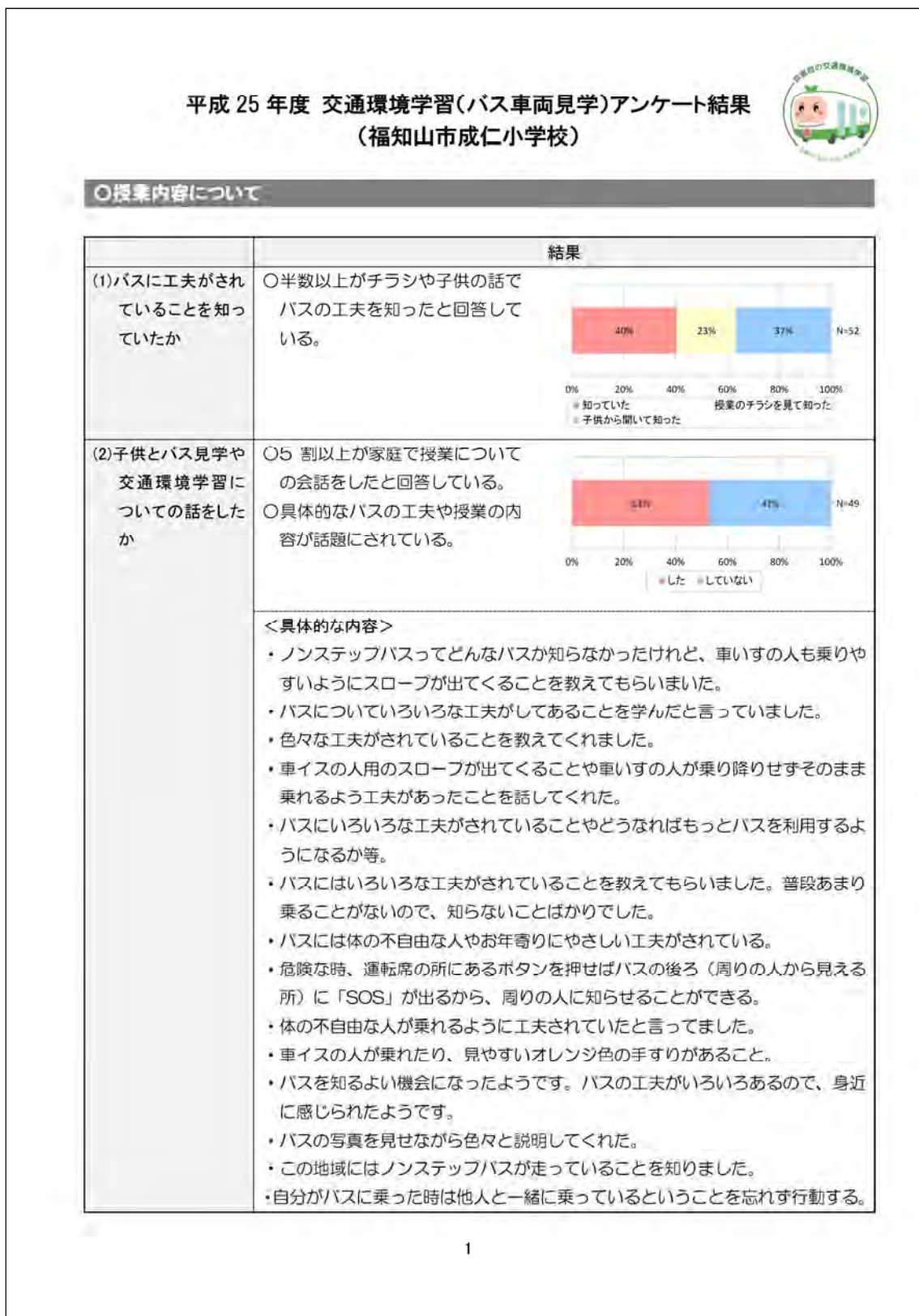


図 4-12 アンケート実施結果(成仁小学校(1/4))

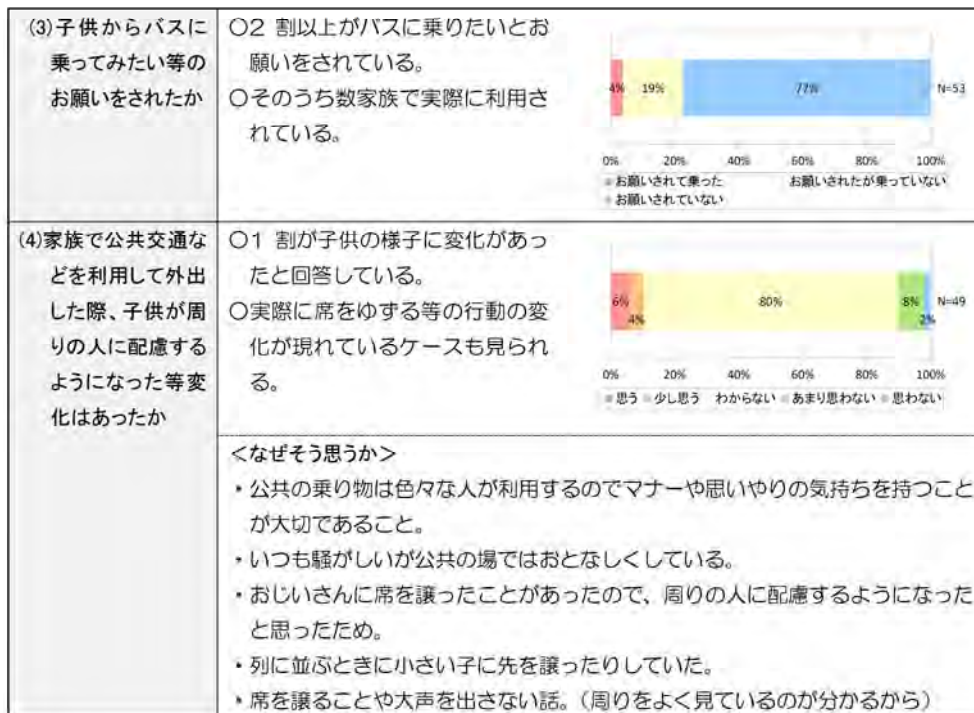


図 4-13 アンケート実施結果(成仁小学校(2/4))

○バスの利用等について

結果	
(5)京阪京都交通に対するイメージは変化したか	<p>○7 割以上がイメージが向上したと回答している。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■良くなった ■少し良くなった ■変わらない ■少し悪くなった ■悪くなった</p>
(6)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	<p>○全員がこの授業が実施されて良かったと回答している。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>
(7)普段家族でバスを利用することはあるか	<p>○約 1 割がたまにバスを利用すると回答している。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■よく利用する ■たまに利用する ■ほとんど利用しない ■全く利用しない</p>
(8)今後家族でバスを利用しようと思うか	<p>○6 割が今後バスを利用しようと思うと回答している。 ○ほとんど利用しない人や全く利用しない人でも、多くが利用しようと思うと回答している。</p> <p>全体 13% 47% 11% 21% 8% N=53</p> <p>よく利用する N=0</p> <p>たまに利用する 40% 40% 20% N=5</p> <p>ほとんど利用しない 14% 67% 10% N=21</p> <p>全く利用しない 7% 33% 11% 33% 15% N=27</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>

図 4-14 アンケート実施結果(成仁小学校(3/4))

○その他

- 親も一緒に見てみたいと思いました。普段車（自家用車）ばかり利用していますが、バスで買い物に行ってみたいと思いました。家から行き先のバス、どれに乗れば行けるか、乗り換えが必要かなど、分からないことがあるので、つい車で出かけてしまいます。
- 公共交通の重要性を理解するため、またこのような機会が与えられるとよいと思った。
- 都会ではバスや電車に乗ることは当たり前ののですが、こころへの出かける時の手段が自家用車がほとんどのため、マナーを含め学習する機会があるとうれしいです。
- 社会の中での色々な工夫を体験できて良かったと思います。
- 人権に対する学習が体験できることはすばらしいと思います。
- 学校に本物のバスを持ってきて実際に乗ったり触ったりできて良かったと思うので、これからも学校に来て説明してもらえるとありがたいです。とても身近に感じれたと思います。
- ここ最近の外出は自家用車ばかりで公共交通の利用がなく、今回の授業のような公共機関の説明は子供たちにとっても地域にとっての必要性等学ぶ良い機会であったと思います。保護者も子供を通じてバス等の利用を考える機会になりました。
- 近年の子供は家庭に車があるのでなかなかバスに乗る機会がありません。そのためにバスのことを知ることがあまりないと思います。今回このような授業があり、バスの工夫が分かり、良い授業だったと思います。
- 家族でバスや電車に乗ることがないので、一度乗ってみてもいいかなあと思いました。
- 機会があれば乗りたいと思いますが、福知山では車での生活スタイルが定着しすぎて難しいかなと思います。今回は子供に公共交通を使う時のマナーや環境について教えていただきありがたいです。
- 子供たちによい経験になったと思いました。
- 私は免許証を持っていないので、年に数回はバスを利用しています。子供と遊びに行ったり通院に使ったりしています。マナーの悪い学生に時々乗り合わせますが、そういう面の教育も家でしっかりやりたいです。子供は降りる時運転手の方に「ありがとうございました」とあいさつしています。バスの設備についてはほとんど知っていました。
- なかなかバスに乗る機会がありませんので、このような授業を体験させてもらい子供たちにとってバスが身近に感じられたと思います。（ただ、今バス酔いする年頃で乗ることに抵抗があるようで申し訳ありませんが進んで乗っていません）京都市内ではよく乗降しますが、福知山市内では利用できていないので折を見て利用したいと思っています。
- 子供にとってはすく勉強になることだと思います。どうしても自家用車に慣れているので、公共の乗り物に乗ることはいいことだと思います（知ることも）。
- 予算が少ない中でいろいろ工夫されていることが分かり、大変勉強になりました。車を運転しない方、体の不自由な方、ご高齢の方にとってやさしい工夫がしてあるんだなと思いました。子供とこの先バスや電車に乗ることがあれば、人にやさしくすることについて一緒に考えてみようと思います。いい機会を与えてくださりありがとうございました。
- 普段気づいていないことが多いので、このような取り組みで意識できることはいいことだと思います。
- 小学生時代にできるだけたくさんのかたちを経験させてやりたいと思います。
- 今までほとんどバスに乗る機会がなかったので、バスについての色々なお話を聞くことができる良い機会になりました。また子供と一緒にバスに乗って出かけてみたいと思います。

図 4-15 アンケート実施結果(成仁小学校(4/4))

(b) 美鈴小学校

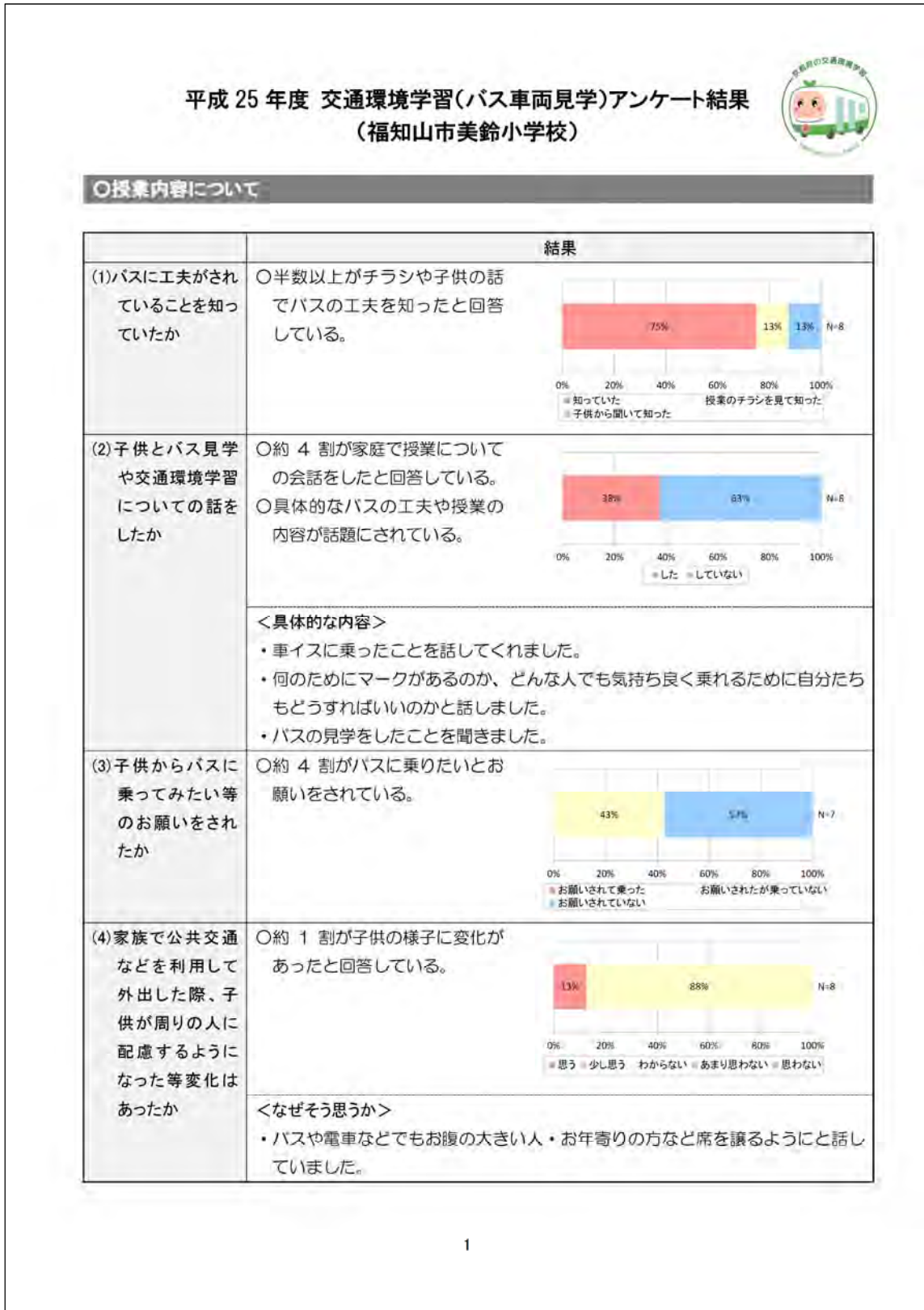


図 4-16 アンケート実施結果(美鈴小学校(1/2))

○バスの利用等について

結果																															
(5)京阪京都交通に対するイメージは変化したか	<p>○7割以上がイメージが向上したと回答している。</p> <table border="1"> <tr><th>イメージ</th><th>割合</th></tr> <tr><td>良くなった</td><td>13%</td></tr> <tr><td>少し良くなった</td><td>63%</td></tr> <tr><td>変わらない</td><td>25%</td></tr> </table> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■良くなった ■少し良くなった ■変わらない ■少し悪くなった ■悪くなった</p>	イメージ	割合	良くなった	13%	少し良くなった	63%	変わらない	25%																						
イメージ	割合																														
良くなった	13%																														
少し良くなった	63%																														
変わらない	25%																														
(6)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	<p>○全員がこの授業が実施されて良かったと回答している。</p> <table border="1"> <tr><th>感想</th><th>割合</th></tr> <tr><td>思う</td><td>75%</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>25%</td></tr> </table> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>	感想	割合	思う	75%	わからない	25%																								
感想	割合																														
思う	75%																														
わからない	25%																														
(7)普段家族でバスを利用することはあるか	<p>○約3割がたまにバスを利用すると回答している。</p> <table border="1"> <tr><th>利用頻度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>よく利用する</td><td>25%</td></tr> <tr><td>たまに利用する</td><td>50%</td></tr> <tr><td>ほとんど利用しない</td><td>25%</td></tr> </table> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■よく利用する ■たまに利用する ■ほとんど利用しない ■全く利用しない</p>	利用頻度	割合	よく利用する	25%	たまに利用する	50%	ほとんど利用しない	25%																						
利用頻度	割合																														
よく利用する	25%																														
たまに利用する	50%																														
ほとんど利用しない	25%																														
(8)今後家族でバスを利用しようと思うか	<p>○半数が今後バスを利用しようと思うと回答している。 ○ほとんど利用しない人や全く利用しない人でも、今後利用しようと思うと回答している。</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>思う</th><th>少し思う</th><th>わからない</th><th>N</th></tr> <tr><td>全体</td><td>50%</td><td>25%</td><td>13% 13%</td><td>8</td></tr> <tr><td>よく利用する</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0</td></tr> <tr><td>たまに利用する</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>2</td></tr> <tr><td>ほとんど利用しない</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>4</td></tr> <tr><td>全く利用しない</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>2</td></tr> </table> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>	現状	思う	少し思う	わからない	N	全体	50%	25%	13% 13%	8	よく利用する	0%	0%	0%	0	たまに利用する	50%	50%	0%	2	ほとんど利用しない	50%	50%	0%	4	全く利用しない	50%	50%	0%	2
現状	思う	少し思う	わからない	N																											
全体	50%	25%	13% 13%	8																											
よく利用する	0%	0%	0%	0																											
たまに利用する	50%	50%	0%	2																											
ほとんど利用しない	50%	50%	0%	4																											
全く利用しない	50%	50%	0%	2																											

○その他

- ・とても良い取り組みだと思います。子供たちが障害を持った方の立場に立って、色々体験できる機会があまりないので、よい経験ができたと思います。
- ・はぎバスはなくさないでほしい。200円バスは続けてほしい。それでなくても限界集落です。

図 4-17 アンケート実施結果(美鈴小学校(2/2))

(c) 川合小学校

平成 25 年度 交通環境学習(バス車両見学)アンケート結果
(福知山市川合小学校)



○授業内容について

	結果
(1)バスに工夫がされていることを知っていたか	<p>○半数以上がチラシや子供の話でバスの工夫を知ったと回答している。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100% N=5</p> <p>■知っていた 授業のチラシを見て知った ■子供から聞いて知った</p>
(2)子供とバス見学や交通環境学習についての話をしたか	<p>○6割が家庭で授業についての会話をしたと回答している。</p> <p>○具体的なバスの工夫や授業の内容が話題にされている。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100% N=5</p> <p>■した ■していない</p>
	<p><具体的な内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車イスを使っている人も乗れるバスがあること。 ・施されている工夫について。 ・バスにはいろんな工夫があったことを話してくれました。
(3)子供からバスに乗ってみたい等の願いをされたか	<p>○4割がバスに乗りたいとお願いをされている。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100% N=5</p> <p>■お願いされて乗った お願いされたが乗っていない ■お願いされていない</p>
(4)家族で公共交通などを利用して外出した際、子供が周りの人に配慮するようになった等変化はあったか	<p>○2割が子供の様子に変化があったと回答している。</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100% N=5</p> <p>■思う ■少し思う わからない ■あまり思わない ■思わない</p>
	<p><なぜそう思うか></p>

図 4-18 アンケート実施結果(川合小学校(1/2))

Qバスの利用等について

		結果
(5)京阪京都交通に対するイメージは変化したか	○4 割がイメージが向上したと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■良くなった ■少し良くなった ■変わらない ■少し悪くなった ■悪くなった</p>
(6)このような授業が学校で実施されて良かったと思うか	○8 割がこの授業が実施されて良かったと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>
(7)普段家族でバスを利用することはあるか	○全員が普段利用しないと回答している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■よく利用する ■たまに利用する ■ほとんど利用しない ■全く利用しない</p>
(8)今後家族でバスを利用しようと思うか	○普段利用しなくても、4 割が今後バスを利用しようと思うと回答している。	<p>全体 40% 40% 20% N=5</p> <p>よく利用する N=0</p> <p>たまに利用する N=0</p> <p>ほとんど利用しない 50% 50% N=2</p> <p>全く利用しない 33% 33% 33% N=3</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■思う ■少し思う ■わからない ■あまり思わない ■思わない</p>

○その他

・何でもそうですが、実物を見るというのはとても良いことだと思います。記憶にも残りやすく、現実のものとしてとらえられるので、今後もこのような機会がたくさんあればいいなと思います。

図 4-19 アンケート実施結果(川合小学校(2/2))

4-1-3 先生へのヒアリング

(1) 実施概要

以下の学校へヒアリングを行った。

表4-3 調査対象と内容

		実施内容	ヒアリング日
亀岡市	大井小学校	物流プログラム	平成 26 年 2 月 14 日
	川東小学校	バスプログラム	平成 26 年 1 月 27 日
	南つつじヶ丘小学校	バスプログラム	平成 26 年 1 月 27 日
福知山市	成仁小学校	バスプログラム	平成 26 年 2 月 7 日
城陽市	寺田小学校	鉄道プログラム	平成 26 年 1 月 23 日
長岡京市	第十小学校	バスプログラム	平成 26 年 2 月 17 日
久御山町	東角小学校	バスを使った見学	平成 26 年 2 月 4 日

(2) ヒアリング結果

1) 亀岡市

(a) 大井小学校

打ち合わせ記録簿（大井小学校）

日時；平成 26 年 2 月 14 日

場所；大井小学校

出席者；大井小学校／山口先生、他 3 名（5 年生の担任）

京都府／畑中副課長

亀岡市／大石主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. これまでの取り組みについて

- ・1 年目はガリバーマップと物流の 2 回の授業があったが、環境は理科、物流は社会のイメージが強く、教科的にずれてしまったことが良くなかった。
- ・2、3 年目は鉄道と物流について社会として実施し、ゲストティーチャーとしてありがたかったと感じている。鉄道は社会といっても現在の教科書の内容では関連付けにくい
が、やはり物流は産業だけでなく自動車の生産等にも関連した内容で、興味を深められる題材だと思う。

2. 今年度の授業について

- ・自転車での配達も亀岡では実施していないことであるし、トラックといっても間近に見ることはできないので、身近に感じられて良かった。自転車に実際に乗って運転した子ども等は、後から他の子にうらやましがられたりしていた。
- ・また、車両に乗ったり触る等、柔軟に対応していただけたこともありが良かった。
- ・実際に、2 学期に自動車の生産の部分の学習をしているところだったため、タイミングも良かった。
- ・前後の説明、まとめが体育館での実施となったが、人数が多かったことや寒かったことがあり、もったいなかったと感じている。
- ・講師を複数にお願いできるなら、前後の部分は各クラスで個別に実施するとより効果が高まると思う。
- ・感想や考えを書く時間を取ってもらったが、時間が短かった。もう少し時間を取れると、新鮮な感想を書くことができるし、理解・定着につながる。
- ・家庭向けのチラシや宿題・アンケートは、授業から少し時間が経っていたので思い出すのが難しかったのではないかと、もう少し早いタイミングで実施できると良い。

3. 今後の取り組みについて

- ・学校の希望としては、5 年生の社会の学習の一環として物流のプログラムを実施していきたい。

- 定着させていくことで、自動車生産の単元のように前後の学習をうまく関連付けてより効果的な取り組みとして実施していけると良い。
- 鉄道に関して言えば、ここ数年は2年の生活科でJRに乗って京都駅まで行き、梅小路の鉄道博物館と水族館に行くという授業がある。
- ここに、駅での仕事見学の要素を入れたり、目的地の博物館等で汽車も見ながらJRの方の話を聞いたり、インタビューをしたりできると良いかもしれない。

以 上

(b) 川東小学校

打ち合わせ記録簿（川東小学校）

日時：平成 26 年 1 月 27 日

場所：川東小学校

出席者：川東小学校／久保先生、担任教諭

京都府／馬籠主事

亀岡市／熊谷主査

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 授業の効果について

- ・今年度は総合学習で環境をテーマに取り組んでいる。その一環に交通環境学習の授業を位置づけるとともに、南丹保険所（地球温暖化防止活動推進センターの推進員と連携）が実施する未来っ子地球温暖化防止授業（地球温暖化についての説明や自転車発電の体験）等の他団体の出前授業、地域の農家と連携した農薬を使わない野菜育成についての授業等を実施した。
- ・現在そのまとめとして、実施したいいくつかの取り組みについて、好きなものを選んで、学習を深める取り組みを実施している。その際、交通環境学習を題材として選んだ子どもが 10 人おり、バスはたくさんの人が乗ることができ環境にやさしいということだが、具体的にどのくらいの人数が乗れば良いのかとか、車いすの固定箇所はなぜ入口のそばにあるのかを調べたりしている。
- ・今年度は、環境をテーマとした総合学習を実施したため、環境の面でとても有効に活用することができている。特に、南丹保険所の出前授業で自転車を扱っていたため、関連があり理解が深まったと考えられる。
- ・今年のやり方を前提とした場合には、バスがどう環境にやさしいかについて、もう少し詳しい話があると良かったと思う。例えば、電気を使うバスがどんな仕組みになっているか、充電はどのように行うのか等が考えられるが、福祉的な点も重要だったと思う。

2. 教育での交通の活用について

- ・公共交通は授業で活用すべきものとされており、可能であれば利用している。
- ・今年度は 2 年生が図書館に見学に行く際に、バスで千代川駅まで行き JR を利用した。4 年生が高齢者施設に行く際も帰りに京阪バスを利用した。3 年生が西友に見学に行った際も利用したかもしれない。
- ・プログラムについては、今回のもので考えると主に環境と福祉の面で活用できると思う。環境をメインに実施するのであれば 5 年生の社会の影響が強いため、5 年生を対象に実施すると効果的と考えられる。
- ・また、福祉の観点をメインにする場合 4 年生で実施すると効果的になると考えられる。

- ・川東で考えるのであれば、バスに乗り始める 1 年生にマナー教育として実施しても良いかもしれない。

3. 今後について

- ・川東小学校としては、3年間続けてきて定着したものとなりつつある。他の学校との機会の差が気になるところはあるが、実施してもらえるなら前向きに検討したい。
- ・特に、今年度のように有効に活用できるように、色んな工夫や連携を考えながら実施できると面白い。
- ・次年度の担任が決まった段階で、内容を提示してもらって、どの学年でどのように活用すると良いかを検討したい。
- ・その際、南つつじ小学校等で加えた工夫等について情報をいただけると具体的な話ができて良いと思う。

以 上

(c) 南つつじヶ丘小学校

打ち合わせ記録簿（南つつじヶ丘小学校）

日時：平成 26 年 1 月 27 日

場所：南つつじヶ丘小学校

出席者：南つつじヶ丘小学校／湯浅校長、西村教頭

京都府／馬籠主事

亀岡市／熊谷主査

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 授業の効果について

- ・とにかく地域に身近な交通手段であるため、それを題材した効果は大きかった。
- ・一組を 2 班に細かく分けた（20 名×4 班）ことが良かったと思っている。反対にあれ以上分けると難しくなる。
- ・それでも、人数が多いためスムーズでなかったところはあったが、大型車の利用が難しいことを考えると良い進め方だったのではないかと思う。
- ・ただ、いつも隣の道路を通っているバスが見学できるとまた興味が違ってくるということはあるかもしれない。
- ・環境の話が多く盛り込んだ内容になったが、5 年生では環境の内容が多いため担任も効果的な内容だったと話していた。
- ・EV を持ってきてもらったためエコカーにとっても興味を示したり、てんぷら油のバスの紹介があったため、自治会で実施しているてんぷら油回収の意味が理解できた子どもがいたという話もあった。

2. 教育での交通の活用について

- ・公共交通は授業で活用すべきものとされており、これまでも機会があれば利用している。今年度は 2 年、5 年、6 年が、動物園や劇団四季の公演を見に行った際にバスを利用した。
- ・その時は、バス会社と学校で直接調整しており、乗り切れなくなった場合の臨時車両を後ろにつけてもらっている。
- ・行きは大楽台二丁目から乗車し、亀岡駅から JR で移動し、帰りは亀岡駅から自宅の最寄り駅までバスを利用するパターンになっている。それぞれうちでお金を準備して、実際に料金を払って利用している。IC カードも利用してよいことにしている。
- ・授業としては身近な題材を利用することが大事であり、南つつじヶ丘では身近にバスが走っており、環境や人権・福祉の視点にも広げられることから効果的な題材だと思う。反対に、バスが全然とっていないところで同じようなことをやってもあまり意味はない。
- ・また、バスが今は残っているが、住民の一人として身近に感じて守って行こうとする意

識を持つことが重要だと考えており、そこにつながる内容だったと思う。

- ・反対に言えば、交通は地域の将来像を考え主体的に行動することを学ぶ入口としても、分かりやすい素材ではないか。

3. 今後について

- ・以前から言っているが、上記のような観点を踏まえるとバスの授業を実施するのに南つつじヶ丘小学校を除くわけにはいかないと思う。
- ・次年度も実施してもらえらるなら前向きに検討したい。特に、来年度の5年生には一人車いすの子どもがいるため、実感がわきやすいという点で特に意味があると思う。

以 上

2) 成仁小学校

打ち合わせ記録簿（成仁小学校）

日時：平成 26 年 2 月 7 日

場所：東角小学校

出席者：成仁小学校／谷口校長

京都府／馬籠主事

福知山市／塩見氏

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の授業について

- ・今年も総合学習の一環として実施した。桔梗の杜での活動と関連付けられて良かったと思う。
- ・成仁小学校では毎年 5 年生では総合学習のテーマを福祉にしており、その中で実施するプログラムとしてちょうど良いと思う。
- ・総合学習のまとめでは、バスのプログラムについても触れる形で実施しているのではないかと思う。
- ・また、成仁小学校の近くはバスが身近に走っているが、日常生活ではなかなか乗る機会がない。だからこそ意義がある授業だとも感じている。
- ・授業に対する具体的な感想については、後日担任に確認しておく。

2. 今後の取り組みについて

- ・来年度も前向きに検討したい。具体的には次年度の体制となってから学年・担任と検討する。
- ・実施する場合 2 時間のプログラムを実施するだけで終わってしまうのはもったいない。テーマを設定した中で、前後とつながっていくような取り組みにできると良い。
- ・2 年生では毎年、電車を使って見学に行っているが、電車に関する学習ができないかと思っている。
- ・見学で駅に行った際に、福祉等の面から見学をしたり駅員や JR の方にインタビューができたりすると良いと思っている。

以 上

3) 寺田小学校

打ち合わせ記録簿（寺田小学校）

日時：平成 25 年 1 月 23 日

場所：寺田小学校

出席者：寺田小学校／教頭

京都府／畑中副課長

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 授業の効果について

- ・小学校の学習としては、実体験が重要で身近な題材を使うことが大変重要と考えている。
- ・寺田小学校は城陽駅の隣にありアナウンスも聞こえてくる。鉄道はとても身近な題材であり、題材として活用できる可能性は高い。
- ・また今回の授業では安全ボタンの体験や高齢者体験等があった。一度やってみないと大人でもわからないようなことであり、気づきとしては重要だったと思う。
- ・寺田小学校では福祉学習に力を入れて進めており 6 年間の計画で進めている。今回実施したような高齢者体験は 3 年か 4 年の時に実施しており、当初は重複した内容で新たな効果はそれほどないと考えていたが、感想などを見ると高学年らしく自分と人とのつながりにおいて福祉を考える機会となったようで、意味があったと思っている。
- ・一方、体験内容にあまり統一性がなく、子どもにとっては焦点が定めにくい内容だったのではないかと。また、前後とのつながりもなかったため、受け身の学習になっている印象があった。
- ・交通行動という面では、小学生では自分で手段を決められないということがあるため、授業がアクセントとなって親に広がるようになると良いのではないかと。
- ・また、自分の行動の面では、今すぐには難しいが、高校生くらいになれば電車やバスを使うことが当たり前になるのであり、少し将来のことをイメージしてそれと結びつけて考えるような部分があると良いかもしれない。

2. 教育での交通の活用について

- ・交通や鉄道を活用するとすれば、2 年生（生活科/まち）、4 年生（社会/仕事）、5 年生（社会/公共施設）や総合学習（福祉、キャリア等）が考えられる。
- ・いずれにしても、近年主体性や考える力といった点が重要視されており、受け身で教えてもらうだけでなく、実際に地域に出て調べて、考えるといったことがポイントになってくる。
- ・交通のプログラムも、導入の学習、実体験や調査、まとめといった探究心を引き出せるようなものになると良い。
- ・寺田小学校では低学年で城陽駅を見学しに行くが、例えば高学年ではその延長として城

陽駅をテーマに、福祉やキャリアといった観点でそれぞれ興味のある視点を考え、必要な調査やヒアリングを行い、その結果を踏まえて課題やあるべき姿、できることを考えるといったものになると良い。

- ・今回の出前授業で実施してもらったような高齢者体験等が、そういった流れにはまるとより効果的なものになる。
- ・学校側の事情で言えば、総合学習の年間計画を年度初めに検討するが、その際今回のような外部の人に協力してもらうことも想定するが、実際に協力が得られるかどうかかわからず計画を立てるのに非常に苦勞する。また、協力が得られたとしても全体の流れに合わせて内容を調整することが非常に大変である。
- ・こういった課題やニーズにうまく対応させられると良いのではないかと。

3. 次年度について

- ・次年度実施するかどうかについては、今後内部で検討する。

以 上

4) 第十小学校

打ち合わせ記録簿（第十小学校）

日時：平成 26 年 2 月 17 日

場所：第十小学校

出席者：第十小学校／教頭

京都府／馬籠主事

長岡京市／河原氏

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の授業について

- ・地域性から日常生活でバスに乗ることはほとんどないが、授業後は家庭で話題になったり、バスが走っているのを気にするようになったり、興味が増したようである。
- ・外部の出前授業は話が難しくなることが多いが、今回は実際に体験できたりキャラクターをうまく使って興味を引いてもらったのが良かった。
- ・担任の意見としても、社会科にもつながるような公共交通の便利さの視点と、福祉の視点があり良かったとの意見があった。
- ・4年生の2学期の総合学習のテーマが福祉であり、その一環で実施した。別途市の協力も得ながら、この授業のほかにアイマスク体験、盲導犬の学習、視覚障害者に関する学習、福祉施設での活動を実施している。

2. 今後の取り組みについて

- ・次年度以降も福祉をテーマに実施することは変わらないため、前向きに検討したい。詳細については、次年度の体制が決まってから調整したい。
- ・年度当初の総合計画の内容を検討時に、府の教育委員会からの情報があり、ちょうど良いものがあるということをお願いした。現在発信している情報で福祉的な学習に使えることがわかる内容であったため依頼した。どのように活用できるかできるだけわかりやすい発信がされると良い。
- ・2年生で梅小路の水族館まで見学に行く際に電車を利用するなど、自分で切符を買って乗るといった活動を必ずしているが、人数的にはついでバス等を利用するのは難しいかもしれない。

以 上

5) 東角小学校

打ち合わせ記録簿（東角小学校）

日時：平成26年2月4日

場所：東角小学校

出席者：東角小学校／谷口教頭、教諭2名

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. バス体験乗車について

- ・2年生の生活科で体験乗車を実施したが、もらっていたプリントを使って授業を行った。
- ・授業は生活科の7時間の枠で実施した。
- ・初めの2時間で見通しを立てる事前学習として、バスについて説明したり、どんな人が利用するかということを用意してみたり、運転手さんに質問したいこと等を考えた。また、記入してもらっていた乗車時の注意事項等も説明した。
- ・次の2時間で実際にバスに乗り運転手さんへのインタビュー等を実施した。2クラスあったため、行きと帰りでの送迎バスとのってこバスのどちらかを利用するようにした。
- ・残りの3時間で、聞いたことや気づいたことを発表しあったり、印象に残ったことをまとめる学習をした。
- ・結果として、同じバスでも普通のバスと送迎バスの違いを知ったり、のってこバスの色による路線や運行会社の違い、バズル柄の意味等、色々な気づきがあった。
- ・資料はバラバラに紙を渡すとなくしやすく流れもわかりにくい。また、前後のプリントは、説明が記載されている状態となっているが、2年生くらいだと意識させたい点を絞って括弧抜きにしておいた方が良く、はっけんカードも罫線が引いていないと書きにくいこともあり、今回はしおり形式にアレンジして使用した。
- ・以前は同様にしおりを作成していたが、しばらくこのような形では実施していなかった。今回、資料をもらったため過去のを参考に作成することにした。
- ・バスの写真には子どもの反応があり良かったと思う。
- ・学習のまとまりを考慮すると、予想する⇒確かめる⇒振り返りまとめる、といった流れが1冊でわかるようになってくると良い。
- ・次年度は、また2年の担任になった先生がやり方を考えると思うが、このような資料がまとめられていると参考になると思う。

以上

4-1-4 事業者へのヒアリング

(1) 実施概要

以下の学校へヒアリングを行った。

表4-4 調査対象と内容

	実施内容	ヒアリング日
京阪京都交通	バスプログラム	平成 26 年 1 月 27 日
京都交通	バスプログラム	平成 26 年 2 月 7 日
阪急バス	バスプログラム	平成 26 年 2 月 25 日
JR 西日本	鉄道プログラム	平成 26 年 2 月 4 日

(2) ヒアリング結果

1) 京阪京都交通

打ち合わせ記録簿（京阪京都交通）

日時；平成 26 年 1 月 27 日

場所；京阪京都交通

出席者；京阪京都交通／村上課長、西村氏

京都府／馬籠主事

亀岡市／熊谷主査

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. H25 年度の取り組みについて

(1) 授業実施結果について

- ・家庭や先生から良い評価をいただいていることは前向きに受けとめたいが、南つつじヶ丘については、難しく不完全燃焼だった印象がある。
- ・人数が約 80 人と多い上に、学校の構造上小型のバス 1 台しか持っていくことができなかつたため、1 つの班の人数が多くなり、説明が行き届かない状態になっていたと思う。人数の割に時間も短かつたため、中途半端に終わった印象もある。
- ・また、バス停の説明の班があつたが、外回りの班が歩いてくると入り乱れる状況になっていたため、今回のやり方の中での改善点もあつたと思う。
- ・川東は、人数が少なくちょうど良い理想的な規模・内容となっていると思う。

(2) 事前の準備について

- ・準備は、事前に説明のポイントを示すくらいで、詳しい説明等は行っていない。大体運転歴の長い乗務員を参加させているため、興味を持ってくれるポイントについてはそれほど説明しなくてもわかっている。
- ・また、乗務員は子どもに興味を持って聞いてもらえるとうれしいというところがあり、実施することに抵抗はほとんどなかつたと思う。

2. 今後について

- ・年間 2 校くらいなら問題ない。
- ・川東は学校が良ければ実施すればよいと思う。南つつじヶ丘に課題があると考え、もう少し人数が少ない地域でありながらバスもある程度利用可能性がある地域を考えてみても良いのではないか。例えば、曾我部小学校等が考えられる。
- ・アンケート結果では、南つつじより川東で利用してみようと思う割合が高かつたことを考えると、バスが身近にあるが利用はあまりしないという地域で実施することが最も効果的なのかもしれない。そういったことの検証の意味も含めて、色々な地域でやってみるということも考えられる。
- ・ただ、南つつじヶ丘小学校がぜひ実施したいということであれば、断ることが難しいか

もしれない。その場合、運輸局等が実施しているシニア体験を一つの項目として入れることも考えられる。(京阪京都交通にキットが1セットある)南つつじで2回実施することも考えられるが、1回で終わる規模の方がありがたい。

- ・今後の学校との意見交換結果を踏まえて検討していく。

3. その他

- ・バスの乗務員は目立たず淡々と業務をこなすことが基本となる。マイスターのシールを貼ると、余計なタイミングで話しかけられたりして安全を損なうことも考えられる。
- ・会社として賛同するのは難しいかもしれない。

以 上

2) 京都交通

打ち合わせ記録簿（京都交通）

日時：平成 26 年 2 月 7 日

場所：京都交通舞鶴営業所

出席者：京都交通／山守所長、谷垣所長、福井氏

京都府／馬籠主事

福知山市／塩見氏

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の授業について

- ・3校の授業に5名の乗務員で交代しながら実施した。
- ・小学生と話をするのは普段ないことであるため、非常に一生懸命対応していて、とてもよかった。対応した乗務員も終わってから終わった直後には良かったという感想を言っていた。
- ・準備は昨年から経験している福井氏が車外・車内のそれぞれについて子どもに受けそうなネタをだし、各乗務員に説明した。排気ガスの量を牛乳パックに例える等、できるだ、子どもが分かりやすい例えをするようにした。
- ・今年は市役所が参加できなかったため、成仁小学校で天然ガス車がなかったが、もう1箇所くらいみられるものが増えると楽にできるかもしれない。
- ・1班の人数が多くなると、話が聞こえにくい子どもがいたり、質問を十分に受けられないため、実施するのが難しくなる。
- ・成仁小学校は長田野線の沿線で、福知山市内では比較的好条件である。川合や美鈴のような地域よりは、学校・事業者双方の視点から、成仁小学校のようにバスが身近に存在する地域で実施できると良い。

2. 今後の取り組みについて

- ・この取り組みに対しては、できる限り対応したい。
(・成仁小学校は継続する方向だが、美鈴小学校、川合小学校は複式学級で全学年を対象としていたこともあり、学校から来年度について手は挙がっていない。校長会等に情報提供を行い、もう1校は実施対象校を見つける予定。)
- ・マイスターシールについては、1.5 cmサイズのものなら各乗務員の名札に貼ることができる。こういったものがあると乗務員も喜ぶ。ただし、何枚も張ることはできないので、日付のないもので実施した人に1枚あれば良い。一応車内規程に関わるが、対応できると思う。
- ・できればマイスターリストにも、参加した乗務員をすべて掲載してほしい。

以 上

3) 阪急バス

打ち合わせ記録簿

阪急バス／坂氏、堀氏
京都府／馬竈主事
オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の実施結果について

- ・利用促進の取り組みは業務課で担当している。
- ・これまでも川西等で実績があり、小学校で授業を実施するのは慣れているメンバーである。
- ・シニア体験を実施したのは、乗務員教育を実施している部署のものである。

2. その他の状況について

- ・最近、このような取り組みが増えている。自治体が力を入れているようで、川西だけでなく、西宮市や猪名川町の小学校にも行っている。
- ・依頼は自治体からが多いが、猪名川町では学校から阪急バスに直接連絡をいただいた。
- ・どの小学校にもバスを持っていき、今回と同じような体験学習を実施している。猪名川町の小学校ではおそらく、学校が独自に事前学習やまとめを実施していると思う。
- ・たまに、マナーのことを実施してほしいとリクエストがあつたりするが、あまり要望に合わせて変えたりはしていない。

3. 今後の取り組みについて

- ・継続的に実施することは問題ない。人数が多い場合2回し等も可能である。
- ・ただし、京都の営業所はバスの車両が少ないため、タイミングをうまく合わせなければならぬ。

以上

4) JR 西日本

打ち合わせ記録簿 (JR 西日本)

日時：平成 26 年 2 月 4 日

場所：JR 西日本京都支社

出席者：JR 西日本／平野室長、畑氏

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の授業について

- ・安全ボタンやシニア体験について興味を持ってくれたのは良かったが、授業としてどれくらい効果があったと言えたのか不安はあった。
- ・会場の都合や学校の特性もあったが、本来おまけであるはずのものがメインになってしまい、表面的な理解・体験にとどまっているところがあったと思う。
- ・やはり寺田小の先生が言うように、1 年間の中でうまく活用してもらえるように調整、実施しないともったいない。
- ・また、興味を引くためにきぐるみを持っていったが、きぐるみで騒がしくなってしまったかもしれない。導入の説明が少し長かったため、その反動ということも考えられる。また、部屋が狭かったこともあったかもしれない。現場での先生の協力がほしかった気がする。
- ・今回は普段から社内外で安全対策の対応を行っている、安全推進室よりその活動の一環として実施した。

2. 今後の取り組みについて

- ・特に安全教育については JR としても進めていく必要があり、小学校を通じて実施できるとより効率的だと考えている。
- ・普段も置石等があると周辺の小学校に連絡を入れたり、つてを頼って小学校等に行き安全教室を実施することはあり、年数回は今回のような機会がある。
- ・学校が出前授業をうまく活用しながら、主体性を養えるようなものにしたいということであれば、プログラムの内容も昨年度実施したような仕事や今回の安全、福祉等を希望に応じて簡易に組み合わせて実施できるようにしておくの良いかもしれない。
- ・駅の見学も普段実施されていることを考えると駅を中心に活用した取り組みもあっても良いかもしれない。
- ・また、バスとは違い市町村との連携がしにくいことを考えると、JR や物流については、府から学校側へネタを発信できるようにすると良いと考えられる。
- ・いずれにせよ、JR としてはこの取り組みで仕事や安全の題材が一応は実施できることが分かったため、今後も必要に応じてできる範囲で対応していきたい。

- ・仕事のプログラムは動画が中心となっているが、打音検査やレールの点検等の一部分に焦点をあててサンプル等を活用できれば、理科の学習等とも関連づけられ学校側としても活用する意義が高まるものとなるかもしれない。今後検討したい。

以 上

4-1-5 自治体へのヒアリング

(1) 実施概要

以下の学校へヒアリングを行った。

表4-5 調査対象と内容

	実施内容	ヒアリング日
亀岡市	・バスプログラム ・物流プログラム	平成 26 年 1 月 27 日
福知山市	・バスプログラム	平成 26 年 2 月 7 日
長岡京市	・バスプログラム	平成 26 年 2 月 17 日
久御山町	・バスを使った見学	平成 26 年 2 月 4 日

(2) ヒアリング結果

1) 亀岡市

打ち合わせ記録簿（亀岡市）

日時：平成 26 年 1 月 27 日

場所：亀岡市役所

出席者：亀岡市／垣見係長、大石主幹、熊谷主査

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 取り組みの経緯

(1) 事業の開始（垣見係長）

- ・平成 18 年ごろより京都府が主導して、南丹地域の MM を実施してきた。亀岡では、平成 18 年に南つつじヶ丘での居住者 MM、平成 21 年に大井工業団地や南丹市八木（南丹病院等）で事業所 MM を実施していた。
- ・主な居住地や事業所を実施したため、次は学校 MM かという話があった時に、京都府がエコモ財団の補助を受けることが決まった。
- ・その際、京都府では色々な市町村に声をかけていると思うが、手を挙げたのが亀岡だけだったと思う。

(2) 学校との調整（垣見係長）

- ・初めは、学校の特性の違いから効果の違いを見ることを目的として、市街地と周辺地域の学校で 1 校ずつ選んでもらえるように教育委員会に依頼した。
- ・その結果、手を挙げた学校がなかったが、その当時教育委員会の窓口（指導主事）となっていた谷先生が川東小学校の校長として赴任することが決まっていたため、川東小学校で受け持ってもらうようにした。また、もう一校は地元の関係から実施してもらうようお願いした。
- ・川東小学校については、普段からバス通学をしているため、ちょうど良かったが、大井小学校はバスをまったく利用する機会がなく、少しいが外れた面がある。
- ・これらの説明を行う際には、久御山で初めに実施された学校 MM の資料を使って説明した。先方も環境学習等はそれまでも実施していたので、大きな違和感はなかったものと思われる。総合学習の時間が減少する前は、バスや電車を社会見学等で利用しようという取り組みを結構実施しており、その点でも内容に対しての理解はあったと思う。

(3) 2 年目の調整（垣見係長）

- ・初めの京都府との話では、評価の観点次第で、同じところでも良いし違うところでも良いということで、学校へお願いしていた。
- ・1 年目の実施後に学校に話を聞いたところ、忙しいため別の学校で実施してほしいとい

う話があった。1年目は4時間(2時間×2回)を確保してもらっていたので、その点でも学校にとっては抵抗があったかもしれない。

- ・その後、教育委員会の指導主事のところへ相談に行ったところ、対象を変えると調整がややこしいので川東・大井の両校で3年間事業を継続的に実施してもらえるように依頼をしてくれた。
- ・その結果、両校とも2時間ということで、実施することが決まった。同じ学校で改良しながら効果の違い等の経緯を見ていくという趣旨になったものと記憶している。

(4) 3年目の調整(大石主幹)

- ・授業を実施してくれている京阪京都交通から、効果を高める意味ではより利用を見込むことができる地域で実施したいという話があった。
- ・サービスレベルから考えると南つつじヶ丘小学校かつつじヶ丘小学校が対象と考えられたが、学校の規模が大きすぎると実施しにくいこともあり、規模の小さい南つつじヶ丘小学校を対象とした。利便性も南つつじヶ丘小学校の方が高いと思う。
- ・これを踏まえて、教育委員会経由で南つつじヶ丘小学校に相談したところ、了解していただけただけ。バスが身近な題材であるということもあったと思う。

2. 取り組み効果について

- ・バスの運行には市の負担や府・国からの補助金も出ている。教育委員会も含めた市役所として、そういった路線の利用促進を図っていなければならないし、すぐに利用してもらえなくてもバスの役割や運行を理解してもらえるように努力をしていかなければならない。それら視点では、子どもに授業を実施することで親に伝わるし、直接大人に利用促進の広報や意義を説明するようなことをするより、格段に効果が大きい取り組みと考えられる。教育委員会にもこの点は説明していた。(垣見係長)
- ・昨年度2校で担当した。小学校でこのような説明をするのは初めてであり、難しかったと記憶している。小学校に対する抵抗感は少なくなったかもしれない。また、市民への啓発としては有用と考えており、現在計画している公共交通計画においても市民への理解促進や市民と行政の協働でバスを支えていくための取り組みの一つとして、交通環境学習を継続させていくこととしている。交通環境学習を地域の取り組みとして柔軟に活用していけると良い。(大石主幹)
- ・時間の余裕があまりなく何を話しているかよく分からなくなった記憶がある。また、何度が実施してみて慣れないと緩急の付け方がよく分からないため、ある程度なることが重要だと思う。また、小学生に説明する機会は初めてだったが、交通と地域の関係を改めて考える機会にはなったと思う。(熊谷主査)

3. 今後の取り組みについて

- ・市域全体で実施できるように続けていきたいと考えている。
- ・ただ、新たなところに広げるとアレンジや準備の事業者も含めて負担が大きくなるため、府と連携しながら実現可能な範囲で進めていきたい。

以 上

2) 福知山市

打ち合わせ記録簿（福知山市）

日時：平成 26 年 2 月 7 日

場所：福知山市役所

出席者：福知山市／井上係長、塩見氏、山中氏

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 今年度の取り組み経緯

(1) 学校との調整

- ・昨年度末の時点で、前任の亀谷氏が校長会へ成仁小学校で実施した内容についての資料を出しており、美鈴小学校と河合小学校から手が挙がった。
- ・成仁小学校は昨年度からの継続で受け入れてもらっており、それ以外に特に学校との調整はしていない。
- ・今年度も校長会への資料の提出をしている。配布したのは、今年度成仁小学校で実施する際に学校に渡した授業主旨の資料、授業の流れを示した資料、今年度の家庭向けチラシである。
- ・成仁小学校以外でもう一校実施してもらえるように調整したいと思っている。手が挙がらなければ市役所に近くまちなか循環も身近に走っている惇明小学校へ声をかけてみようと思っている。

(2) 事業者との調整

- ・美鈴小学校、河合小学校での実施に当たり、京都交通が運行しているエリアでないため、市バスの受託業者との調整を図った。
- ・しかし、バス車両の余裕がなく実施できる曜日と時間が限られることや、車両の見どころも少ないことが理由で依頼できなかった。
- ・また、河合小学校では近くを運行している JR 西日本バスにも声をかけたが、バス車両が学校に入れることができないということであきらめ、結局京都交通にお願いすることになった。
- ・その際、JR 西日本バスからは京丹波町で独自に取り組みを実施しようとしているという話があった。また、丹海バスも自主的に幼稚園等を回って乗り方教室等を実施していると聞いている。地域に根差した規模の小さい事業者であるため、自分の地域の活性化という意識があり、取り組んでいるのではないか。

2. 取り組み効果について

- ・台風による被災対応で授業に参加できなかったため、今回の効果等についてはよく分からない。

3. 今後の取り組みについて

- ・学校 MM 以外も含めて、市域の公共交通の活性化という面から推進していかなければならないと考えている。
- ・福知山の子どもは、普段バスに乗る機会が全然ない。将来的、長期的な視点で必要な取り組みだと考えている。
- ・利用の変化等の効果は見えにくいですが、子どもがバス車両を観察したり、運転手の話を聞いて、どういことを心にとどめたかということ、家庭でどんな話題があったかといったことを重要視して取り組んでいきたい。

以上

3) 長岡京市

打ち合わせ記録簿（長岡京市）

日時：平成 26 年 2 月 17 日

場所：長岡京市

出席者：長岡京市／河原氏

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

1. 取り組み経緯

- ・平成 21 年に京都府からの声掛けで、2 校（第四小学校、第六小学校）で 5 年生を対象に環境をメインにしたプログラムを実施した。当時の長岡京市の担当者（北村氏）が京都大学に 1 年間研修に行った経験があり、情報や人脈があったため実施できたものと思われる。
- ・平成 22 年度もアゼリア通りの関係でまちづくりシンポジウムを実施した一貫として 2 校で実施している。対象は長法寺小学校と神足小学校だが、おそらくアゼリア通りに近い校区を選んで実施したのではないかと推測される。内容は、1 年目に検討したものを使用していると思う。その後、北村氏が異動してしまったため、それ以降は取り組みが実施されていなかったものと思われる。すべて行政が講義をする内容であり、資料だけが残っていても実施が難しいということがあったかもしれない。
- ・しばらく実施していなかったが、昨年度地域公共交通ビジョンを策定した中で、取り組みの一つとして MM や交通環境学習を位置付けていた。
- ・どこかで実施しなければならないが、どう学校側に声掛けをして良いか悩んでいた時に、学校からタイミング良く手が挙がったため渡りに船だった。
- ・準備は 2 回ほど学校と調整の打ち合わせに行ったが、阪急バスの実施内容がよく分からず直前まで資料が定まらなかった。資料のアレンジ、修正は主に京都府が実施した。
- ・阪急バスには当初後ろ向きな返答をされたが、その後実施してくれることになった。ただ、実施するならばすべて任せてほしいということで、見学部分の内容は事前確認や調整があまりできなかった。
- ・阪急バスとしては本来低学年向けに準備しているプログラムで、紙芝居等はバスの中ですべて実施する想定のようなのだが、4 年生で体が大きいこと、人数が多いことから外で実施することになった。学校からは、興味を持って分かりやすい内容ということで好評だった。

2. 効果について

- ・今後市で実施していかなければならないと思っていたところに、今回のような機会が得られたため、良い機会でありがたかった。

- ・小学校で話したのは初めてで緊張した。飽きさせないようにしないといけないと感じた。

3. 今後の取り組みについて

- ・ビジョンに示していることもあり、少し広げながら継続的に実施していきたい。
- ・長岡京市では、市長の政策ですでに森林学習や景観学習が組み込まれており、さらに交通を増やしていくのにどうアプローチしていくかが難しい。
- ・福祉の視点では、市内では必ず実施するということがあったため、その線で広げていく子が考えられる。
- ・別途、近畿運輸局が来年の夏休みに交通の講座を実施するという話があった。

以 上

4) 久御山町

打ち合わせ記録簿（久御山町）

日時：平成 26 年 2 月 4 日

場所：久御山町役場

出席者：久御山町／本郷氏

京都府／馬籠主事

オリエンタルコンサルタンツ／土崎

I. 取り組み経緯

- ・久御山町では平成 17 年から学校 MM を実施している。
- ・はじめは、府の取り組みとして村尾課長等からの依頼があり対応した形だったと思うが、のってこバスが平成 16 年から走り始めているため、それを受けて始めたという意味が大きかったかもしれない。
- ・また、その時期には居住者 MM や事業所 MM、工業団地のバス試験運行等も実施しており、その一環としての取り組みであった。
- ・当初は、年度初めの校長会で学校への依頼を毎年行っていた。当初は佐山小学校だけだったが、2 年目から 3 校とも実施してもらうことができた。
- ・当初 3 年ほどは府がコンサルタントに委託しており、学校ともかなり頻繁に打ち合わせをしながら、時間をかけてプログラムを検討した。
- ・当初のプログラムの中では事業者との連携は特になかった。
- ・特に 1 年目は子どもにのってこバスの歌やキャラクターを作ってもらうなど手探り状態でとても大変だったと記憶している。
- ・当初は基本的に交通すごろくやピンポンバス等の松村先生の出前授業を実施してから、体験乗車を行い、最後にまとめや発表をするといった長時間のプログラムを作っていた。
- ・松村先生には市から謝金を支払っていたが、平成 20 年ごろから出前授業なら内部でも可能だということで予算化ができなくなり、出前授業は実施しなくなった。
- ・体験乗車については、年間 5、6 万程度の予算が認められておりその後も継続的に実施している。
- ・体験乗車については、当初は安全管理や気分が悪くなった子どもを運べるように後続車を付けて対応していた。一般の利用者が少ないこともあり、近年では特に特別な対応は行っていない。
- ・人数が多いと実施しない場合があるが、それでも町の送迎バスとのってこバスを両方を使い、行きと帰りのどちらかで のってこバスに乗れるような形で実施する場合もある。
- ・のってこバスで町役場に来た際には、待ち時間に運転手へのインタビューをしたり、役場の職員からバスについて説明をすることもある。のってこバスの運行は京阪宇治バスと京阪シティバスに委託しているが、運転手は見学の対応に慣れており準備等はしてい

ない。

- ・実施するには、学校から連絡があり、人数分の運賃を準備している。課に新しく来た課長等からはそこまでする意味があるのか、といった疑問も出ることがあるが、大した手間ではないし、実際にお金を払って乗ってもらうことは重要だと思う。また、何より学校がこれを求めているため、続けていきたいと考えている。
- ・その他、学校からのってこバスの歴史について出前授業をしてほしいと依頼されることがあり、職員で説明をしている。まず、町の紹介をするビデオを見せ、バスができた背景や役割について説明している。5年生の授業で実施されることが多い。

2. 効果について

- ・のってこバスの利用には実際にどれくらい効果があるのか疑問はあるが、今まで乗ったことがなかった子供が実際に乗ってみて乗り方が分かったと言ってくれたり、出前授業でありがとうと言ってもらえるとうれしい。
- ・また、のってこバスの歴史等について教える機会は、新しくきた職員等が経緯を振り返る機会にもなるし、それを子どもに伝えるということで認識を高めることができ、有効な機会だと思う。

以 上

4-1-6 評価のまとめ

(1) バス車両見学プログラム(川東・南つつじヶ丘・成仁・美鈴・川合)

1) 家庭アンケート

- 全体に実施されて良かったと回答しており、事業者イメージも向上。
- 普段利用しない人でも前向きな回答（美鈴・川合は効果が比較的低い）。

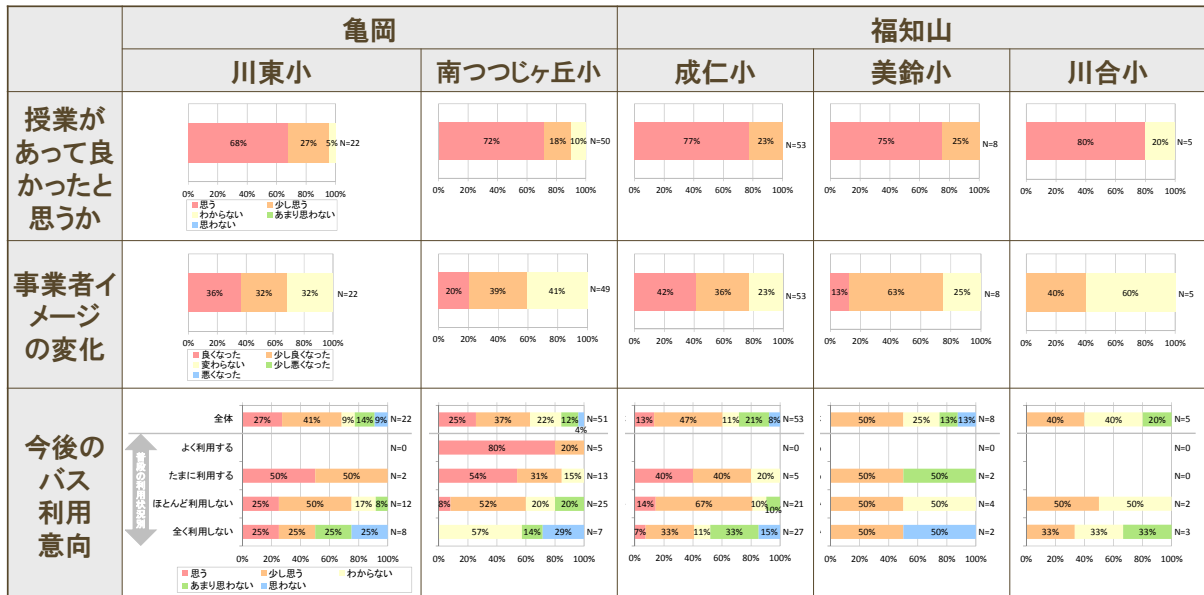


図 4-20 バス車両見学プログラム(家庭アンケート結果)

2) 学校ヒアリング

・学校側での位置づけ・活用が見られ、学習を深められる身近な素材として評価。

		結果・感想	今後について
亀岡	川東小 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は総合学習で環境をテーマに取り組んでいる。その一環に交通環境学習の授業を位置づけた。 現在そのまとめを実施しているが、交通環境学習を題材として選んだ子どもが10人おり、具体的にどのくらいの人数が乗れば環境に良いのかとか、車いすの固定箇所はなぜ入口のそばにあるのかを調べたりしている。 環境の面でとても有効に活用することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 川東小学校としては、3年間続けてきて定着したのとなりつつある。 実施してもらえらるなら前向きに検討したい。
	南つつじヶ丘小(5年)	<ul style="list-style-type: none"> とにかく地域に身近な交通手段であるため、題材にした効果は大きかった。 環境の話を多く盛り込んだ内容になったが、5年生では環境の内容が多いため担任も効果的な内容になったと話していた。 	<ul style="list-style-type: none"> バスの授業を実施するのに南つつじヶ丘小学校を除くわけにはいかないと思う。 次年度も実施してもらえらるなら前向きに検討したい。
福知山	成仁小 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 今年も福祉をテーマにした総合学習の一環として実施した。桔梗の社での活動と関連付けられて良かったと思う。 その中で実施するプログラムとしてちょうど良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も前向きに検討したい。2時間だけで終わるのもったいない。前後とつながっていくような取り組みにできると良い。 2年生で毎年、電車を使って見学に行くが、その際に福祉等の面から駅見学をしたりインタビューができたりすると良いと思っている。
	川合小 ・美鈴小	-	<ul style="list-style-type: none"> 全学生に対して実施したため、次年度は考えていない。
	第十小 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の総合計画の内容検討時に、ちょうど良いものがあると思ひお願いした。実際に体験できたりキャラクターをうまく使って興味を引いてもらったのが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も福祉をテーマに実施することは変わらないため、前向きに検討したい。

図 4-21 バス車両見学プログラム(学校ヒアリング結果)

3) 事業者ヒアリング

・充実感や楽しさが評価されている一方、対象人数の課題が指摘。

	結果・感想	今後について
京阪京都交通 (川東・南つつじ)	<ul style="list-style-type: none"> ・川東は人数が少なく理想的な規模・内容となっていると思う。 ・南つつじヶ丘は説明が難しく(人数が約80人と多く、小型のバス1台しか入ることができない)不完全燃焼だった印象がある。 ・乗務員は子どもに興味を持って聞いてもらえるとうれしく、実施に特に抵抗はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2校くらいは問題ない。 ・もう少し人数が少なくバスもある程度利用できる地域を考えてみても良い。
京都交通 (成仁・美鈴・川合)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と話をするのは普段ないことで、乗務員が非常に一生懸命対応していてとてもよかった。 ・1班の人数が多くなると、話が聞こえにくい子どもがいたり、質問を十分に受けられないため、実施しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この取り組みに対しては、できる限り対応したい。 ・学校・事業者双方の視点から、バスが身近な地域でできると良い。
阪急バス (第十)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務課の利用促進の取り組みとして他課と連携して実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都はバスが少ないが、継続的に実施することは問題ない。

図 4-22 バス車両見学プログラム(事業者ヒアリング結果)

4) 自治体ヒアリング

- ・意識啓発だけでなく行政政策への理解、計画での位置づけの点から必要と考えられている。
- ・引き続き府との連携が求められている。

	結果・感想	今後について
亀岡市 (川東・南 つつじ)	<ul style="list-style-type: none"> ・何度か実施してみても慣れないと緩急の付け方がよく分からないため、慣れることが重要。 ・小学校に対する抵抗感は少なくなったかもしれない。交通と地域の関係を改めて考える機会にもなった。 ・バスの運行には行政の負担がある。すぐに利用してもらえなくてもバスの役割を理解してもらえるように努力していかなければならない。その点では、子どもに授業を実施することで親に伝わり、直接大人に説明するより、格段に効果大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在作成している計画でも市民と行政の協働でバスを支えていくための取り組みとして、継続させていくこととしている。 ・広く実施できるように府とも連携しながら続けていきたい。
福知山市 (成仁・美 鈴・川合)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による被災対応で授業に参加できなかった。 ・福知山の子どもは普段バスに乗る機会が全然ない。将来的、長期的な視点で必要な取り組みだと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市域の公共交通活性化の面から推進していきたい。 ・成仁小以外でもう一校実施できるよう府と連携して調整予定。
長岡京市 (第十)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度地域公共交通ビジョンを策定した中で、取り組みの一つとして交通環境学習を位置付けていた。 ・市で実施していかなければならないと思っていたところに、今回のような機会が得られたため、良い機会でありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広げながら継続的に実施したい。 ・福祉の学習を市内では必ず実施するため、福祉の線で広げていくことが考えられる。

図 4-23 バス車両見学プログラム(自治体ヒアリング結果)

(2) 物流工夫プログラム(大井)

- 社会の学習を深める素材として評価されている。
- 公共交通の面でも一定の意義があると考えられる。

<授業感想>

- どのトラックも、(配達用の)自転車も環境に良かった。**自分が知らないことをたくさん知れてよかった。**
- この授業をして初めてクロネコのマークの意味が分かった。
- 車のガスが出ないようにまちをキレイに心がけて、**大井町をキレイにしたい。**

<学校ヒアリング>

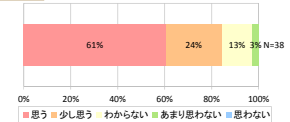
- 自転車での配達も、トラックも間近に見られないので、**身近に感じられ良かった。自動車生産の学習とのタイミングも良かった。**
- 学校の希望としては、**バスや鉄道より5年生の社会の一環として物流プログラムを継続して実施したい。**
- 2年の生活科でJRに乗って梅小路の鉄道博物館と水族館に行く授業がある。ここで、**駅の仕事見学**をしたり、博物館で**JRの方の話**を聞いたりできると良いかもしれない。

<自治体ヒアリング(亀岡)>

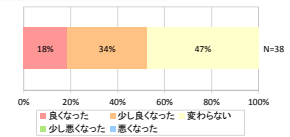
- 間接的な内容だが、アンケートの結果からもきっかけとして重要。

<家庭アンケート>

▼評価



▼事業者イメージ



▼利用意向

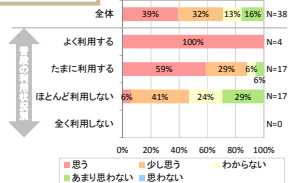


図 4-24 物流工夫プログラム

(3) 鉄道プログラム(寺田)

- ・体験としては良かったが学習の発展につながらなかった点が課題。
- ・駅見学を活用した取り組みも考えられる。

<授業感想>

- ・目が見えない人はとなりに人がいて誘導してくれてもすごく怖いんだと分かった。
- ・アイマスク体験で段差がとても怖かった。「目が見えてよかった」と思った。
- ・非常ボタンなどの設備のことや障害のある人やお年寄りの人の気持ちに少なれました。そういう授業をとっても楽しくしてもらった。
- ・電車に乗る時今日のことを思い出して乗ろうと思う。
- ・自分が電車のことを全然知らなかったのでこの授業で電車の良い点が分かってよかった。

<学校ヒアリング>

- ・鉄道はとても身近な題材であり、活用できる可能性は高い。安全ボタンの体験や高齢者体験等があったが、一度やってみないと大人でもわからないようなことで、気づきとしては重要だった。
- ・内容にあまり統一性がなく、焦点が定めにくい内容だったのではないかと感じた。受け身の学習になっている印象があった。
- ・探究心を引き出せるようなものになると良い。例えば城陽駅をテーマに、福祉やキャリア等のそれぞれの視点で調査やヒアリングを行い、その結果から課題やできることを考える等が考えられる。学校側としては、総合等の学習計画を検討する際、外部に協力してもらうことも想定するが、実際に協力が得られるかどうかかわらず検討にも立てるのに非常に苦勞する。そこに活用できる様な素材・情報があると良い。

<事業者ヒアリング(JR西日本)>

- ・安全ボタンやシニア体験を通じて興味を持ってくれたのは良かった。特に安全教育についてはJRとして進めていく必要がある、小学校を通じて実施できるとより効率的と考えている。
- ・仕事や安全、福祉等をニーズに応じて組み合わせられるようにしておくとも良いかもしれない。駅を活用した取り組みがあっても良いかもしれない。

図 4-25 鉄道プログラム

(4) バスを使った見学プログラム(東角)

- WSを活用し、のってこバスをテーマにして体験乗車が行われた。
- 学校・行政双方に求められる取り組みとして発展。

<学校ヒアリング(東角小学校)>

- 2年生の生活科でのってこバスを中心にしたまち探検で、もらっていたWSをしおり形式にアレンジして活用した。
- <導入2時間>
 - 事前学習として**どんな人が利用するかを予想したり、運転手さんに質問したいこと**等を考えた。
- <体験2時間>
 - バスに乗車し運転手さんへのインタビュー等**を実施した。2クラスあり、行きと帰りで町の送迎バスとのってこバスのどちらかを利用した。
- <まとめ3時間>
 - 聞いたことや気づいたことを**発表しあったり、印象に残ったことをまとめる学習**を行った。
- **普通のバスと送迎バスの違い**を知ったり、のってこバスの車体の色による路線や運行会社の違い、**バズル柄の意味**等、色々な気づきがあった。

<自治体ヒアリング>

- **年間5、6万程度の予算**が認められており継続的に実施している(人数分の運賃を準備)。当初は安全管理として後続車を付けていたが、最近は特に対応は行っていない。
- 取り組みを知らない人から、意味があるのかと言われることもあるが、**実際にお金を払って乗ってもらうことは重要**。また、何より**学校が求めているため、続けていきたい**。

▼先生が作成した資料



図 4-26 バスを使った見学プログラム

4-2 これまでの取り組みの評価

4-2-1 整理の考え方

京都府において次年度以降、何をどこでどう展開していくことを目指すかを整理するため、本事業以前も含め、これまでのヒアリング結果等から把握できる取り組みについて実施経緯やポイントを整理した。

以下の取り組み種別ごとに各関係者（学校・事業者・自治体）の視点での評価や推進・展開に関わる特性、課題を整理した。

- バス車両プログラム
- 物流プログラム
- 鉄道プログラム

4-2-2 これまでの経緯の整理

(1) バス車両プログラム①(亀岡市・福知山市・長岡京市)

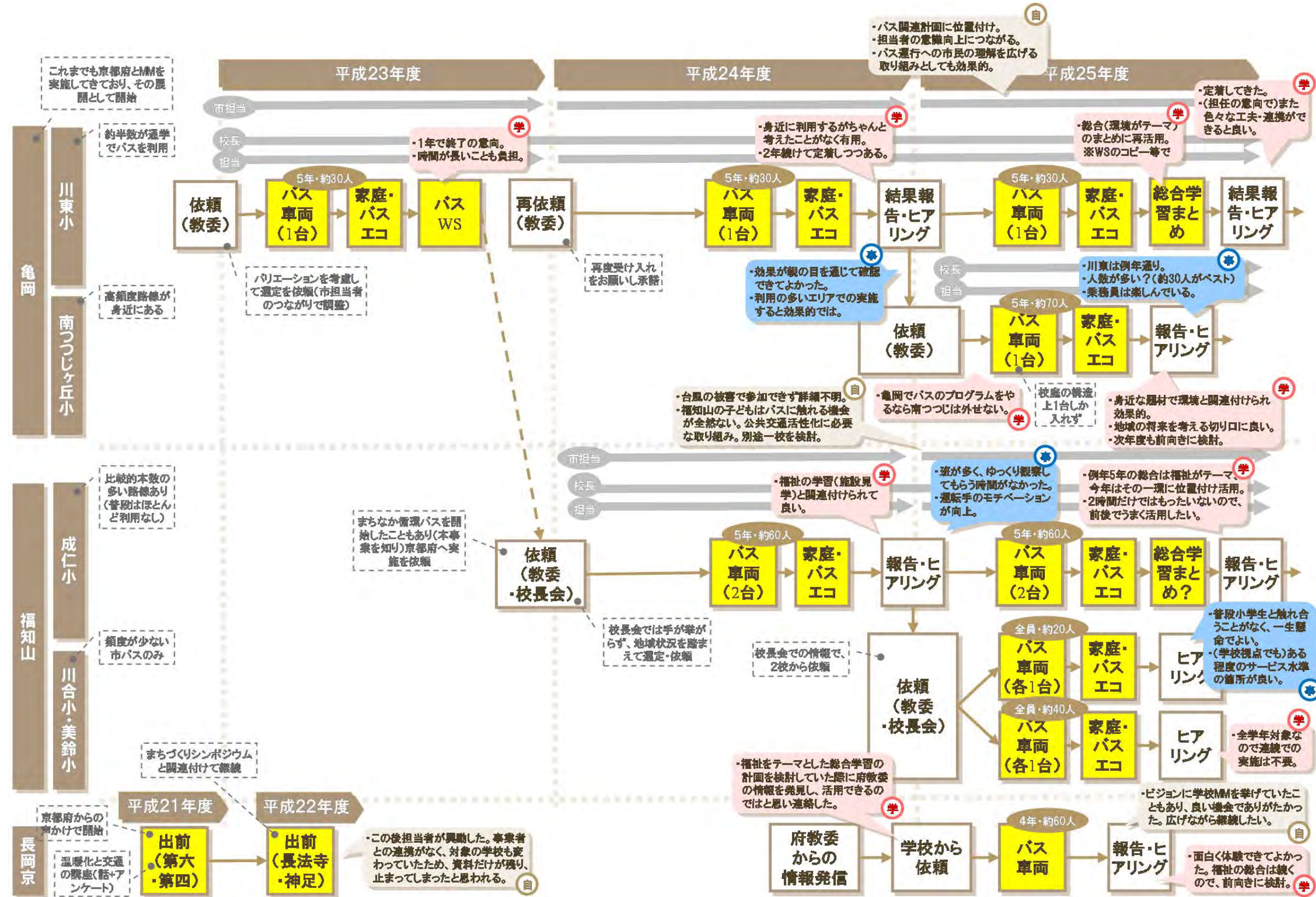


図 4-27 取り組み経緯の整理(バス車両プログラム①)

(2) バス車両プログラム②(久御山町)

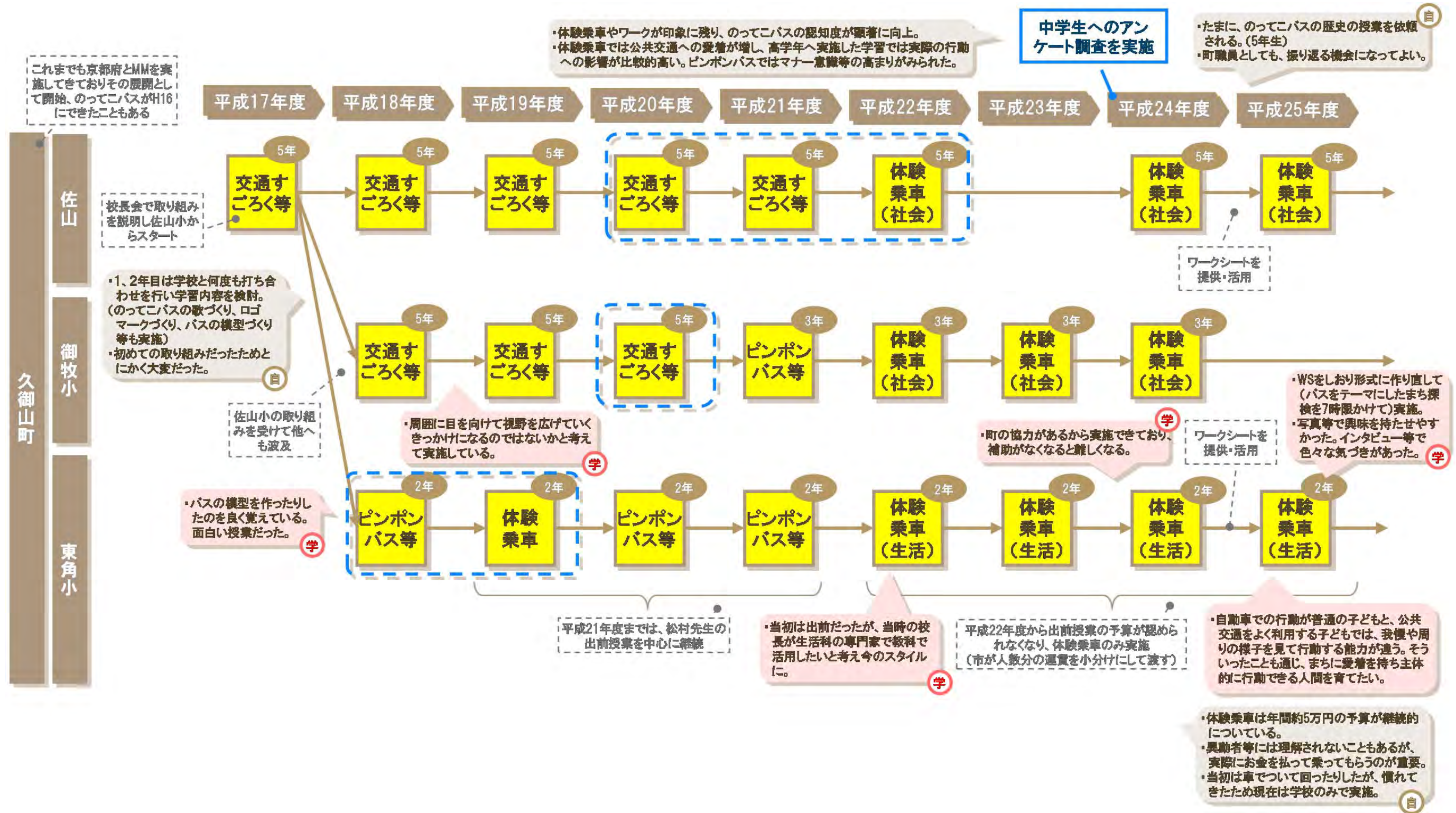


図 4-28 取り組み経緯の整理(バス車両プログラム②)

(3) 物流・鉄道プログラム

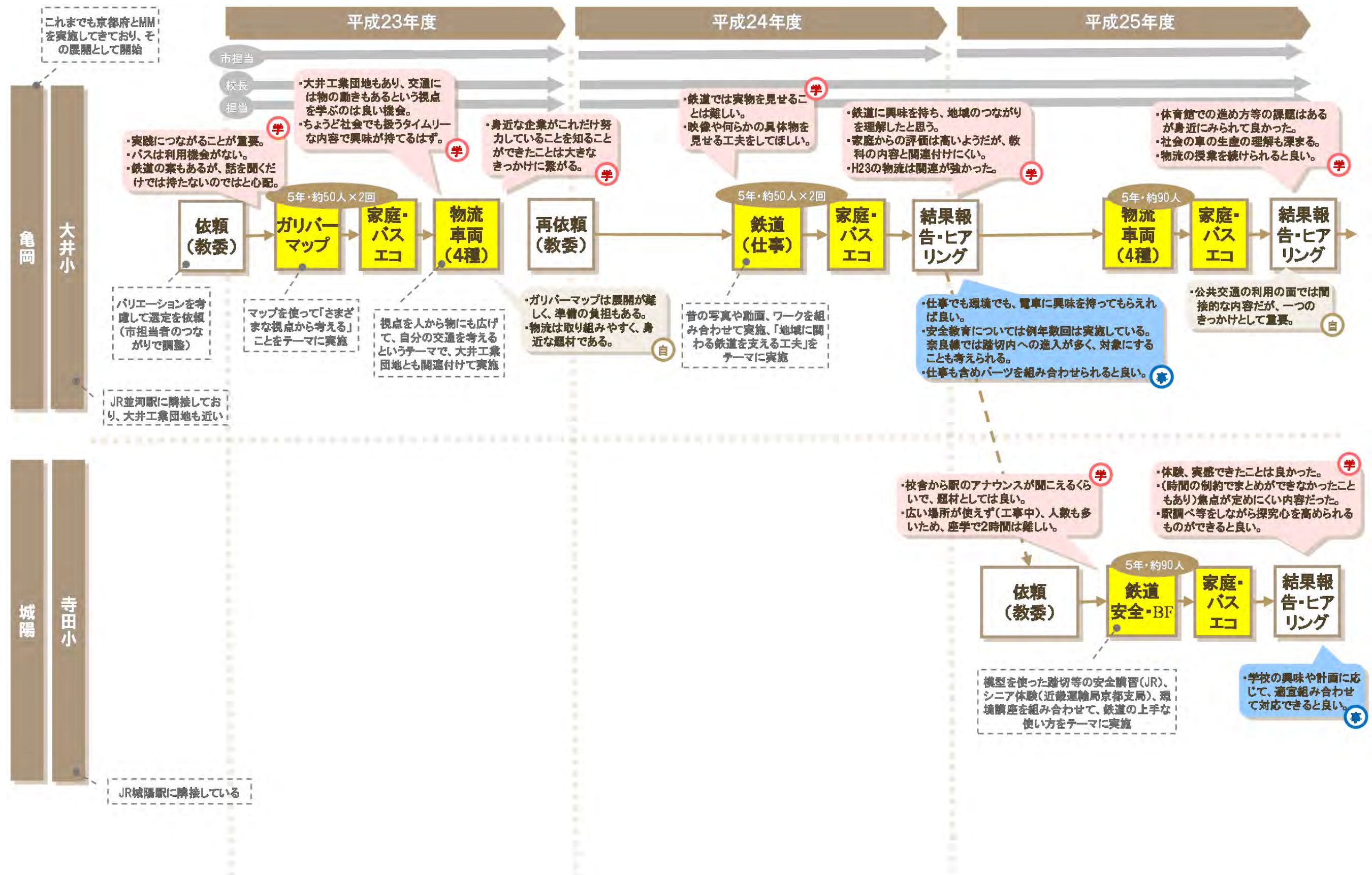


図 4-29 取り組み経緯の整理(鉄道・物流プログラム)

4-2-3 評価・課題のまとめ

前項の整理を踏まえて各取り組みの評価課題を整理した。

	学校	事業者	自治体
バス 車両	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を見られる機会が有益 ・福祉(4、5年)、環境(5年)等に活かせる ・マナー、地域愛着にも効果あり <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは理解されにくいが実施すると好評 ・数年努力して続け先生の理解が得られると、定着・浸透する(川東・東角) ⇒総合学習(環境・福祉)や生活科(まち探検)で活用され、省力化+新たな展開へ ・バスが身近な地域では、特に効果がある(市街地でも身近な存在でなければ難) 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの認知度向上、利用増加 ・乗務員のモチベーションアップ、楽しんで実施 ・会社のイメージアップ <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間対応可能数は限りあり ・楽しみ、手ごたえを持てる規模が望まれる (1回30人程度がベスト、人数が多いと浸透しにくい) ・できるだけ身近な地域で実施 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の増加(意識啓発) ・担当者の意識向上 ・公共交通行政への理解 <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス等の運行、計画での位置づけがある地域 ・MMの実施経験があると抵抗が少ない?
物流 車両	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を見られる機会が有益 ・産業、車生産(5年)に活かせる <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流、産業が盛んな地域で、特に効果 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社のイメージアップ ・環境等の地域貢献の一環 <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応可能地域、数は限りあり 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の増加(意識啓発) ・公共交通の利用に関しても、きっかけとして重要
鉄道 (仕事・安全・BF)	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科との関わりが持たせにくい ・実物を見られないため、身近に感じにくい <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅に近い学校、キャリア教育に力を入れる学校等では、活用できる可能性 ・鉄道を利用した見学等の際での、駅見学やインタビュー等はニーズあり(東角小方式の電車Ver.) 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道に興味を持ってもらえる ・会社のイメージアップ <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育は例年実施 	<p>○評価・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の増加(意識啓発) ・担当者の意識向上 <p>●特性・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道に対するインセンティブは小さい(バスに比べて)

図 4-30 評価と課題の整理

4-3 目指す方向

(1) 取り組み項目ごとの方向性

前項を踏まえた各項目の方向性を以下に示す。

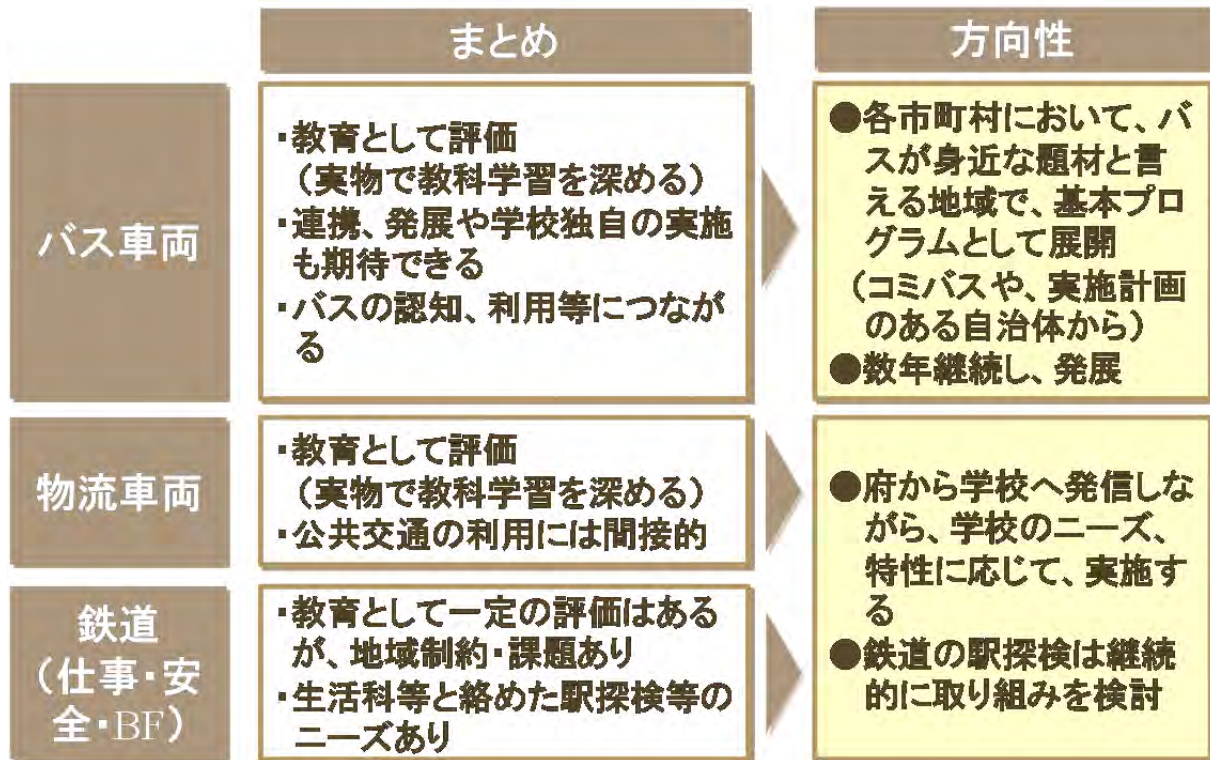


図 4-31 評価のまとめと方向性

(2) 京都府における今後の交通環境学習の進め方

以上を踏まえた、京都府における今後の環境学習のコンセプトと実施内容・目標を整理した。

京都府における交通環境学習のコンセプト

- 府を中心とした関係者の連携により、バス車両等の**交通資源**を**学習の深化**に活用していただく。
- これを通じて、児童・家族の公共交通への**親しみ**、**愛着**を醸成するとともに、学校や地域等とのさらなる**連携**、**交通まちづくり**の推進を図る。

今後の実施内容・目標

	実施主体	対象(地域・学年)	継続	長期的な内容の発展
バス 車両プロ グラム	○市町村を中心、事業者と連携して展開 ○府がサポート、アドバイス	○市町村毎に、バスが身近な地域から数校で実施 ○4、5年生(福祉・環境)を中心に実施	○数年以上継続して実施(学校に理解、浸透させる)	○総合や教科学習との連携、活用 or まち探検・施設見学での体験乗車等へ発展(効果の向上、省力化⇒他への拡大)
物流工夫・ 鉄道プロ グラム	○府を中心に発信し、事業者・市町村と連携して展開	○希望があった学校に対応して、できる内容を提供	○数年以上継続して実施	○総合や教科学習で連携、活用
駅探検	○府、JRで検討	○興味のある学校で取り組みを検討・試行		

図 4-32 今後の交通環境学習の進め方

5. 発信・コミュニケーションの仕組みづくり

5-1 発信の試行

(1) 目的

発信・コミュニケーションの仕組みづくりに向けて、自治体職員・交通事業者への情報提供内容を検証、課題を整理するため、試作・発信を行った。

(2) 実施概要

実施概要を以下に示す。

表 5-1 実施概要

日時	平成 25 年 7 月 22 日
場所	京都府内市町村 担当者会議
対象	・市町村担当者（13 自治体） ・交通事業者（9 社）
内容	・環境学習の取り組み効果、概要の周知 ・アンケート調査 （周知内容の理解、実施意向等）

(3) 発信の試行

1) 説明資料(試作資料)

交通環境学習のすすめ

京都府建設交通部 交通政策課

1. 交通環境学習とは

2) 取り組みの概要

- 小学校等を対象にバス等の交通を題材とした出前授業や体験乗車を実施しています。

交通すごろく

すごろくを使って交通や地域の問題を考える

体験乗車

実際の路線バスに乗車して地域のつながりを学ぶ

バス車両見学

バス車両の工夫を通じて地域のことを考える

バスエコツアー

家庭でのバス利用のきっかけづくり

1. 交通環境学習とは

1) 取り組みの背景

- 公共交通活性化の取り組みとして、ハード・ソフトの様々なものがあります。
- 意識づけは幼少期から行っていくことが効果的と言われています。

1. 交通環境学習とは

3) これまでの実施状況

- 京都府では平成17年より、様々な地域で交通すごろくや乗車体験など、地域や対象学年にあわせた出前授業等が実施されています。(京都府が実施・支援)

▼これまでの実施状況

1. 交通環境学習とは

3) これまでの実施状況

実施市町村	小学校名	学年	内容
H17 久御山	徳山	5年	のびてこぼろの授業を学ぶ
	徳山	5年	交通すごろく
	徳山	5年	地域の課題について学ぶ
H18 久御山	徳山	5年	バスエコツアー
	徳山	5年	バスエコツアー
	徳山	5年	バスエコツアー
H19 久御山	徳山	5年	バスエコツアー
	徳山	5年	バスエコツアー
	徳山	5年	バスエコツアー
H20 八幡	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
H21 久御山	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
H22 宇治	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
H23 久御山	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
H24 久御山	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
H25 久御山	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車
	徳山	5年	交通すごろく、体験乗車

2. 交通環境学習の意義と効果

1) 学校・教育の視点から

“交通”は、

- 子どもにとっても日常生活の欠かせないツール
- だから、身近な社会や地域生活とのつながりを実感できる題材

- 交通を題材(きっかけ)にすることで、効果的に「地域の共存」や「社会・地域に対する態度」についての理解・考えを深められます。
- また、実際にふられること、外部からの刺激になることで、興味を持ちやすく印象に残る授業となります。

2. 交通環境学習の意義と効果

1) 学校・教育の視点から

- 実際に先行事例(久御山町)では、(2~6年後のアンケート調査)では、周囲に対する配慮や地域に対する意識の向上が見られました。

▼授業の記憶と周囲への配慮(乗車時に騒がないようにする)

記憶が強いほどマナー意識が高い!

▼授業の記憶と地域愛着(久御山町が好きか)

記憶が強いほど地域愛着が高い!

2. 交通環境学習の意義と効果

1) 学校・教育の視点から

- 実施している学校の先生も教育効果を実感されています。

▼小学校の先生のご意見

地域のことを学習する際に活用バスなどだけでなく、バスに自分で料金を払って乗車し施設まで行く体験をしています。

これを通して、バスに乗れば自分の足だけでは行けない色々なところに行けるといふ認識が広がっていき、電車で送られて視野を広げていくきっかけにはなっていないかと考えています。

園遊等の見学に行く際、交通手段も含め別個に学習するために移動手段としてバスを活用しています。

普段から自転車を利用する環境で育った子どもと、公共交通をよく利用する子どもでは、我慢強さや人の様子をみて行動する術が違ってくると思います。

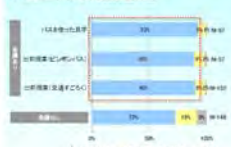
この授業も活用しながら、自分のまわりに愛着を持ち主体的に行動できる人間を育てたいと思っています。

2. 交通環境学習の意味と効果

2) 自治体の視点から

- 子どもや家庭への公共交通の利用促進が期待できます。
- 実際に、先行事例ではバスの認知度や利用意識等の向上が見られました。

▼コミュニティバスの認知度の差



受講したグループの認知度が高い

▼行動時にバスを考慮する割合



受講したグループの考慮率が高い

2. 交通環境学習の意味と効果

2) 自治体の視点から

- 子どもや家庭への公共交通の利用促進が期待できます。
- 実際に、先行事例ではバスの認知度や利用意識等の向上が見られました。

▼保護者のバス・電車の利用意向 (授業フィードバック後)



▼保護者の感想 (授業フィードバック後)

毎日通学に利用していましたが深く考えず乗せて置いていたのが子供の意識が変わり、とても良い経験になりました。
 豊城市に住んでいると電車やバスより自家用車を利用する機会が多くなります。子供たちにとって、さまざまな体験、経験をすることには親として大歓迎です。少し身近に考えるようになったと思います。

2～3歳の利用意識を創出!

2. 交通環境学習の意味と効果

3) 交通事業者との連携について

- 交通事業者との連携により、交通をより身近に感じてもらうことができ、効果が高まります。
- また、交通事業者のイメージ向上や乗務員の意識向上等の効果も期待できます。

▼保護者の事業者に対するイメージの変化 (家庭へのフィードバック後)



3～5歳のイメージが向上!

▼事業者のコメント

今回、乗務員が4人参加したが、子どもとのやり取りを通じてモチベーションが向上したという効果もあった。そういった点でも今後も実施していきたいと思う。



2. 交通環境学習の意味と効果

4) まとめ

- 交通を使うことで **教育的に効果的な授業を実施できます。**
- また、子どもや家庭の **利用促進や意識向上**にもつながります。
- おまけに、**担当者の意識向上**にもつながります。

→交通や地域への意識が高まり、まちづくりへ

つまり、**交通を使わないのはもったいない!!**



3. プログラムの例

1) プログラムのバリエーション

- 地域特性・学校の意向に応じて、以下の様なメニューを実施してきています。
- 地域の状況に応じた選択・アレンジができます。

プログラム	事業者との連携	対象者	概要
バスの工夫見学	○	・小学生、社会科 ・その他(福祉)	バスの上を歩いて周辺や周辺の仕組みについて考える
バスが身近な地域	○	・小学生、生活科 ・小学生、社会科、算	道路や駅舎にバスを利用し、バスを身近に感じてもらい、活用を促す
遊びが身近な地域	○	・小学生、生活科(漢字) ・その他(キャリア教育)	乗務員の仕事を通して地域の文化や社会の仕組みについて学ぶ
遊び・言葉が身近な地域	○	・小学生、社会科(漢字) ・算数・算術	乗務員の仕事を通して地域の文化や社会の仕組みについて考える
2009年が身近な地域	○	・小学生、社会科(漢字)	ゲームを通して交通手段の役割や仕組みについて考える
多様な交通手段が身近な地域	○	・小学生、社会科(漢字)	大規模な設備を使って交通手段の役割や仕組みについて考える

3. プログラムの例

1) プログラムのバリエーション

- それぞれ、社会科や生活科とのカリキュラムと関連づけて実施することができ、関連づけることで学校で扱いやすくなることも、授業内容との連携を図ると相乗効果が得られます。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
社会科(東京書籍)			1. わたしたちの暮らし みんなの暮らし →地域の公共施設の交通の様子 2. 働く人わたしたちの暮らし →言葉と働き 3. わたしたちの暮らしと仕事 →働く人 →言葉と働き →言葉と働き	7. わたしたちの暮らし 自分たちの暮らし →言葉と働き 8. わたしたちの暮らしと仕事 →働く人 →言葉と働き →言葉と働き	2. わたしたちの暮らしと仕事 →働く人 →言葉と働き 3. わたしたちの暮らしと仕事 →働く人 →言葉と働き →言葉と働き	7. 働く人 →言葉と働き 8. わたしたちの暮らしと仕事 →働く人 →言葉と働き →言葉と働き	→体験乗車 →物産品の工夫 →生活の便利 →言葉と働き →言葉と働き →言葉と働き
理科(教科書)						4. 生物と人のつくり 10. 自然と人の暮らし	
生活科(教科書)							
その他 総合学習							

3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ バスの工夫見学

▼プログラムの概要

- バスの振りかえり 10分
 - 導入 自己紹介 授業主旨
 - 交通とは? 豊城市の交通手段 バスの利用状況
 - 地域のバス バス路線の状況 どこまで行ける?
 - バスの工夫 色んな人が、色んな目的で利用 どんな工夫がされている?
- 乗務員見学 40分
 - 全体説明 乗務員(ドライバー等) 乗務の役割
 - 班で見学 班に分かれて乗務員に長年 本乗務員を担任
 - 乗務員見学
 - NSバス内部
 - 運転席 → 客席
 - NSバス外部その他
 - 外部 → EV
- 振りかえり 10分
 - 工夫点の確認 発表・共有
 - まとめ
 - 地域を変えるバス 色んな人が使える工夫 乗務員もいる
 - バスや電車が地域の生活(意識)を変えている
 - バスを大切にすること バスや電車を大切にすることで扱い方、乗り方の例 各自考える... 教員発表
 - 感想

家庭内・結果の周知

3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ バスの工夫見学

▼授業の様子(平成24年度亀岡市川東小学校)

3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ バスの工夫見学

▼授業の感想(平成24年度亀岡市川東小学校)

バスの運転手さんのお話を聞いて

- ・お年寄りの体の不自由な人のために段差をなくしたり、他にも知らなかったことをたくさん知れてよかったです。
- ・運転手さんがミラーを使って安全確認をしてくれています。
- ・今日の授業で今まで知らなかったことや不思議に思っていたこと、普段では体験できないことを教えてもらったり、実際に体験させてもらってよかったです。

バスを大切にするためにできること

- ・もし、バスが無かったら通学の時に歩いて学校まで行くのはつらいです。買い物に行くときはなるべくバスで行きたいです。
- ・バスに乗っていて車いすの人やお年寄りが乗ろうとしているときは助けてあげたい。
- ・私はこの話を聞いてちょっとバスの仕事をしてみたいなと思いました。

3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ 物流車両の工夫見学

▼授業の様子(平成23年度亀岡市大井小学校)



3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ 物流車両の工夫見学

▼プログラムの概要

第1回の振り返り 授業の状況 11月の実施結果(バスエコ)各交通手段の利用状況 CO2削減効果 それぞれの手段に良いところがあった	7分 ヤマト運輸の取り組み 自己紹介・車両見学への導入 移動 5分 トラックなどの見学 全体説明 車両の概要 燃費の分け方、ローカル 車両見学 燃料、EV、その他 各8分程度 移動 5分 見学のまとめ 全体の取り組み 京都での取り組み	2分 みんなができること 見学のおさらい 物流には車が必要だから、いろいろな工夫 人の動きにおける車と工夫の必要性 ※車は便利(良い所)だが問題(悪い所)もみんなができることはなにか?
--	---	--

成果の公表等
 ※家庭へのFB
 行政IP等での公表

3. プログラムの例

2) プログラムの実施イメージ 物流車両の工夫見学

▼授業の感想(平成24年度亀岡市大井小学校)

授業で分かったこと・感想

- ・お車がかかってもしいから簡単にやさしいクルマを使っているのが良いと思った。
- ・偉さが見えなくて、少しでも工夫していることが分かった。
- ・配達している人を見かけたら少しでも手伝ってあげたいと思った。

自分のできること

- ・見えないテレビは別しておく。
- ・荷物袋を持っていくのも自分のできることを思い出しました。
- ・近いところは車で行かず、歩道や自転車を使おうと思いました。
- ・スリッターに乗っているのを見かけたら、できるだけ道をあけてあげたい。

4. 進め方

1) 調査・準備の手順

・自治体等で実施意向の検討後、学校や交通事業者等と調整をしながら進めます。
 ・前より適宜情報提供・アドバイスを行います。

- ①実施の検討
 - ・実施を検討する、決定する
 - ・地域特性、課題を踏まえて内容・対象を検討する
- ②学校へのPR
 - ・校長会・教育委員会等を通じて周知・依頼
 - ・周辺地域の事例資料等を活用
- ③内容検討・事業者との調整
 - ・学校のニーズを踏まえて内容を調整(資料のアレンジ)
 - ・交通事業者への依頼・実施内容の確認
- ④授業の実施
 - ・市町村・交通事業者が連携して授業を実施
 - ・実施時にはフレキシリティを行い、できるだけマスク等の観念を引くようにする
- ⑤フィードバック
 - ・授業内容を家庭にも周知する資料を配布
 - ・必要な場合、併せてアンケート等を実施

5. 他地域の先進事例(継続に向けて)

・府外では、継続に向けて学校とより深く連携した継続的な取り組みも進められています。


▼他地域での工夫事例

自治体	概要
愛知県	・TDM計画に位置づけ、市内全13校で5年生を対象とした授業を実施 ・学校教師を対象とした「MM教育研修会」や、模擬授業等を実施
川西市 伊丹市	・社会科教育研究会での教育向け研修(模擬授業等)において、学校MMについての説明を実施
香川県	・6学年ではバスの乗り方、マナーなどのDVDを全小学校で視聴し、高学年では、希望する学校において出前授業を実施(年間3~4校) ・教員や市民向けセミナーを開催(教員の最新研修で実施) ・校長会や小学校教育研究会(理科・社会科)において取組をPR
札幌市	・教員ワーキンググループ(社会科研究会)を設けた旨及 ・教員によるプログラムの検討、実施 ・札幌市の教員研修会への提供
富山市	・富山ライトレールへの体験授業 ・教員向け公開授業 ・社会科の副読本「私たちの富山」への掲載

4. 進め方

2) 福知山市のケース

- 交通事業者との調整について
- 学校との調整について



**ご興味を持たれましたら
京都府交通政策課まで!**

→ぜひ、交通環境学習の実施をご検討ください!
 →「もう少し詳しい話を聞きたい!」「履修を見学したい!」等のご質問や情報等がございましたら、お気軽にご連絡下さい!!

交通はまちづくりの第一歩!!

【連絡先】京都府建設交通部 交通政策課 企画担当 島橋
 TEL:075-414-4368
 e-mail:tsunone54@pref.kyoto.lg.jp

2) アンケート票



交通環境学習に関するアンケート

このアンケートは、京都市で交通環境学習を進めていくための各地域の現状等を把握することを目的としています。ご自身のお考えでお答え下さい。

Q1. 取り組みの認知について

(1) 交通環境学習をご存知でしたか？

よく知っていた なんとなく知っていた 知らなかった

(2) これまでにあなたの地域で交通環境学習を実施したことがありますか？

ある ない 分からない

↓ 分かる範囲でご記入下さい。

時期		実施者
内容		

Q2. 交通環境学習の効果やメリットについて

(3) 効果やメリットについて、「交通環境学習のすすめ」をご覧ください。以下にご回答下さい。

	とても 思う	ずいし 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
<P5~7 をご覧ください> 交通は社会性の順成などの教育視点で効果的な題材だと思 いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P8 をご覧ください> 交通環境学習は、子どものバス等の認識度向上に効果があ ると思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P8, 9 をご覧ください> 交通環境学習は、子どもや親のバス等の利用促進に効果 があると思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P10 をご覧ください> 交通環境学習は、交通事業者のイメージアップに効果があ ると思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P10 をご覧ください> 交通環境学習は、実施者（自治体・交通事業者）の意識向 上に効果があると思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P11 をご覧ください> 交通環境学習は、まちづくりや地域活性化に効果がある と思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3. 交通環境学習の実施について

(4) 交通環境学習の実施について、「交通環境学習のすすめ」をご覧ください。以下にご回答下さい。

	とても 思う	ずいし 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
保有する知識や題材を活用して、子どもの教育に資するべ きだと思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P12 をご覧ください> あなたの地域で使えるプログラムはありそうですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<P19 をご覧ください> 交通環境学習を実施するのは簡単だと思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あなたの地域で交通環境学習を実施してみようと思いま すか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図 5-1 アンケート票(表)

Q4. 今後について

(5) もし仮に、今後小学校等で交通を活用した授業を実施していく（今実施している場合、新たな内容に展開していく）とすればどんな取り組みが考えられますか？

内容	●考えられるプログラム等をご記入下さい。
実施体制	●一緒に実施することが考えられる対象をすべてチェックして下さい。 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> 市民団体等 <input type="checkbox"/> 交通事業者 <input type="checkbox"/> 小学校（学校の主体的参画） <input type="checkbox"/> その他
調整方法	●まず誰に、どんなタイミングで依頼や説明をする必要がありそうですか？

(6) 上記の内容は実際に実施できますか？

<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できるかもしれない <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> できないと思う <input type="checkbox"/> できない
↓ どのようなことが課題になりそうですか？（当てはまるもの全て）
<input type="checkbox"/> 実施する必要性が分からない <input type="checkbox"/> 効果やメリットに疑問がある <input type="checkbox"/> 使えそうな題材がない <input type="checkbox"/> プログラムを組み立てるのが難しい <input type="checkbox"/> 担い手がいない <input type="checkbox"/> 興味を持ってくれる学校がない・学校が忙しい <input type="checkbox"/> 教育関係者との関係構築が難しい <input type="checkbox"/> その他 ※できるだけ具体的にお願いします。

Q5. その他

(7) この取り組みに対してご意見やアイデアがありましたら、ご自由にご記入下さい。

(8) ご所属等についてご記入下さい。

ご所属 (市町村・会社名)			
役職		所属年数	

(9) ご年齢をご記入下さい。

<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代	<input type="checkbox"/> 50代	<input type="checkbox"/> 60代	<input type="checkbox"/> 70代
------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

(10) 性別をご記入下さい。

<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女
----------------------------	----------------------------

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

図 5-2 アンケート票(裏)

(4) 試行結果

1) 交通環境学習の認知状況

- ・約2割が良く知っていると回答したが、実施したことがある地域が約半数を占める。
- ・過去に実施されていても担当者の異動等により、取り組みがあまり認識されていない場合が多いと考えられる。

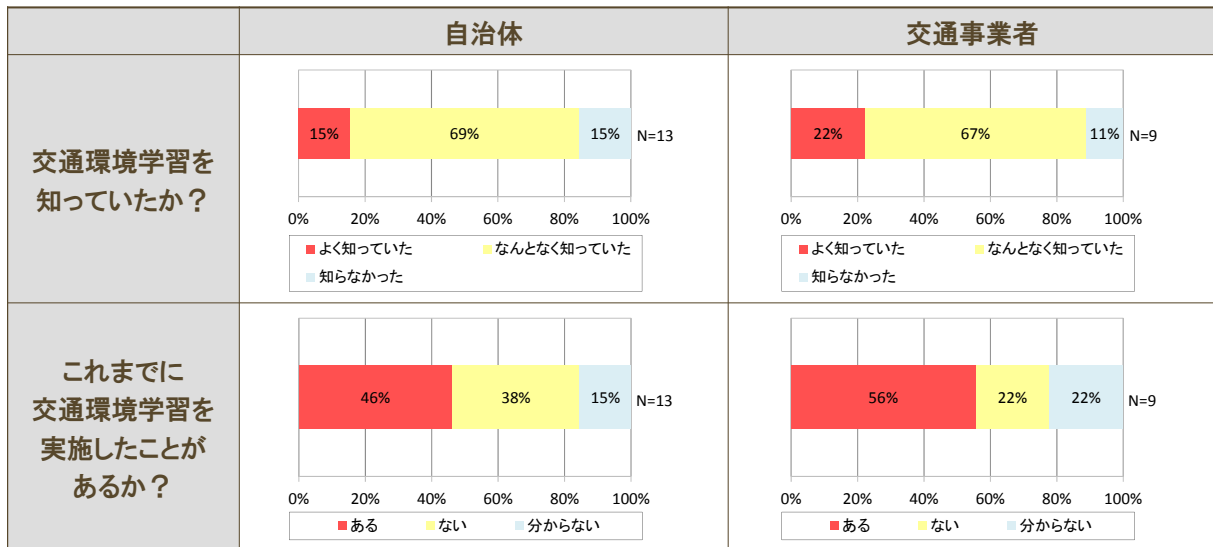


図 5-3 交通環境学習の認知状況

2) 効果やメリットに対する認識

- ・ほとんどが教育の視点でとても効果的な題材と回答。
- ・利用促進や地域活性化等の長期・発展的な効果は比較的低評価。
- ・事業者では、実施者の意識向上に対する認識が高い。

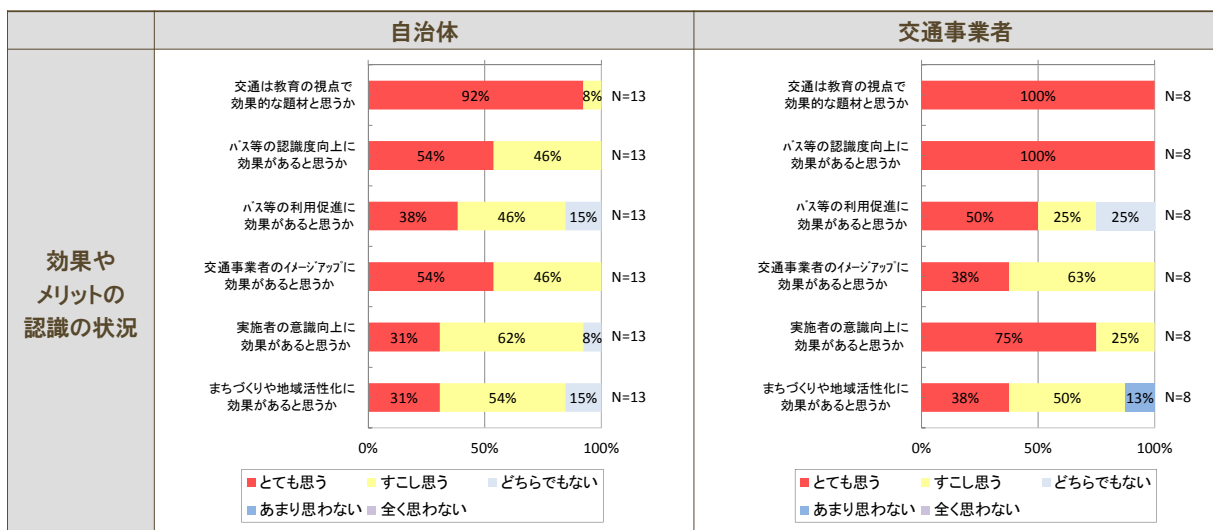


図 5-4 効果やメリットに対する認識の状況

3) 取り組みの実施意識

- 多くが、子どもの教育に資するべきと回答。
- また、多くが実施するのは簡単とは感じていないが、実施してみようと思う割合は大きく、一定の意識付けができていと想定される。

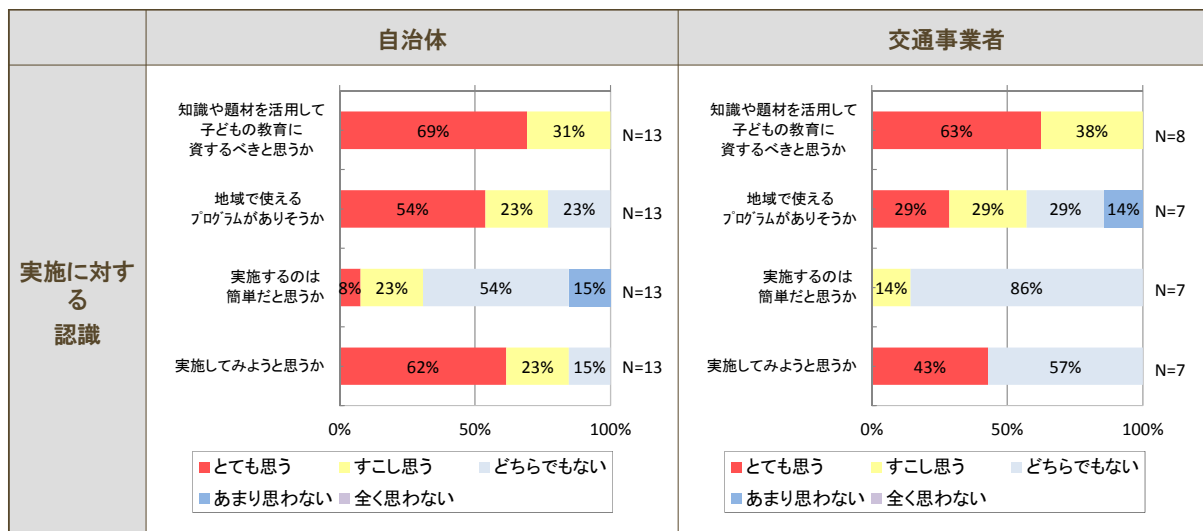


図 5-5 取り組みの実施に対する認識の状況

4) 実行意図と課題

- 実際に実施できる割合は、前頁の意向に比べて低下。
- プログラムの組み立てや学校への依頼・コミュニケーションに対する不安がハードルとなっている。

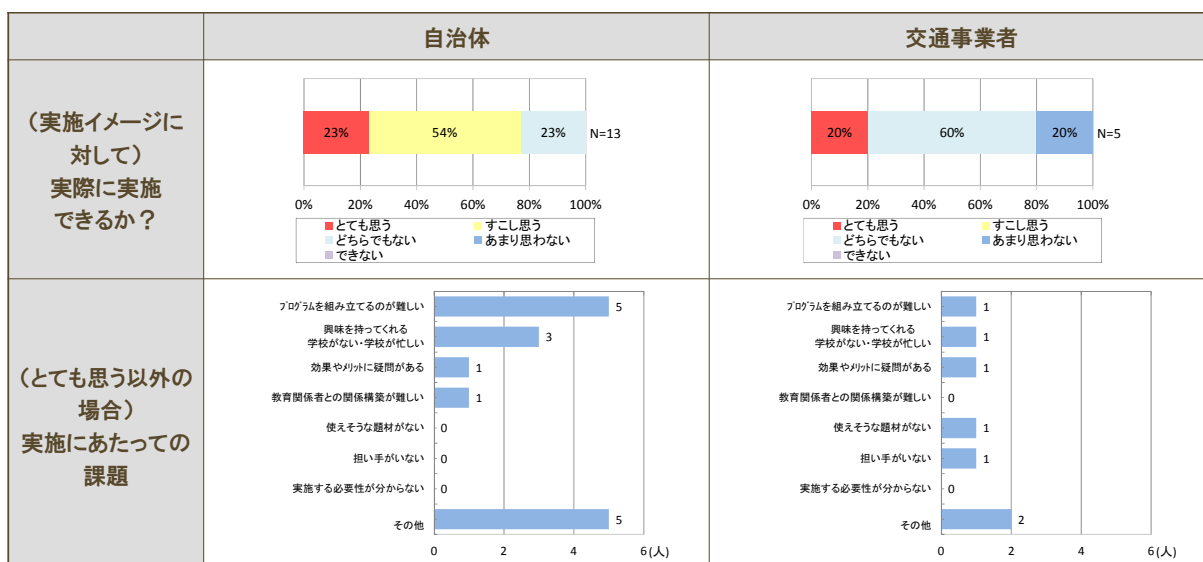


図 5-6

5) その他の意見

【ハードルについて】

- このような取り組みは「総論賛成」する向きが多いもの、各論段階になるとそれぞれの利害が対立してうまく進まないケースがある。
- 「教育面でメリットがある」という点を、交通事業者のメリットに変換する「何か」が無いと、交通事業者の積極的な参加が見込めない。
- 自治体側が自らの事業として強力に推進しつつ、交通事業者側にもメリットのある形、つまり自治体側が実施主体となる形が先ず着手点として必要ではないか。

【必要性について】

- 学校MMの取り組みに関しては、市の未来を担う児童を対象にしていることから、今後の市の成長に大きくかかわってくると考えられる。初回の取り組みはハードルが高いかもしれないが、回数を重ねれば、より効果的に学校MMを進める方法を確認していける上に、各団体と問題意識を共有していけるため、学校MM以外の事業も連動してより円滑に進めることができるのではないか。

【効果を高める工夫について】

- 学校での活動を通じ、地域の人にも受講してもらえるような取組にしたい。
例えば公民館まつりでの実施により生徒だけでなく保護者や地域の人にも参加してもらいたい。
- 敬老MMや大学MM、公民館MM等に活動を広げていきたい。

5-2 課題の整理

前項の試行結果を踏まえると、試作した資料等を活用していくことで概ね意識付が可能であることが分かった。

しかし、課題として、各地域で実際にプログラムを組み立てたり、学校の理解を得て、調整を進めていくことに不安が大きく、実行意図が形成されない要因になっていると考えられる。

そのため、以下の点が発信・コミュニケーションの課題となると考えられる。

○取り組みの発信

⇒交通環境学習の進めの構成を基本にとりまとめ

⇒各地の取り組み経緯を踏まえ、調整のタイミングやアレンジの方法がわかるよう
手順・資料を整理

○ネットワークづくり

⇒知見や経験を共有できるつながりの維持（マイスター制度、リスト共有）

⇒資料・授業（見学）等の情報共有（府で随時、情報を集約・発信）

5-3 発信・コミュニケーションの仕組みの構築

5-3-1 普及・継続の考え方

4章でとりまとめた方向を踏まえ、以下のような流れで各主体が連携して取り組みを推進する。

- ①府が市町等へ啓発し取り組みを促す
- ②地域の学校・事業者等での取り組みを活かす
- ③府教委を通じて学校へ情報提供し、活用を促す

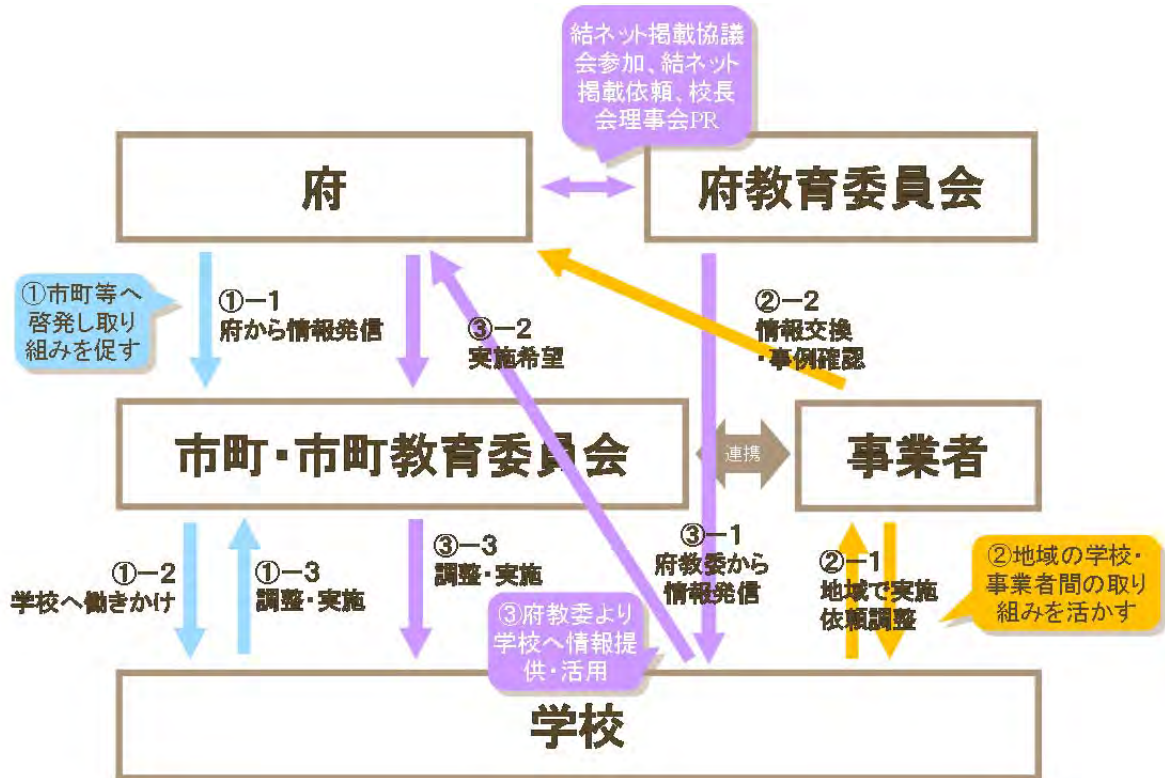


図 5-7 普及・継続の基本的な流れ

5-3-2 しくみの構築

(1) 流れとポイントの整理

前項の考え方と試行結果からの課題を踏まえて、以下のようなしくみにより、普及・継続に向けた流れを作っていくものとした。

各段階での実施内容やツールの検討結果を次項以降に示す。

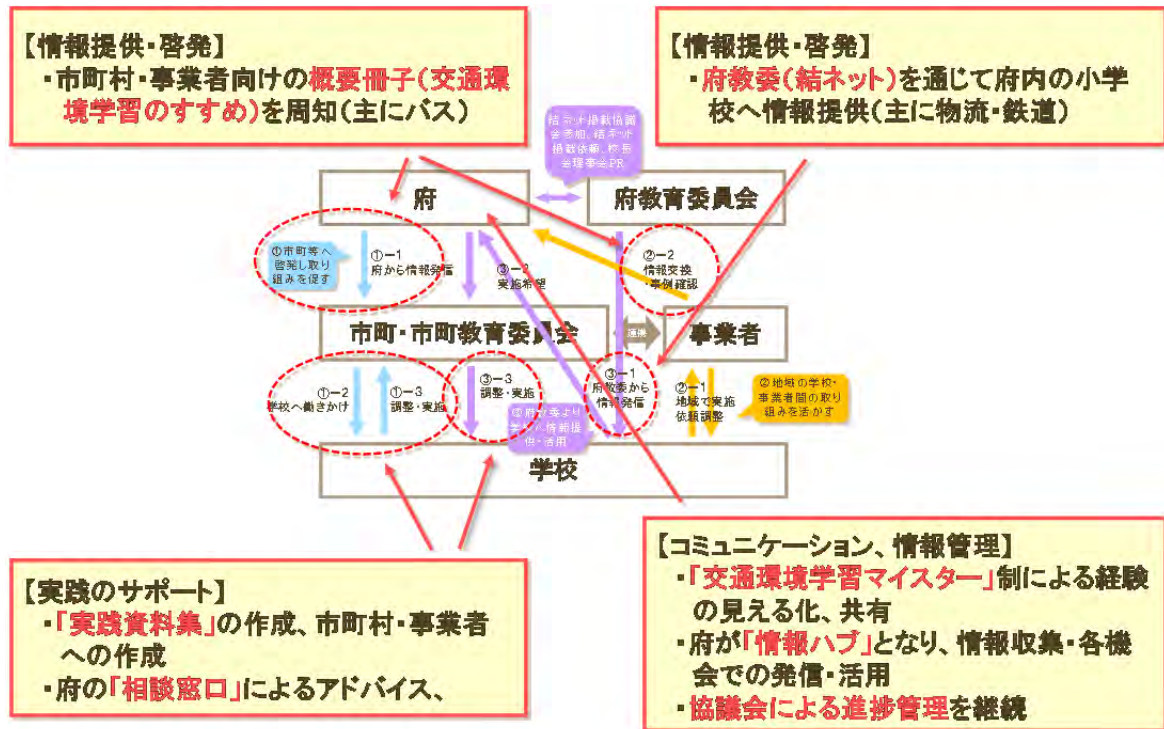


図 5-8 普及・継続のしくみのポイント

(2) 情報提供・啓発

1) 概要冊子

使用する概要冊子を検討・作成した。具体的な内容の検討結果は次章に示す。

表 5-2 概要冊子の構成

目次	内容
はじめに	・取り組みの背景 ・冊子の使い方
1. 交通環境学習とは	・取り組みの目的
2. 交通環境学習のプログラム	(1)プログラムメニュー (2)プログラムの概要 【参考】地域ごとの実施状況
3. 交通環境学習のいろいろな効果	(1)教育の視点から 【ポイント】教科学習等との関係に気をつける (2)利用促進の視点から (3)実施者の視点から
4. 取り組みの進め方	・進め方の流れ ・各段階の実施方法と役割分担 【参考】先進地域での取り組みの経緯 【ポイント】経験を見える化する ～交通環境学習マイスター～
5. 継続に向けて	・継続している地域の事例 【ポイント】生活科・社会科での体験学習をより効果的に
6. サポート情報	・参考HP
おわりに	・相談窓口の連絡先



図 5-9 概要冊子

2) 府教委からの発信

京都府教育委員会を通じた発信方法について検討した。

今年度実施した内容を基本に、鉄道や物流の内容を中心に、継続的に府内小学校へアピールを実施していくものとした。

府

↓

府教育委員会

←

府内の小学校

○結ネットKYOTOによる発信
⇒鉄道・物流を中心に学習に活用できる題材としてアピール
▼平成25年度の発信例



京都府交通政策課
<http://www.pref.kyoto.lg.jp/tadm/1274237655164.html>
 075-414-4368

◇わたしたちの住んでいるまちを知ろう～公共交通を通して～
 ◇わたしたちのまちの交通のようす～地域の足を守る鉄道やバスの仕事～
 ◇私たちの生活と関係～公共交通を通して～
 ◇暮らしを支える交通の役割
 ※バス車両等の実物を使った授業も可能(要相談)

◇小学生(2～6年生)	平日	90分程度	◇プロジェクター ◇スクリーン 等	府内全域	不要
-------------	----	-------	----------------------	------	----

図 5-10 府教育委員会からの発信イメージ

(3) 実践のサポート/実践資料集

地域での実践をサポートする「実践資料集」を検討・作成した。以下に整理項目を示す。具体的な内容の検討結果は次章に示す。

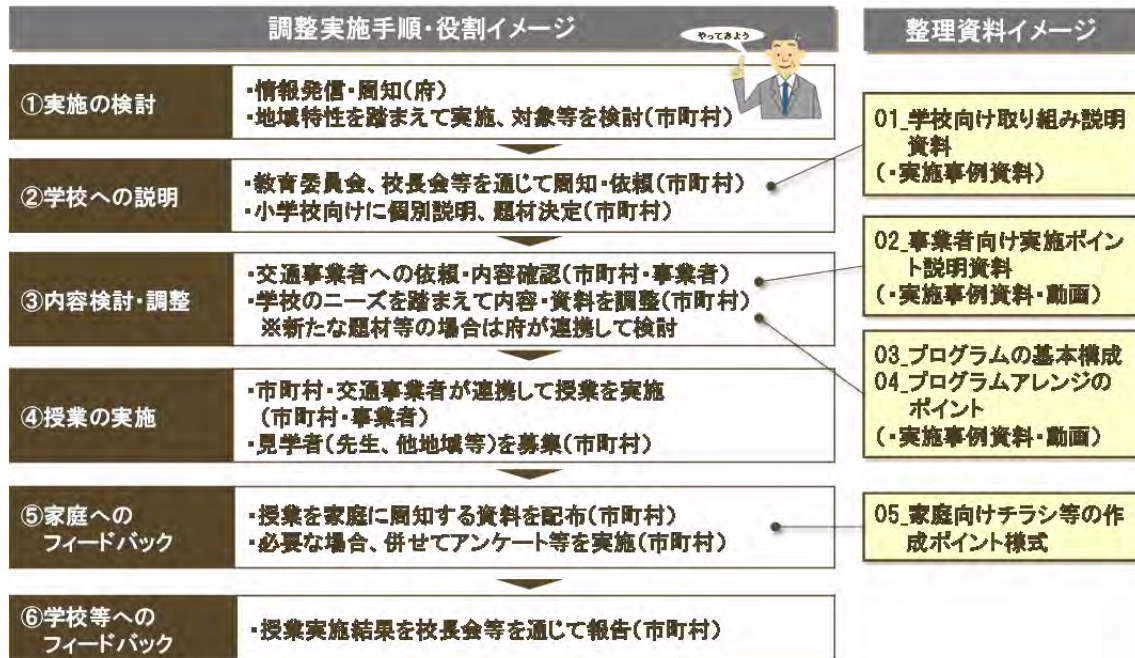


図 5-11 調整段階にあわせた実践資料集の整理項目

(4) コミュニケーション、情報・経験の活用

1) 環境学習マイスター

(a) 仕組み

子ども、実施者の経験を有効に活用していくことをねらいとして、京都府環境学習マイスター制の仕組みを検討・構築した。

目的を以下に示す。

<目的>

○子ども向け

- ・経験を視覚化することで、プログラム内容を踏まえた行動の動機づけ(ファンを増やす)

○実施者(自治体・事業者)向け

- ・実施の記憶や経験を視覚化することで、リマインドや交通や業務について考えなおすきっかけとする
 - ※実施により、仕事を見直しモチベーションが向上した例あり
- ・経験者情報を共有し、ノウハウを府内で有効活用する

○その他

- ・バス等の中での子どもと乗務員のコミュニケーションにより、リマインドや効果の継続

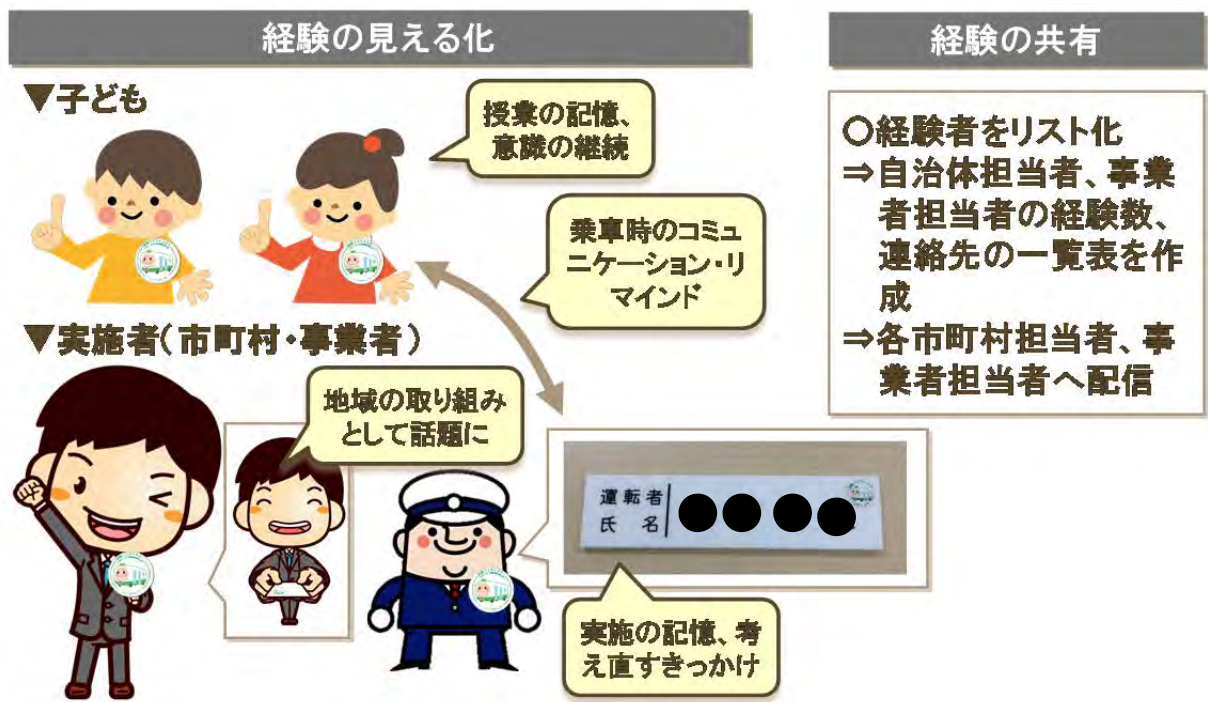


図 5-12 マイスター制度の仕組み

(b) マイスターリスト

上記の仕組みを踏まえて現時点のマイスターリストを作成した。

未経験者が取り組みを検討する際に参考となるよう、実施経験者毎の連絡先や経験内容、感想等を記載する内容とした。

次頁以降に作成したマイスターリストを示す。

■京都府交通環境学習マイスターリスト／自治体担当者

市町村	氏名	在籍状況	現連絡先	経験	実施状況			備考	
					H23	H24	H25		
京都府	交通政策課	●●	○	075-●●●●-●●●● ●●●●@pref.kyoto.lg.jp	5回			<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 ・(バス見学) 亀岡市立南つつじヶ丘小学校 ・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校 ・(鉄道仕事・安全) 城陽市立寺田小学校 	
		●●	○	075-●●●●-●●●● ●●●●@pref.kyoto.lg.jp	15回	<ul style="list-style-type: none"> ・(ガリバーマップ) 亀岡市立大井小学校① ・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校② ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校① ・(バスWS) 亀岡市立川東小学校② 	<ul style="list-style-type: none"> ・(鉄道仕事) 亀岡市立大井小学校 ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 ・(バス見学) 福知山市立美鈴小学校 ・(バス見学) 福知山市立川合小学校 ・(バス見学) 亀岡市立南つつじヶ丘小学校 ・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校 ・(バス見学) 長岡第十小学校 ・(鉄道仕事・安全) 城陽市立寺田小学校 	
		●●	○	075-●●●●-●●●● ●●●●@pref.kyoto.lg.jp	1回		<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 		
		●●	○	075-●●●●-●●●● ●●●●@pref.kyoto.lg.jp	2回			<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 福知山市立美鈴小学校 ・(バス見学) 福知山市立川合小学校 	
		●●	×	●●●●@pref.kyoto.lg.jp	7回	<ul style="list-style-type: none"> ・(GM) 亀岡市立大井小学校① ・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校② ・(バス) 亀岡市立川東小学校① ・(バスWS) 亀岡市立川東小学校② 	<ul style="list-style-type: none"> ・(鉄道仕事) 亀岡市立大井小学校 ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 		H24まで在籍
亀岡市	政策推進課	●●	○	0771-●●●●-●●●● ●●●●@city.kameoka.kyoto.jp	2回		<ul style="list-style-type: none"> ・(鉄道仕事) 亀岡市立大井小学校 ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 		
		●●	○	0771-●●●●-●●●● ●●●●@city.kameoka.kyoto.jp	2回			<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 亀岡市立南つつじヶ丘小学校 	
		●●	×	0771-●●●●-●●●● ●●●●@city.kameoka.kyoto.jp	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・(GM) 亀岡市立大井小学校① ・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校② ・(バス見学) 亀岡市立川東小学校① ・(バスWS) 亀岡市立川東小学校② 			H23まで在籍
福知山市	生活交通課	●●	○	0773-●●●●-●●●● ●●●●@city.fukuchiyama.kyoto.jp					
		●●	×	●●●●@city.fukuchiyama.kyoto.jp	1回		<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 		H24まで在籍
長岡京市	交通対策課	●●	○	●●●●@city.nagaokakyo.kyoto.jp	1回			<ul style="list-style-type: none"> ・(バス見学) 長岡第十小学校 	

図 5-13 交通環境学習マイスターリスト(1/3)

■京都府交通環境学習マイスターリスト/事業所担当者

事業者	担当課	氏名	在籍状況	現連絡先	経験	実施状況			備考
						H23	H24	H25	
京阪京都交通	運輸部 貸切課	●● ●●	○	0771-●●-●●●●●● ●●●●@keihankyotokotsu.jp ●●●●@keihankyotokotsu.jp	4回	・(バス見学) 亀岡市立川東小学校①	・(バス見学) 亀岡市立川東小学校	・(バス見学) 亀岡市立川東小学校 ・(バス見学) 亀岡市立南つつじヶ丘小学校	
京都交通	舞鶴営業所	●● ●● ●● ●●	○	0773-●●-●●●●●● ●●●●@kyotokotsu.jp ●●●●@nihonkotsu.co.jp	4回		・(バス見学) 福知山市立成仁小学校	・(バス見学) 福知山市立成仁小学校 ・(バス見学) 福知山市立美鈴小学校 ・(バス見学) 福知山市立川合小学校	
阪急バス	自動車事業部 業務課	●●	○	06-●●●●●-●●●●●●	1回			・(バス見学) 長岡第十小学校	
JR西日本	地域共生室	●●	×	●●●●@westjr.jp	1回		・(鉄道仕事) 亀岡市立大井小学校		
		●●	○	075-●●●●-●●●●●● ●●●●@westjr.jp	1回		・(鉄道仕事) 亀岡市立大井小学校	・(鉄道仕事・安全) 城陽市立寺田小学校	
ヤマト運輸	社会貢献課	●●	○	075-●●●●-●●●●●●	1回			・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校	
		●●	×		1回	・(物流工夫) 亀岡市立大井小学校②			

図 5-14 交通環境学習マイスターリスト(2/3)

■交通環境学習実施状況／亀岡市

年度	日時	学校名	学年	分類	事業概要	市町村担当者	感想			備考
							良かった点	苦労した点	その他(アピールポイント等があれば)	
平成25年度	9月19日	川東小学校	5年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●	・小学生に説明する機会は初めてだったが、交通と地域の関係を改めて考える機会にはなったと思う。	・時間の余裕があまりなく何を話しているかよく分からなくなった記憶がある。また、何度が実施してみても慣れないと緩急の付け方がよく分からないため、ある程度なることが重要だと思う。	-	
	10月22日	南つつじヶ丘小学校	5年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●				
	11月28日	大井小学校	5年	物流車両見学	・物流車両を校庭に持ってきて、見学 ・車が欠かせない物流事業者が行っている環境に対する工夫を実感し、自分にできることを考えた	●●				

■交通環境学習実施状況／福知山市

年度	日時	学校名	学年	分類	事業概要	市町村担当者	感想			備考
							良かった点	苦労した点	その他(アピールポイント等があれば)	
平成25年度	9月26日	成仁小学校	5年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●	・災害対応により参加できなかった	・災害対応により参加できなかった	・災害対応により参加できなかった	
	9月30日	美鈴小学校	全学年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●				
	9月30日	川合小学校	全学年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●				

■交通環境学習実施状況／長岡京市

年度	日時	学校名	学年	分類	事業概要	市町村担当者	感想			備考
							良かった点	苦労した点	その他(アピールポイント等があれば)	
平成25年度	10月3日	第十小学校	4年	バス車両見学	・バス車両を校庭に持ってきて、見学 ・地域の暮らしを支えるバスの役割をまなび、自分にできることを考えた	●●	・今後市で実施していかなければならないと思っていたところに、今回のような機会が得られたため、良い機会でありがたかった。	・小学校で話したのは初めてで緊張した。飽きさせないようにしないといけないと感じた。	-	

図 5-15 交通環境学習マイスターリスト(3/3)

2) 情報ハブ

前項までのしくみやツールを活用しながら、京都府が情報を継続的に集約・発信しながら取り組みを波及・拡大していくための仕組みを検討した。

以下に京都府を中心とした情報集約、発信のイメージを示す。

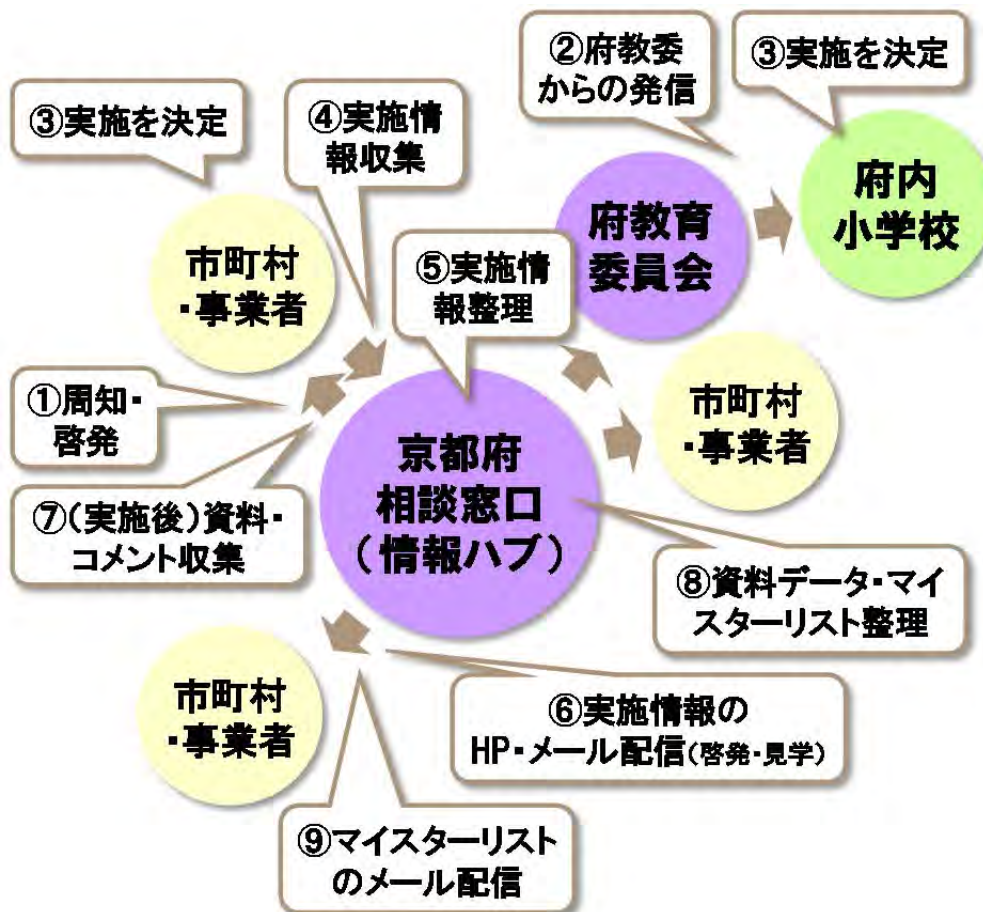


図 5-16 京都府を中心とした情報収集・発信のイメージ

3) 進捗管理

今後の継続的な取り組みの維持、発展のための進捗管理方法について検討した。

現状の体制を活かして外部からの確認・アドバイスを受けられるしくみとして、府が集約した情報をもとに、年度毎に協議会（松村会長）への報告、方向性確認を実施するものとした。

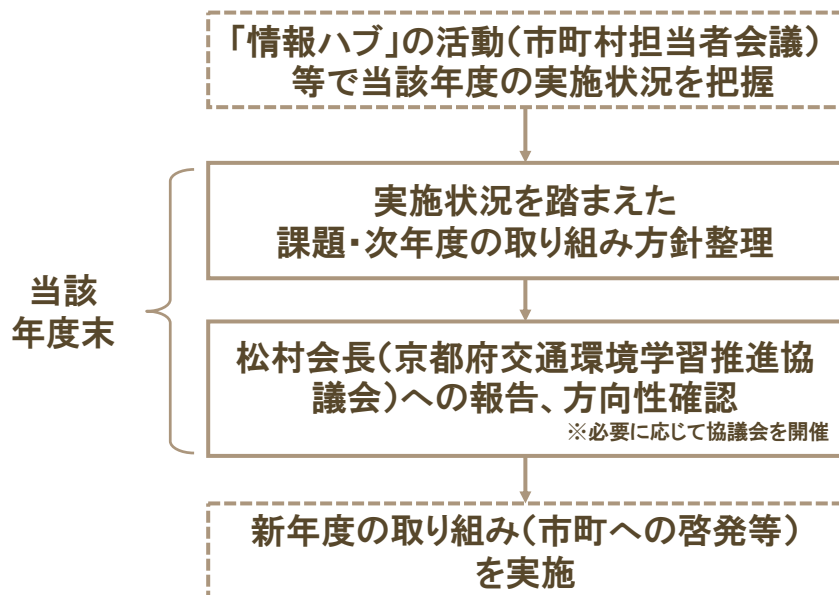


図 5-17 進捗管理のイメージ

(5) 情報発信方法の整理

以上に関して、各取り組みにおける京都府からの情報発信方法を整理した。

		準備の内容	発信の内容		
			資料配布	京都府HP	その他
①情報発信・啓発	手引き (交通環境学習のすすめ)	・必要に応じて情報更新	・市町村担当者会議やメールにより毎年配信	・HPにデータ掲載	—
	府教委からの発信	・必要に応じて情報更新	—	—	府教委に依頼・調整
②実践のサポート	実践資料集	・必要に応じて情報更新	(手引きで資料集を紹介)	・HPにデータ掲載	—
	相談窓口	・随時対応	(手引きで窓口を紹介)	・HPで窓口紹介	・電話打ち合わせ等で直接やり取り
③コミュニケーション、情報・経験の活用	交通環境学習マイスター	・授業実施時にバッジ作成	(手引きでしくみを紹介)	—	・電話打ち合わせ等で直接やり取り
		・適宜リストの更新管理	・市町村担当者会議やメールにより毎年配信	—	・電話連絡の上、メール等で配信
	情報ハブ	・常時情報収集 ・常時情報配信	—	・HPで随時情報提供	・メールで配信

図 5-18 京都府からの各情報の発信方法

6. 手引書の作成

6-1 作成内容

前項で検討した以下の資料について、具体的な検討・作成を行った。

○概要冊子（交通環境学習のすすめ）

○実践資料集

6-2 「交通環境学習のすすめ」の作成

自治体職員・事業者等が交通環境学習の取り組みを知り、興味を持ってもらうとともに、その実施をサポートするツールとして、本事業等の実施結果を踏まえて作成した。

次頁以降に作成した手引書を示す。

表 6-1 概要冊子目次

目次	内容
はじめに	・取り組みの背景 ・冊子の使い方
1. 交通環境学習とは	・取り組みの目的
2. 交通環境学習のプログラム	(1)プログラムメニュー (2)プログラムの概要 【参考】地域ごとの実施状況
3. 交通環境学習のいろいろな効果	(1)教育の視点から 【ポイント】教科学習等との関係に気をつける (2)利用促進の視点から (3)実施者の視点から
4. 取り組みの進め方	・進め方の流れ ・各段階の実施方法と役割分担 【参考】先進地域での取り組みの経緯 【ポイント】経験が見える化する ～交通環境学習マイスター～
5. 継続に向けて	・継続している地域の事例 【ポイント】生活科・社会科での体験学習をより効果的に
6. サポート情報	・参考HP
おわりに	・相談窓口の連絡先

市町村
・事業者の方へ

交通からまちとくらしを考える

交通環境学習のすすめ

～ 地域における実践の手引き ～



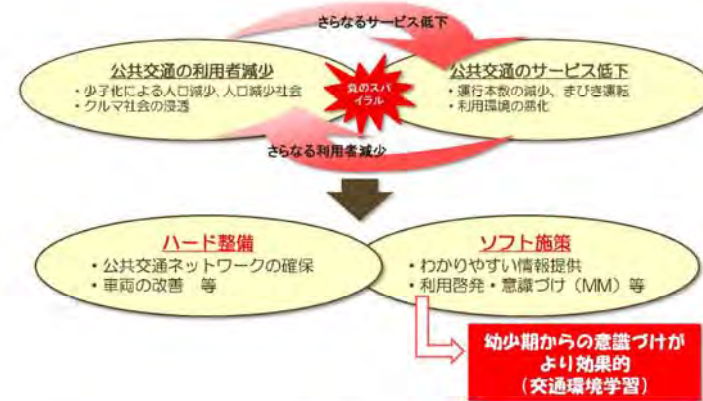
 京都府

はじめに

昨今の地球温暖化や中心市街地・公共交通の衰退、本格的な高齢化社会の到来により、京都府においても、持続的な地域づくりに資する公共交通の活性化が大きな課題となっております。

公共交通活性化の取り組みとしては、ハード・ソフトの様々なものがあげられますが、モビリティ・マネジメント等の意識づけの活動は、幼少期から継続的に行っていくことが効果的と言われており、全国的に小学生等を対象としたモビリティ・マネジメント（交通環境学習）が実施されています。

▼公共交通を取り巻く課題と取り組み



この冊子は、京都府各地において、小学生を対象とした交通環境学習を効果的・継続的に展開していただくため、これまでの京都府における取り組み結果をもとに、その目的や効果、取り組み方についてまとめたものです。

自治体等で新しく公共交通を担当される方や公共交通等に関わる事業者の方が、取り組みの一つとして交通環境学習を知り、興味を持っていただくとともに、冊子中で紹介している「実践資料集」や京都府（交通政策課）の相談窓口を使って、実際の取り組みに進んでいただけるよう意図して構成しています。

▼本書等の位置づけ・取り組みのサポートイメージ



目次

1. 交通環境学習とは.....	1
2. 交通環境学習のプログラム.....	2
3. 交通環境学習のいろいろな効果.....	6
4. 取り組みの進め方.....	10
5. 継続に向けて.....	14
6. サポート情報.....	16

1. 交通環境学習とは

交通環境学習は、自治体や事業者の視点だけで見ると、「はじめに」にもあるように小学生等に公共交通に親しんでもらい、利用するきっかけをつくる取り組みです。

しかし、学校での学習として実施するものであり、教育としての側面を軽視することはできません。交通は地域と自分をつなぐ、子どもにとって最も身近な資源の一つであり、環境や福祉、地域学習等の単元と関連づけられます。そういった特性を踏まえることで、教育としても意義のあるものにする事ができます。

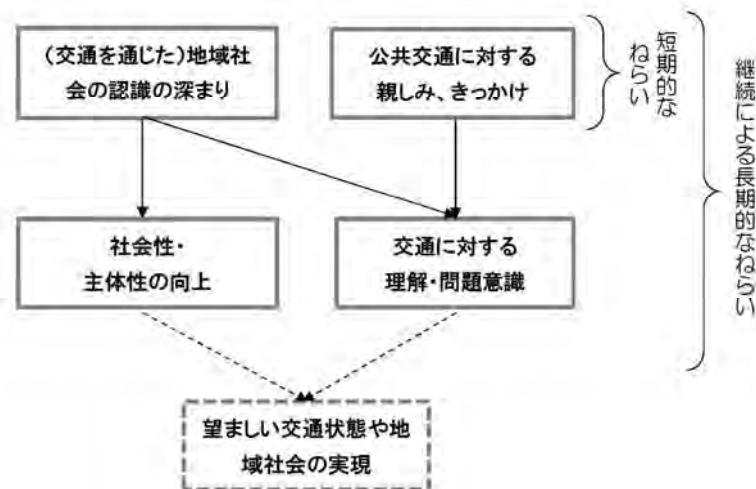
そのため、交通環境学習とは、

交通を活用することで、環境や福祉、地域について実感を深め、
考えることを目的としたプログラムの実施を通じ、
結果的に、公共交通への親しみや理解が深まり、
家族にも波及した実践につながる取り組み

と考えています。

これを、地域において広く継続的に実施していくことで、子どもの社会性の向上や交通に対する問題意識の高まりとあいまって、公共交通を中心とした望ましい交通状態、ひいてはより良い地域社会を実現することにつながると考えています。

▼交通環境学習のねらい



2. 交通環境学習のプログラム

ここでは、実際に地域で実施できるプログラムメニューと概要を紹介します。

(1) プログラムメニュー

バスは概ねどの地域にも関わりがあり、子どもにとって身近で見学もしやすいため、学校での学習（環境や福祉等）を深めるのに役立つ素材と言えます。

そのため京都府では、各地域で自治体や事業者が連携して、バス車両を用いたプログラムを実施していただくことを目指しています。バスを身近な題材として扱える地域（学校）がありましたら是非ご検討ください。

また、地域（学校）の特性によっては物流や鉄道がより有効な題材となる場合があります。学校のニーズに応じて検討してみてください。

▼プログラムメニュー例

	プログラム	主な対象例	概要	事業者	
バスが身近な地域 	バス車両の工夫見学 ★	・5年社会科（環境） ・福祉 等	バスの工夫を通じて地域との関わりや自分の行動について考える	○	
バスが身近でない地域	物流・産業が身近な地域 	・5年社会科（産業・環境） 等	物流車両の環境面の工夫を通じて、自分の行動を考える	○	
	鉄道が身近な地域 	・4年社会科（くらしを守る） ・5年社会科（環境） ・キャリア教育 等	鉄道の仕事を通じて地域の支え合いや自分の行動について考える	○	
	その他	バス体験乗車	・2年生活科（まち探検） ・5年社会科（環境）	施設見学等にバスを利用し、バスを通じた地域とのつながりを実感する	—
		ピンポンバス	・2年生活科（まち探検）	絵本を使って、バスの役割やマナーについて学ぶ	—
交通すころく		・5年社会科（環境） 等	ゲームを通して交通手段選択が地域に与える影響や自分の行動を考える	—	
	ガリバーマップ	・5年社会科（環境）	大きな地図を使って交通手段の選択・理由を考える	—	

※★があるものは「4. 取り組みの進め方」で紹介している「実践事例集」でプログラム検討のポイントや実際に使用した資料データを提供しています。それ以外は「おわりに」の相談窓口にお問い合わせください。

(2) プログラムの概要

メインとなるバス車両の工夫見学プログラムと物流車両の工夫見学プログラムの概要を紹介します。

1) バス車両の工夫見学

○学習の目的・テーマ

- ・バス車両の見学を通じて、地域の生活を支えるバスの役割を学び、実感する。
- ・地域を支えるバスに対して、自分にできることを考える。

項目	主旨・概要	実施イメージ
導入 (約 10 分)	交通とは	・それぞれに身近なものとしての交通、バスの確認 
	地域を支えるバス 色々な人が 利用するバス	・地域の色々な場所を結び、色々な人が利用するバスの認識 ・色々な人のために色々な工夫がされていることを予想
	全体説明	・見学の主旨、ポイントの理解 ※色々な人が使うバスにはどんな工夫があるか観察しよう ・見学方法（流れ）の理解
バス車両 見学 (約 40 分)	車両見学	・複数の班に分かれ、ローテーションで見学 ※車両外側、車両内部、運転席等 ・乗務員が誘導しながら観察、質問（ワークシートへ記載） 
	振り返り	・気づいた点の発表（板書） ・工夫点の理由の考察、共有
まとめ (約 30 分)	まとめ	・色々な人が利用するバス、バスが支える地域の認識、実感 ・バスの環境に対する優しさの認識 ・地域にとって重要なバスの理解
	考える	・地域でバスをうまく利用していくためにできること（考えて発表） 

▼授業を受けた児童の声

<自分にできること>

- ・もし、バスが無かったら通学の時に歩いて学校まで行くのはつらいです。買い物に行くときはなるべくバスで行きたいです。
- ・バスに乗っていて車イスの人やお年寄りが乗ろうとしているときには助けてあげたい。
- ・私はこの話を聞いてちょっとバスの仕事をやってみたいなと思いました。

<授業の感想>

- ・お年寄りや体の不自由な人のために段差をなくしたり、他にも知らなかったことをたくさん知れてよかったです。
- ・運転手さんがミラーを使って安全確認をされていてすごいと思いました。
- ・今日の授業で今まで知らなかったことや不思議に思っていたこと、普段では体験できないことを教えてもらったり、実際に体験させてもらってよかった。



3

2) 物流車両の工夫見学

○学習の目的・テーマ

- ・物流車両の見学を通じ、車が欠かせない物流事業者が行っている環境に対する工夫を実感する。
- ・地域の環境に対して、交通等について自分にできることを考える。

項目	概要	実施イメージ
導入 (約 10 分)	物流とは	・それぞれに身近なものとしての物流の確認 
	地域を支える物流	・実例を用いて地域と物流の関わりを実感
	環境に対する工夫の必要性	・地域にとって重要であるが環境面への影響を認識 ・環境に対する工夫を予想
物流車両 見学 (約 40 分)	全体説明	・見学の主旨、ポイントの理解 ※トラックをたくさん使う宅急便ではどんな工夫があるか観察しよう ・見学方法（流れ）の理解 
	車両見学	・複数の班に分かれ、ローテーションで見学 ※電気自動車、天然ガス車、スリーター（リヤカー付き自転車）等 ・ドライバーが誘導しながら観察、質問（ワークシートへ記載） 
まとめ (約 30 分)	振り返り	・気づいた点の発表（板書） ・工夫点の理由の考察、共有
	まとめ	・物流事業者が行っている環境に対する工夫の理解、実感 
	考える	・環境を守っていくために、自分にもできること（考えて発表）

▼授業を受けた児童の声

<自分にできること>

- ・見ていないテレビは消しておく。
- ・買物袋を持っていくのも自分にできることだと思います。
- ・近いところは車で行かず、歩きや自転車を使おうと思いました。
- ・スリーター（リヤカー付き自転車）に乗っているのを見かけたら、できるだけ道を空けてあげたい。

<授業の感想>

- ・お金がかかってもいいから環境にやさしいクルマを使っているのが良いと思った。
- ・僕らが見えないところで、少しでも工夫していることが分かった。



4

【参考】京都府ではこれまで色々な地域で実施されています

京都府では、平成 17 年より交通環境学習がはじまり、すでに 8 つの市町で実施されています。バスに関するプログラムが多く、体験乗車を継続的に実施している地域もあります。

▼京都府におけるこれまでの交通環境学習の実施状況

年度	市町村名	学校名	学年	内容
平成 17 年度	久御山町	佐山	5 年	のってこバスの歴史を学ぶ
平成 18 年度	久御山町	佐山	5 年	交通すころく
		御牧	5 年	環境との関係について学ぶ
		東角	2 年	バスへの関心と利用マナーについて学ぶ
平成 19 年度	久御山町	佐山	5 年	バス体験乗車、乗客インタビュー
		御牧	5 年	バス体験乗車、出前講座
		東角	2 年	バス体験乗車、出前講座
	八幡市	第四	5 年	温暖化と交通手段の出前授業
		第五	全学年	車とバスの選択についての話
平成 20 年度	久御山町	佐山	5 年	交通すころく、体験乗車
		御牧	5 年	交通すころく、体験乗車
		東角	2 年	バス体験乗車、出前授業
	宇治市	西大久保	5 年	フードマイレージ授業
	城陽市	寺田南	全学年	車とバスの選択についての寸劇
		第四	5 年	温暖化と交通手段についての授業
長岡京市	第六	5 年	温暖化と交通手段についての授業	
	佐山	5 年	交通すころく、体験乗車	
	御牧	3 年	ピンポンバス授業、体験乗車	
平成 21 年度	久御山町	東角	2 年	ピンポンバス授業、体験乗車
		深谷	5 年	交通すころく、体験乗車
	長岡京市	長法寺	5 年	温暖化と交通手段についての授業
神足		5 年	温暖化と交通手段についての授業	
平成 22 年度	久御山町	御牧	3 年	体験乗車
		東角	2 年	体験乗車
	城陽市	寺田南	5 年	交通すころく、体験乗車
	京丹後市	網野南	5 年	交通すころく、KTR-200 円バスの話
平成 23 年度	久御山町	御牧	3 年	体験乗車
		東角	2 年	体験乗車
	亀岡市	大井	5 年	ガリバーマップ、物流の工夫
川東		5 年	バス車両見学、ワークショップ	
平成 24 年度	久御山町	佐山	5 年	体験乗車
		御牧	3 年	体験乗車
		東角	2 年	体験乗車
	亀岡市	大井	5 年	鉄道を支える工夫
		川東	5 年	バス車両見学
		成仁	5 年	バス車両見学
平成 25 年度	福知山市	寺田西	5 年	体験乗車
		佐山	5 年	体験乗車
	久御山町	東角	2 年	体験乗車
		大井	5 年	物流の工夫、車両見学
		川東	5 年	バス車両見学
	亀岡市	南つつじヶ丘	5 年	バス車両見学
		成仁	5 年	バス車両見学
		美鈴	全学年	バス車両見学
		川合	全学年	バス車両見学
	城陽市	寺田	5 年	鉄道の上手な使い方（福祉、安全）
富野		4 年	交通すころく、体験乗車	
長岡京市	第十	4 年	バス車両見学	

3. 交通環境学習のいろいろな効果

2 のようなプログラムを実践するとさまざまな効果が出てきます。ここでは、これまでの京都府での実践事例から見えてきた交通環境学習の効果を紹介いたします。

(1) 教育の視点から

●小学校の先生も、学習を深めたり社会性を育てる効果に着目しています！

取り組みを継続的に行ってきた小学校でご意見を伺ったところ、先生も実際に環境や福祉の学習の理解を深めたり社会性を育てる効果を実感されています。

▼バス車両の工夫見学を実施している小学校の先生のご意見

当校は亀岡市で最もバスが便利な地域にあり、とにかく身近な交通手段であるため、題材にした効果は大きかったと思います。環境の話を多く盛り込んだ内容でしたが、5年生は環境の内容が多いため、効果的でした。（亀岡市／校長先生）



今年、福祉をテーマにした総合学習の一環として実施し、福祉施設での活動と関連づけられて良かったと思います。2時間だけで終わるのはもったいないので、前後とつながっていくような取り組みにできると良いと思います。（福知山市／校長先生）



▼施設見学時のバス体験乗車を実施している小学校の先生のご意見

これを通じて、バスに乗れば自分の足だけでは行けない色々なところに行けるという認識が広がっていけば、周囲に目を向けて視野を広げていくきっかけになるのではないかと考えています。（久御山町／校長先生）



普段から自動車を利用する環境で育った子どもと、公共交通をよく利用する子どもでは、我慢強さや人の様子を見て行動する能力が違ってくると思います。この授業も活用しながら、自分のまちに愛着を持ち主体的に行動できる人間を育てたいと思っています。（久御山町／教頭先生）



●マナー意識や地域への意識・愛着も向上！

以下は、「ピンポンバス」や「バス体験乗車」のプログラムを受け数年が経過した子どもに、マナーや地域への意識についてアンケートを行った結果です。よく覚えているほど意識が高く、プログラムにより良い影響が出ていると考えられます。

▼乗車マナー(騒がない等)を守っているか ▼自分の住む町に愛着があるか

(ピンポンバス受講者)

(バス体験乗車受講者)



【ポイント】教科学習等との関係に気をつける

小学校では文部科学省が定める学習指導要領に即して授業が実施されています。

紹介したバスや物流等のプログラムは、環境や福祉、産業等の単元と関わりが強く、主に5年生の社会科（環境、工業生産と関連づける）で実施することが考えられます。また、総合学習で環境や福祉に取り組んでいる学校・学年では、総合学習として実施することも考えられます。

授業計画は学年の先生方が話し合っけて検討されています。関連のある前後の授業に有効に活用して頂けるよう学校のニーズ考慮し内容を検討することがポイントとなります。

▼交通環境学習と主に関連がある単元

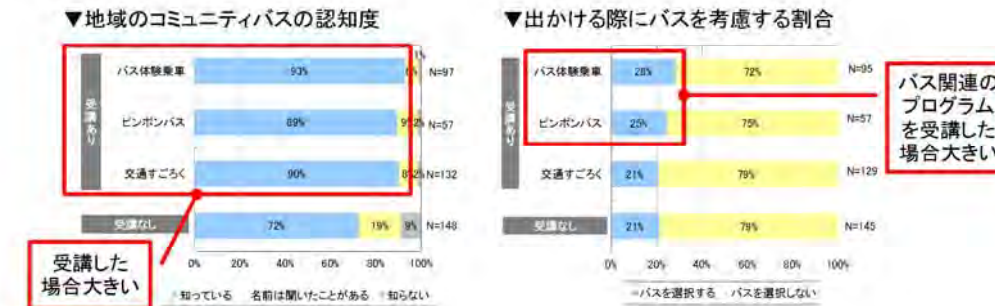
	主に関連がある教科			その他総合学習等
	社会科(東京書籍)	理科(啓林館)	生活科(啓林館)	
1年	—	—	—	—
2年	—	—	・レッツゴー!まちたんけん ・もっと知りたいな、町のこと	—
3年	1. わたしたちのまちみんなのまち →地域の公共施設の様子 2. 働く人とわたしたちの暮らし →生産と販売の仕事	—	—	—
4年	4. 暮らしを守る 5. 住みよいくらしを守る →安全や住みよい暮らしを守るための仕事や、対策・事業 7. わたしたちの県 →自分たちの市と県の位置	—	—	・障害者理解
5年	2. わたしたちの生活と食料生産 →食料の生産、輸入 →生産物の分布、消費地への輸送 3. わたしたちの生活と工業生産 →工業生産、分布 →貿易、運輸の動き 5. わたしたちの生活と環境 →公害、自然災害 →環境と生活・産業の関わり	—	—	—
6年	2. わたしたちの生活と政治 →自治体や国の政治 →生活の安定と向上を図る役割 (路面電車でまちを元気に)	4. 生物どうしのつながり 10. 自然とともに生きる	—	・キャリア教育

※京都府内で主に利用されている出版社の教科書の項目を紹介しています。地域により出版社が異なる場合がありますが、項目は概ね同様です。

(2) 利用促進の視点から

●子どものバスの認知度や交通手段の選択に影響!

前項と同じ調査で、各プログラムの題材となっているコミュニティバスの認知状況や、出かける際に手段としてバスを考慮する割合を調査した結果です。受講している場合にコミュニティバスの認知度が高く、バスを実際に体験したり題材として扱ったプログラム（バス体験乗車・ピンポンバス）を受けている場合にバスを考慮する割合が大きくなっています。

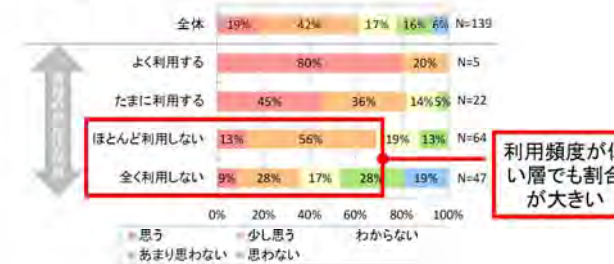


●家庭での行動にも影響!

上記は子どもの意識の変化ですが、実際には子どもだけでは交通手段を決められないケースが多くなります。そのため、京都府の取り組みでは授業実施後に家庭向けのチラシや家庭で実施してもらう宿題を配布しています。

これとあわせて、家庭でバスや電車を利用してみようと思ったかを調査した結果、高い割合でそう思われた家庭があったことが分かりました。

▼今後、バスや電車を利用してみようと思うか



▼取り組みに対する保護者の感想

・毎日通学に利用していますが深く考えず乗せて頂いていたので子どもの意識が変わり、とても良い経験になりました。
・亀岡市に住んでいると電車やバスより自家用車を利用する機会が多くなります。子どもたちにとって、さまざまな体験、経験をすることは親として大歓迎です。少し身近に考えるようになったと思います。

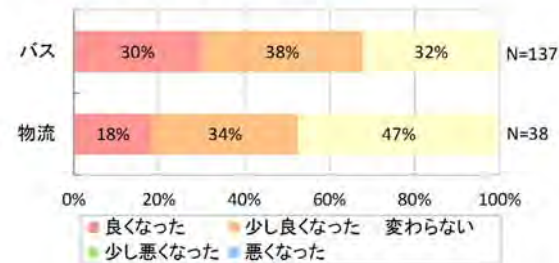


(3) 実施者の視点から

●事業者のイメージが向上!

次に、事業者等の実施者にとっての効果として、チラシ等を見た親へプログラムを実施した事業者に対するイメージを調査した結果、多くの家庭でイメージが良くなっていたことが分かりました。

▼事業者に対するイメージの変化



●担当した乗務員の意識向上や充実感!

また、授業を実施した事業者の声として、子どもとのコミュニケーションにより参加した乗務員の方の業務へのモチベーションが向上したという効果も見られました。

▼授業を実施した事業者の声(バス事業者)

今回、乗務員が4人参加しましたが、子どもとのやり取りを通じてバスの仕事の意味を実感し、業務に対するモチベーションが向上したという効果がありました。そういった意味でも今後も実施していきたいと思えます。



乗務員は子どもに興味を持ってもらえるとうれしく、抵抗なく実施しています。より充実感のある授業ができると良いと思います。



★それぞれの視点からの効果のまとめと・・・

- ⇒交通を使うことで**教育面で効果的**な授業を実施できます。
- ⇒子どもや家庭のバスの認知や**利用促進**にもつながります。
- ⇒さらに、実施者の**意識向上**にもつながります。

つまり、交通環境学習は、子どもや家庭だけでなく実施する側にとっても、地域社会や交通への意識を高め、行動を促す効果があり、地域全体での**交通を通じたより良いまちづくり活動につながっていくもの**とも考えられます。

4. 取り組みの進め方

実際に地域で交通環境学習を始めるには、まず、教育委員会や学校へ教育活動として情報提供をしながら、自治体・交通事業者等が連携して進めていく必要があります。

標準的に考えられる進め方の流れは以下のようなものです。

▼標準的な進め方の流れ



前ページの流れで進めていく場合の具体的な方法を紹介します。地域の状況により、手順が異なってくる場合もありますが、以下の手順を参考に実施してみてください。

なお、各段階で各種の資料が必要となりますが、●がついているものは「実践資料集」として別途京都府交通政策課のHPにてデータを提供していますのでぜひご活用ください。

また、必要に応じて京都府にてアドバイスや調整のサポートを行います。お気軽に「おわりに」の相談窓口までご連絡ください。

▼各段階の実施方法と役割分担

	実施方法・役割分担				資料 (●は実践資料集)
	市町村	事業者	学校関係者	京都府	
①実施の検討	・地域特性を踏まえて、実施を検討	(実施を検討)		・情報提供、啓発	—
②学校への説明	・教育委員会へPR・相談 ・校長会等でPR		教委)説明の調整、周知 各校)実施を検討 教委)実施校決定		●学校向け取り組み説明資料(交通環境学習のご紹介)等を使用
③内容検討・調整	・学校のニーズ確認・調整 ・プログラム決定		対象校)打ち合わせ、調整		
	・事業者との相談・内容確認	・実施の検討・調整		・必要な場合、調整の仲介	●事業者向け実施ポイント説明資料等を使用
④授業の実施	・資料づくり、実施準備 ※タイムスケジュール、PPTスライド・ワークシート作成等 ※バッジ購入	・実施準備 ※説明準備等	対象校)実施準備 ※班分け、機材準備等	・適宜アドバイス、サポート ・マイスターバッジ、シールの作成	●プログラムの基本構成 ●プログラムアレンジのポイント等を活用して作成
	・報道機関への広報			・他地域へ発信(見学)	—
⑤授業の実施	・実施 ・バッジ、シール配布	・実施	対象校)実施		—
⑤家庭へのフィードバック	・チラシの作成、調整		対象校)配布調整	・適宜アドバイス、サポート	●家庭向けチラシ等の作成ポイント等を活用して作成
	・配布(、回収)		対象校)配布(、回収)		
⑥学校等へのフィードバック	・教育委員会へPR・相談		教委)説明の調整、周知		・PPTスライド ・家庭向けチラシ等を活用して実施
	・校長会等でPR				

【参考】先進地域での取り組みの経緯

様々な経緯で取り組みを実施してきた先進地域の事例を紹介します。

○亀岡市の例

以前より府と一緒にやってきたモビリティ・マネジメントの一環として、平成23年度より交通環境学習を実施しています。

初めに教育委員会に相談した時には、プログラムの主旨や内容が定まっておらず、説明資料が十分ではなかったこともあり、手を挙げてくれる学校がありませんでした。そのため、税金を使って運営しているバス等の役割や重要性を市民のみならず理解していただくという意味でも市として必要なものであるといった説明も行って、教育委員会の理解を得て2校(5年生)で開始することができました。

1年目は府と協力し、試行錯誤でバス車両やガリバーマップ、物流車両を使ったプログラムを実施しました。1年では定着させることができず継続希望はなかったのですが、とりあえず3年間は継続してもらえよう教育委員会を通じて再度お願いしました。

その後、先生方のご意向を伺い改善しながら繰り返していった結果、1校ではバス車両のプログラムが環境をテーマとした総合学習の一つの題材として、もう1校では物流車両のプログラムが社会科(工業生産)の理解を深める素材として定着し、活用されるようになりました。また、バス車両のプログラムは2校目にも波及し、いずれも継続的に活用していただけそうです。

初めはハードルがありましたが、コミュニケーションを繰り返しお互いの理解が深まったこと、同時にプログラムも固まってきたことで、定着してきたんだと思います。



○福知山市の例

平成24年度より新たに「まちなか循環路線バス」を運行し始めたこともあって、交通環境学習を実施したいと思っていたところ、亀岡市で行っている取り組みの情報を得て府に相談しました。

コミュニティバス等で委託関係にあるバス事業者との調整は、府に間に入ってもらうことでスムーズに進めることができました。また、学校との調整は、まず教育委員会に声をかけたところ校長会で説明する機会をいただくことができ、亀岡市の資料を使って説明しました。あわせて、対象学年(5年生希望)や実施できる規模(50~60人以下)を伝えて対象校を選んでいただき、1校で取り組みを開始することができました。

2年目(平成25年度)は、1年目の取り組み結果を校長会で紹介させていただいたところ、新たに2校から手を挙げていただき、3校で実施することができました。

2年目の学校では、1年かけて実施する福祉学習(総合学習)の一環としてプログラムを活用していただいています。福知山では子どもがバスに乗る機会はほとんどないため、少しでも親しんでもらえるよう継続していきたいです。



【ポイント】 経験を見える化する ～交通環境学習マスター～

プログラムの記憶を残し効果を継続させるには、形に残るものを渡すことが考えられます。また、記憶を刺激しバスや電車をうまく利用するインセンティブを高められるとより効果的です。

そのため京都府では、「交通環境学習マスター」の仕組みをつくっています。受講証としてプログラムの内容に関連付けて、うまく利用することを促すメッセージを入れたバッジを作成して渡すことをおすすめしています。

地域でバッジの作成材料を準備していただければ、京都府にてバッジを作成してお渡すことができます。材料は約 50 円/個で、1 回の授業で 100 人程度受講するとしても、約 5,000 円です。実施する事業者に協力をいただくか、自治体で予算化することをご検討ください。予算化されると継続に実施していくことにもつながります。

あわせて、プログラムの実施者にもバッジ（市町村・事業所担当者）やシール（事業者乗務員等）をお渡しできるとさらに効果的です。

担当者の経験を見える化できるだけでなく、乗務員の方にバスの名札等にシールを貼っていただければ、子どもが乗車した際に「あの運転手さんだ！」と思いだしたり、コミュニケーションが生まれるきっかけにもなります。

▼マスターバッジの例



あの運転手さんだ！

あっ、こんにちは！
じょうずに乗ってるかな？



※事業者によっては、シールの貼り付け等が難しい場合もあります

加えて、実施者については、各地域で実施を検討される際に経験者へ問い合わせ等がしやすくなるよう、京都府にて経験内容や経験数（≒バッジ数）、連絡先がわかるよう「マスターリスト」を作成しています。こちらも、相談窓口より配信していますので、ぜひご活用ください。

5. 継続に向けて

一度地域で実施できればあとは継続です。最初と同じように、市町村や事業者が中心となって続けていくことも、様々な効果が期待できる点で理想的な取り組みです。ただ、地域内で対象を広げていこうとする場合、学校の先生に主体的に実施してもらうことも、効果的かもしれません。

このような取り組みには以下のような事例があります。このように展開していくことができれば、自治体や事業者は新たな展開も検討でき、大きく発展させられます。

●既存の教育活動に取り入れる

忙しい中で新たな時間確保や負担を増やさずに実施するには、既にある機会・活動に関連付けて実施することが考えられます。例えば、低学年で広く実施される「自転車安全教室」や「施設見学」等があります。

例えば、平成 17 年頃から交通環境学習を継続的に実施している久御山町では、現在は外部からのプログラムは実施していませんが、バスの教材としての効果が先生方に浸透しており、町内の全小学校で施設見学時に自分で運賃を払ってバスに乗る体験学習が定着しています。さらに、そのうちの 1 校では、生活科のまちを知る学習の一つに「自分のまちのバスを知ること」を位置づけており、毎年バスに乗って町役場まで行き、乗務員の方や町職員にインタビューを行う等の学習を学校が独自に行っています。

また、石川県金沢市では、市内全校に「バスの乗り方」の DVD を配布し、自転車安全教育の時間に学習を行う（必須）とともに、自転車安全教室を実施する場所までの移動に路線バスを用いて、実践につなげています。

●学校の先生が主体的に実施する

学校側が主体的にプログラムを検討・展開することも考えられます。交通は特に社会科・生活科との関わりが強く、関連する研究会に興味のある先生等と連携を図りながら進めていくことができます。

例えば、北海道札幌市では、研究授業に位置付けながら先生による交通を用いた様々なプログラムの検討・試行が実施されています。

▼久御山町の体験乗車



▼金沢市の DVD



▼札幌市の先生による研究授業



【ポイント】生活科・社会科での体験乗車をより効果的に

生活科や社会科の施設見学では、バスや電車などがよく利用されており、たくさんの子どもが先生に引率されて乗車するのをよく見かけます。

このような体験乗車も重要ですが、地域や社会の学習という観点から、この機会に観察してほしいポイントをうまく伝えたり、その結果を共有・考察することができると、より効果的な経験となります。

そのため、このような機会にあわせて、以下のような資料をアレンジして学校へ提供することで、簡易に効果を高めることができるかもしれません。



乗車前(事前学習)

のってこバスに乗ってみよう!

●のってこバスに乗ってみたいかな?

●バスに乗るときに-

○うるさくしないようにしよう
○お年よりや体の不自由な人がいたら声をかけるよ

●バスの中や外をよよく見てみよう!
○どんな人が利用しているかな?
○どんな 所 を通るかな?
○はっけんカードに書いてみよう!

観察の動機づけ、ポイントの説明

乗車時

バスはっけんカード

月 日 番号 () 名前 ()

バスが通った 所 には目があったかな?

●バスに乗ったとき

●バスの中や外をよよく見てみよう!

○ () にも行ける
○ () にも乗っている
○バスがみんなとまらばお年よりの人たちをつないでいる!

●バスをのって乗ってみよう!
→お年よりの人にバスに乗ったことを話してみよう!
→バスに乗っている人などところに行ってみよう!

乗車時または、乗車後に記録

乗車後

みんなの生活をささえるのってこバス

●みんなが利用でき、みんなが通っているから、便利にしよう

●バスをのって乗ってみよう!

ポイントの共有・考察、まとめ

※なお、ここではこの取り組みを継続の方法として紹介していますが、学校の意向や地域特性によっては、このような簡易な方法から始めることも効果的と考えられます。
※他のプログラムと同様に「実践資料集」で上記様式を提供しています。

6. サポート情報

プログラム等を検討される際に、参考となる HP 等をご紹介します。

- 交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）ポータルサイト
<http://www.mm-education.jp/>
→全国のさまざまな事例が紹介されており、教材のダウンロードも可能です。
- 大阪府ホームページ（交通環境学習プログラム）
<http://www.pref.osaka.lg.jp/toshikotsu/kankyogakusyuu/>
→大阪府におけるプログラム実施事例、教材が紹介されています。
- 富山市ホームページ（交通環境学習の実施について）
http://www.city.toyama.toyama.jp/toshiseibibu/kotsuseisakuka/mobilitymanagement_8.html
→富山県富山市におけるプログラム実施事例、教材が紹介されています。
- 仙台市ホームページ（小学生交通環境学習）
http://www.city.sendai.jp/sumiyoi/kotsu/smart/1195111_1593.html
→宮城県仙台市におけるプログラム実施事例、教材が紹介されています。

おわりに

京都府（交通政策課）では、ここで紹介した交通環境学習を府内の各地域で広め、より良い交通環境や地域社会づくりに貢献していくことを目指しています。

各項目でも記載しているように、各地域で取り組みを検討される際には、必要に応じて相談の受付・アドバイス、検討・調整のサポート等をさせていただきます。興味を持たれましたらお気軽に下記相談窓口までご連絡ください。

また、交通環境学習を実施することが決まりましたら、相談窓口まで情報をいただけますと幸いです。府域で知見や資料の有効活用に活かしていきたいと考えております。

【相談窓口】京都府建設交通部 交通政策課 企画担当
TEL : 075-414-4368
e-mail : t-magome54@pref.kyoto.lg.jp





6-3 実践資料集の作成

(1) 作成項目

各地域で取り組みを実行していく際に、学校や事業者との調整、プログラムのアレンジが円滑・効果的に進むよう、これまでの取り組み結果の知見を実践資料集として整理した。次頁以降の各資料を示す。

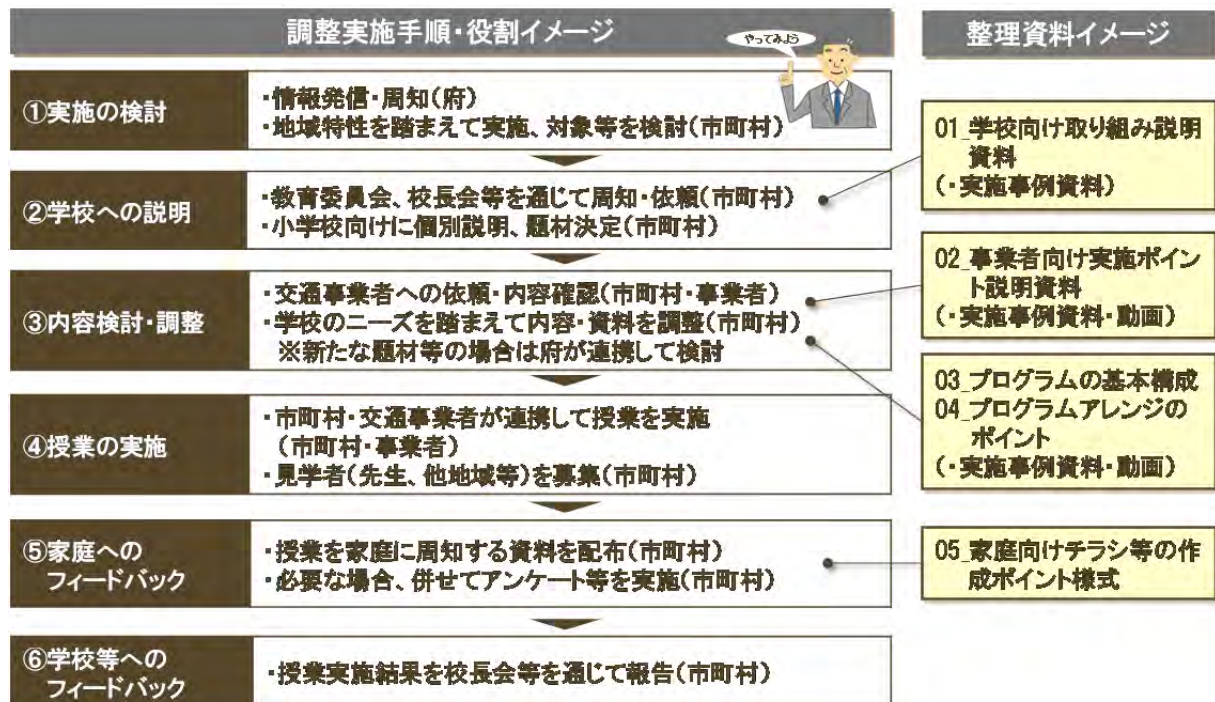


図 6-1 調整段階にあわせた実践資料集の整理項目



小学校関係者の方へ

交通環境学習のご紹介



はじめに

昨今の地球温暖化や中心市街地・公共交通の衰退、本格的な高齢化社会の到来により、●●市においても、持続的な地域づくりに資する公共交通の活性化が大きな課題となっています。

公共交通活性化の取り組みとしては、ハード・ソフトの様々なものがあげられますが、意識づけ等のソフト的な活動は、幼少期から継続的に行っていくことが効果的と言われており、全国的に小学生等を対象とした「交通環境学習」が実施されています。

このリーフレットは、小学校関係者の方々に「交通環境学習」について知り、興味を持っていただくことを目的として作成しています。

1. 交通環境学習とは

交通環境学習は自治体や事業者の視点からは、小学生等に公共交通に親しんでもらい、利用するきっかけをつくる取り組みですが、交通は地域と自分をつなぐ、子どもにとって最も身近な資源の一つであり、環境や福祉、地域学習等の単元とも関連づけられることから、教育活動としても有用なものと考えています。

そのため、「交通環境学習」とは、以下のような取り組みのことをさします。

交通を活用することで、環境や福祉、地域について実感を深め、
考えることを目的としたプログラムの実施を通じ、
結果的に、公共交通への親しみや理解が深まり、
家族にも波及した実践にもつながる取り組み

2. 交通環境学習のプログラムメニュー

プログラムとしては、バスや物流、鉄道等を題材にしたものがあります。

その中でもバスは、概ねどの地域にも関わりがあり、身近で実物の見学もしやすいため、学習（環境や福祉等）を深めるのに使いやすい素材です。

	プログラム	主な対象例	概要	事業者との連携
バスが身近な地域 	バス車両の工夫見学	・5年社会科（環境） ・福祉等	バスの工夫を通じて地域との関わりや自分の行動について考える	○
物流・産業が身近な地域 	物流車両の工夫見学	・5年社会科（産業・環境）等	物流車両の環境面の工夫を通じて、自分の行動を考える	○
鉄道が身近な地域 	鉄道を支える仕事	・4年社会科（くらしを守る） ・5年社会科（環境） ・キャリア教育等	鉄道の仕事を通じて地域の支え合いや自分の行動について考える	○
その他	バス体験乗車	・2年生活科（まち探検） ・5年社会科（環境）	施設見学等にバスを利用し、バスを通じた地域とのつながりを実感する	—
	交通すころく	・5年社会科（環境）等	ゲームを通じて交通手段選択が地域に与える影響や自分の行動を考える	—

3. プログラムの内容（バス車両の工夫見学）

例えば、バス車両の工夫見学は行政と事業者が連携して以下のような内容を行います。

○学習の目的・テーマ

- ・バス車両の見学を通じて、地域の生活を支えるバスの役割を実感する。
- ・地域を支えるバスに対して、自分にできることを考える。

項目	主旨・概要	実施イメージ	
導入 (約10分)	交通とは	・それぞれに身近なものとしての交通、バスの確認	
	地域を支えるバス	・地域の様々な場所を結び、色々な人が利用するバスの認識	
	色々な人が利用するバス	・色々な人のために色々な工夫がされていることを予想	
車両見学 (約40分)	全体説明	・見学の主旨、ポイントの理解 ※色々な人が使うバスにはどんな工夫があるか観察しよう ※代表的なバスの工夫（ニーリング等）の例示 ・見学方法（流れ）の理解	
	車両見学	・複数の班に分かれ、ローテーションで見学 ※車両外側、車両内部、運転席等 ・乗務員が誘導しながら観察、質問（ワークシートへ記載）	
まとめ (約30分)	振り返り	・気づいた点の発表（板書） ・工夫点の理由の考察、共有	
	まとめ	・色々な人が利用するバス、バスが支える地域の認識、実感 ・バスの環境に対する優しさの認識 ・地域にとって重要なバスの理解	
	考える	・地域でバスをうまく利用していくためにできること（考えて発表）	

▼授業を受けた児童の声

<自分にできること>

- ・もし、バスが無かったら通学の時に歩いて学校まで行くのはつらいです。買い物に行くときはなるべくバスで行きたいです。
- ・バスに乗っていて車イスの人やお年寄りが乗ろうとしているときには助けてあげたい。
- ・私はこの話を聞いてちょっとバスの仕事をやってみたいと思いました。

<授業の感想>

- ・お年寄りや体の不自由な人のために段差をなくしたり、他にも知らなかったことをたくさん知れてよかったです。
- ・運転手さんがミラーを使って安全確認をされていてすごかったです。
- ・今日の授業で今まで知らなかったことや不思議に思っていたこと、普段では体験できないことを教えてもらったり、実際に体験させてもらってよかった。



4. 交通環境学習のいろいろな効果

これまでの取り組みで見られた結果について、先生方の声を中心にご紹介します。

●色々な学習を深めたり社会性を育てる効果があります！

実際に環境や福祉の学習の理解を深めたり、社会性を育てる効果を実感されています。

▼「バス車両の工夫見学」を実施している小学校の先生のご意見

当校は亀岡市で最もバスが便利な地域にあり、とにかく身近な交通手段であるため、題材にした効果は大きかったと思います。環境の話を多く盛り込んだ内容でしたが、5年生は環境の内容が多いため、効果的でした。（亀岡市／校長先生）



今年、福祉をテーマにした総合学習の一環として実施し、福祉施設での活動と関連づけられて良かったと思います。2時間だけで終わるのはもったいないので、前後とつながっていくような取り組みにできると良いと思います。（福知山市／校長先生）



▼施設見学時のバス体験乗車を実施している小学校の先生のご意見

これを通して、バスに乗れば自分の足だけでは行けない色々なところに行けるという認識が広がっていけば、周囲に目を向けて視野を広げていくきっかけになるのではないかと考えています。（久御山町／校長先生）



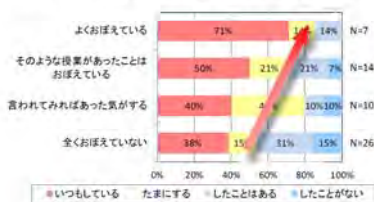
普段から自動車を利用する環境で育った子どもと、公共交通をよく利用する子どもでは、我慢強さや人の様子を見て行動する能力が違ってくると思います。この授業も活用しながら、自分のまちに愛着を持ち主体的に行動できる人間を育てたいと思っています。（久御山町／教頭先生）



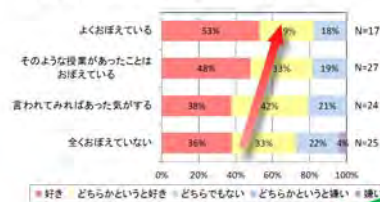
●マナー意識や地域への意識・愛着も向上！

受講後の中学生に対して、プログラムの内容に関わるマナーや地域への意識についてアンケートをした結果、授業をよく覚えているほどそれぞれの意識が高く、マナーや地域への意識を高める効果もあると考えられます。

▼乗車マナー(騒がない等)を守っているか



▼自分の住む町に愛着があるか



交通環境学習は様々な効果があり、学校での学習を深めるのに活用できます。

ご興味を持たれましたらお気軽に下記までご連絡ください。

【連絡先】 ●●市 ●●課 ●● TEL: ●●●-●●●-●●●●

交通は
まちづくりの
第一歩！！

(3) 02_事業者向け取り組み説明資料

1) バス車両プログラム

バス車両工夫見学の実施ポイント

1. 目的

- このプログラムは、「自分の住む地域で色々な人が一緒に暮らしていること」、それらを支える「バスの重要さ」を学び、実感することが主なねらいとなっています。
- そのための題材としてバスの車両（と、その様々な工夫）を活用します。

2. 見学の進め方

(1) 基本的な考え方

- 上記を踏まえ、バス車両において、高齢者や障害者、妊婦等様々な人たちが安全で快適に利用できるために施されている工夫を知ることが基本となります。
- ただし、福祉的な視点に限らず、一般の方向けの安全対策や事故防止、利便性向上のために施されている工夫も入れていくと、子どもの興味が深まります。
- また、班の人数や時間によりますが、「説明しながら教える」だけでなく、できるだけ「これは何のマークかな?」「ここにいて運転手さんにはどう見えると思う?」（運転手からの死角を説明する場合）等の質問形式で進めると、理解・興味が深まります。

(2) 各パートでの実施イメージ

1) 全体説明

- 車両の工夫を見学する意味を理解してもらう（見学の仕方の理解）ため、代表的な例の一つ見せると分かりやすくなります。
- たとえば、始まってからではやりにくい二ーリングを行い、「どれくらい下がるか」、「それができると何が便利か」ということを実演、説明することが考えられます。

2) バス車両の外側の見学

- 外側を一周しながら、外側から見える箇所について一通り観察します。見学のポイントとしては、以下のようなものがあげられます。

	ポイント例
側面(入口側)	• 乗車口のマーク(車いす・ベビーカーに対応している) • インターホンとマイク
背面	• バックカメラ(安全確保) • エンジンルーム (後ろにあるから後ろの席が高い →ノンステップバスの形状)
側面(反対側)	• 非常口
全面	• ミラーの数(どこが見えるようになっているか) • 運転席からの死角(前を歩くと見えない) • 方向幕(行き先の見方) • タイヤの数(通常の車より多い)



3) 車いす体験

- ・車いすを1台準備しておき、スロープを出した状態で順番に車いすでの乗車、介助体験を行います。以下の手順で実施します。

(実施手順例)

- ① 2人1組になり、乗車か介助のどちらかを体験します。
- ② 跳ね上げ椅子を事前に上げておきます。
- ③ 乗務員がサポートしながら、介助者が車いすを押し乗車します。
(意外と重くしっかりと体重をかけないと乗車できないことを体験)
- ④ 時間がある場合、車いすスペースへの固定を行います。
- ⑤ その後、スロープから下車します。



(後ろ向きに下車しないと危険で怖い思いをすることを体験)

※時間がない場合はじゃんけん等で実施する人を選んでください。

4) 車内・運転席

- ・車内を順番に見ながら工夫点を観察します。見学のポイントとしては以下の様なものがあげられます。
- ・また、優先席等を説明しながら、乗車時のマナー（席を譲る、騒がない等）についてもあわせて説明することも考えられます。

ポイント例	
客席	<ul style="list-style-type: none">・安全バー・段差についているライト・車いす用の跳ね上げ椅子・優先席 
運転席周り	<ul style="list-style-type: none">・ドライブレコーダー・ミラー（たくさんのミラーで見える範囲）・ドアの開け閉め（開いていると発車できない）・運賃表、運賃箱（障害者や高齢者と一般の場合の運賃の違い等）

(3) その他

- ・複数の班に分かれて見学する場合は、他の班との時間を合わせる必要があります。時間を管理し声掛けをする人を決めておきましょう。また、時間が余る場合は、子どもに質問してもらう時間等を取ると調整ができます。

2) 物流工夫プログラム

物流車両工夫見学の実施ポイント

1. 目的

- このプログラムは、公共交通を利用する等の環境にやさしい行動を自ら考え、実践できるよう、物流における環境面の工夫を実感させることが主なねらいとなっております。
- そのための題材として物流の車両（と、その様々な環境面での工夫）を活用します。

2. 見学の進め方

(1) 基本的な考え方

- 上記を踏まえ、物流車両において、環境に対する影響を軽減するために施されている工夫を知ることが基本となります。
- さらに、スムーズな配達等のために施されている工夫や安全対策も入れていくと、子どもの興味が深まります。
- また、班の人数や時間によりますが、「説明しながら教える」だけでなく、できるだけ「普通の車とどこが違うか見つけられるかな？」（電気自動車のマフラーがついていない特徴を説明する場合）、「通常の手だてと紙が黒くなったけど天然ガス車の方ではどうなると思う？」（天然ガス車の排気ガスについて説明する場合）等の質問形式で進めると、理解・興味が深まります。

(2) 各パートでの実施イメージ

1) 全体説明

- 見学の段取りを把握させるため、班分け（各班を初めに誘導する乗務員の紹介）やローテーションの順番、観察時の留意点（ワークシートへの記入、安全等）を説明します。

2) 天然ガス車の見学

- 工夫点を観察します。見学のポイントとしては以下のようなものがあげられます。
- また、天然ガス車と普通車それぞれの排気ガスを紙面に吹き付けて汚れの比較を行います。以下の手順で実施することが考えられます。

	ポイント例 ※質問例
特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> • 排気ガスの違い (実施手順例) ① 通常の配送車の排気ガスを紙面に吹き付け、汚れ具合を観察します。 ② 「天然ガス車の方ではどうなるでしょう？」という質問をします。 ③ 天然ガス車の排気ガスを紙面に吹き付けます。 ④ 両方を比較し、天然ガス車の方がきれいであることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • 排気ガスがきれいな理由 • 積載量
使い方	<ul style="list-style-type: none"> • 活用状況 (エリア、通常の配送車との使い分け等) • 天然ガスの補給方法



3) 電気自動車の見学

- 工夫点を観察します。見学のポイントとしては以下のようなものがあげられます。

	ポイント例 ※質問例
特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> • 排気口の有無 ※普通の車とどこが違うか見つけられるかな? • エンジン音の有無 • 航行距離
使い方	<ul style="list-style-type: none"> • 活用状況 (エリア、通常の配送車との使い分け等) • 充電方法



4) スリーターの見学、乗車体験

- 工夫点を観察します。見学のポイントとしては以下のようなものがあげられます。
- また、何人かに乗車体験をさせることも考えられます。時間がない場合はじゃんけん等で実施する人を選んでください。

	ポイント例 ※質問例
特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> • 積み下ろし方法（配達の仕組み、やり方等） • 電動アシストの機能 (走行中の充電機能、使用可能時間等)
使い方	<ul style="list-style-type: none"> • 活用状況 (エリア、車との使い分け等)



5) 通常の配送車

- 車内を順番に見ながら、工夫点を観察します。見学のポイントとしては以下のようなものがあげられます。
- また、普通車であるためアクセルをゆっくりと踏んで発進する等、環境への配慮として心掛けていることもあわせて説明することが考えられます。

	ポイント例 ※質問例
特徴・機能	<ul style="list-style-type: none"> • 積み荷のダメージを減らす工夫 ※なぜ木でできていると思う? • 積み下ろししやすくする工夫 • 積載量
その他	<ul style="list-style-type: none"> • ドライバーの人数（会社全体等） • 運用している車両数（〇〇市内、京都府内等） • 1日の荷物の個数（〇〇市内、京都府内等）



(3) その他

- 複数の班に分かれて見学する場合は他の班との時間を合わせる必要があります。時間を管理し声掛けをする人を決めておきましょう。また、時間が余る場合は、子どもに質問してもらう時間等を取ると調整ができます。

3) 鉄道プログラム

鉄道を支える仕事説明の実施ポイント

1. 目的

- このプログラムは、鉄道を利用する等の地域のことを考えた行動を自ら考え、実践できるように、地域にとって鉄道が重要な公共財であることを実感させることが主なねらいとなっております。
- そのための題材として鉄道を支える仕事を活用します。

2. 見学の進め方

(1) 基本的な考え方

- 上記を踏まえ、鉄道を支える仕事の内容について知ることが基本となります。
- 「説明しながら教える」だけでなく、できるだけ「何をしていると思う？」（打音検査をしている様子の写真を見せながら点検方法について説明する場合）、「修理が必要なのはどっちの音だと思う？」（線路の点検方法の種類について説明する場合）等の質問形式で進めると、理解・興味が深まります。

(2) 各パートでの説明イメージ

1) 全体説明

- 鉄道を支える仕事が連想できるような写真を見せながら（ワークシート活用）、「鉄道を走らせるためにどんな仕事がある？」、「どのような人が関わっていそう？」等の質問でどんなものがありそうか予想させてから各パート説明に移る方が理解を深められると考えられます。



2) 各パートの説明

- 以下のパートを例として仕事内容を説明します。説明の項目やポイントとして以下のようなものがあげられます。また、紹介動画等があれば活用できます。

パート		項目・ポイント例 ※質問例
建設の仕事	つくっているもの	<ul style="list-style-type: none"> • 駅舎 • 線路、トンネルや橋梁 • 施設、機械 (自動改札機、切符販売機等)
	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> • 駅開業の時期 • 駅の数 (〇〇市内、京都府内等) • 線路の全長 (〇〇市内、京都府内等)

パート		項目・ポイント例 ※質問例
メンテナンスの仕事	メンテナンスするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・車両、線路、電線、信号機、踏み切り ・自動改札機、切符販売機
	実施方法例	<ul style="list-style-type: none"> ・点検の種類（目視、打音検査等） ・判定方法（音の違い等） 
駅の運営の仕事	顧客対応	<ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者数（〇〇駅、〇〇市内、京都府内等） ・案内（切符の販売、路線等） ・高齢者や体の不自由な方への援助 ・ホーム等での安全確認 
	車両対応	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機の操作 ・電車の連結、切り離し
運輸の仕事	運行に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面への配慮 ・停車方法（正しい位置に停める方法） ・運転士以外の仕事（車掌等） 
	運転士に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練内容 ※どんな訓練を受けたらなれると思う？ ・1日のスケジュール ※運転士さんの1日はどういうスケジュールだと思う？ ・運転士の人数（会社全体、女性の比率等）

(3) その他

- ・時間が余る場合は、子どもに質問してもらう時間等を取ると調整ができます。

(4) 03プログラムの基本構成

1) バス車両プログラム

バス車両の工夫見学プログラム

1. 学習の目的・テーマ

このプログラムは、バス車両の見学を通じて、地域の生活を支えるバスの役割を学び実感することで、地域を支えるバスに対して自分にできることを考えるものです。

2. 授業の流れ

導入・見学・まとめの流れで2時限を基本とし、行政とバス事業者が連携して実施します。

項目	主旨・概要	実施イメージ
導入 (約10分)	交通とは	
	地域を支えるバス	
	色々な人が利用するバス	
車両見学 (約40分)	全体説明	 
	車両見学	
まとめ (約30分)	振り返り	
	まとめ	
	考える	

▼授業を受けた児童の声

- ・お年寄りや体の不自由な人のために段差をなくしたり、他にも**知らなかったことをたくさん知れてよかったです。**
- ・今日の授業で**今まで知らなかったことや不思議に思っていたこと**、普段では体験できないことを教えてもらったり、**実際に体験させてもらってよかったです。**
- ・バスに乗っていて車イスの人やお年寄りが乗ろうとしているときには**助けてあげたい。**
- ・私はこの話を聞いてちょっとバスの**仕事をやってみたい**なと思いました。



3. その他

- ・特に学校に準備していただくものはありません。
- ・なお、「環境」や「福祉」の単元との関連が強いため、5年生の社会科等の学習を深めるのに活用することができます。

2) 物流工夫プログラム

物流車両の工夫見学プログラム

1. 学習の目的・テーマ

このプログラムは、物流車両の見学を通じて、車が欠かせない物流事業者が行っている環境に対する工夫を実感することで、地域の環境に対して自分にできることを考えるものです。

2. 授業の流れ

導入・見学・まとめの流れで2時限を基本とし、行政と物流事業者が連携して実施します。

項目	概要	実施イメージ	
導入 (約 10 分)	物流とは	・それぞれに身近なものとしての物流の確認	
	地域を支える物流	・実例を用いて地域と物流の関わりを実感	
	環境に対する工夫の必要性	・地域にとって重要であるが環境面への影響を認識 ・環境に対する工夫を予想	
物流車両 見学 (約 40 分)	全体説明	・見学の主旨、ポイントの理解 ※トラックをたくさん使う宅急便ではどんな工夫があるか観察しよう ・見学方法（流れ）の理解	
	車両見学	・複数の班に分かれ、ローテーションで見学 ※電気自動車、天然ガス車、スリーター（リヤカー付き自転車）等 ・ドライバーが誘導しながら観察、質問（ワークシートへ記載）	
まとめ (約 30 分)	振り返り	・気づいた点の発表（板書） ・工夫点の理由の考察、共有	
	まとめ	・物流事業者が行っている環境に対する工夫の理解、実感	
	考える	・環境を守っていくために、自分にもできること（考えて発表）	

▼授業を受けた児童の声

- ・僕らが見えないところで、少しでも工夫していることが分かった。
- ・近いところは車で行かず、歩きや自転車を使おうと思いました。
- ・買物袋を持っていくのも自分にできることだと思いました。
- ・スリーター（リヤカー付き自転車）に乗っているのを見かけたら、できるだけ道を空けてあげたい。



3. その他

- ・特に学校に準備していただくものはありません。
- ・なお、「工業産業」や「環境」の単元との関連が強いため、5年生の社会科等の学習を深めるのに活用することができます。

3) 鉄道プログラム

鉄道を支える仕事紹介プログラム

1. 学習の目的・テーマ

このプログラムは、鉄道を支える仕事を通じて鉄道が地域にとって重要な公共財であることを実感し、鉄道に対して自分にできることを考えるものです。

2. 授業の流れ

導入・見学・まとめの流れで2時限を基本とし、行政と物流事業者が連携して実施します。

項目	主旨・概要	実施イメージ	
導入 (約 25 分)	交通とは	・それぞれに身近なものとしての交通、鉄道の確認	
	地域と関わりのある鉄道	・地域の鉄道とまちの発展の経緯を示し、地域と鉄道の関わりを認識	
	地域にとって重要な鉄道	・まちの発展を支えた鉄道の重要性を認識 ・色々な人や努力で支えられていることを予想	
仕事紹介 (約 40 分)	全体説明	・説明の主旨、ポイントの理解 ※電車を走らせるためにどんな仕事があるか考えさせる(ワークシートの活用)	
	鉄道を支える仕事	・動画等を用いて各パートの仕事内容や地域との関わり等を説明 ※建設、メンテナンス、駅の運営、運輸等 ※安全な走行や地域の方々のためにやっていること等 ・事業者の方が見回りながら内容確認(ワークシートへ記載)	
まとめ (約 30 分)	まとめ	・多くの人に支えられていることを認識 ・鉄道の環境に対するやさしさを認識	
	考える	・地域で鉄道をうまく利用していくためにできること(考えて発表)	

▼授業を受けた児童の声

- ・私たちの知らないところでがんばってくれる人がいたんだなと思いました。
- ・地球や私たちのことまで考えて電車を作っていたのでびっくりした。
- ・鉄道を支えている人たちがいっぱいいるので鉄道を大切にしたい。
- ・鉄道がより早く次の駅に着くために工夫されていることが分かったし、昔と今を比べて電車がどれだけ便利になったかも分かったので、傷つけないように使いたいと思った。



3. その他

- ・特に学校に準備していただくものはありません。
- ・「くらしを守る」や「環境」の単元との関連が強いため、4・5年生の社会科やキャリア教育の学習を深めるのに活用することができます。

(5) 04_プログラムアレンジの考え方

1) バス車両プログラム

■プログラムアレンジのポイント/バス車両工夫

① 導入

交通とは？(約5分)

○身近な交通、バスを確認する

▼普段利用する交通は？

交通ってなに？
家族で買い物に行く時の乗り物を使うかな？

身近な行動を例にだし、交通をイメージする

地域を支えるバス(約5分)

○地域のバスの状況を確認し、「色々な場所を結ぶ」→「色々な人が利用する」バスについて認識する

▼学校の周りのバスはどんなバス？

学校の周りのバスを知ろう
バスでバス停まで行けると思う人？

身近な学校から始めて、地域のバスを認識する

▼バスでどんなところに行ける？

バスでどこまで行けるかな？
島岡市のバスはどこまで広がっているかな？

学校と駅以外に意識を広げながら、バスを使って色々な施設に行くことができ、色々な人が利用することを示す

色々な人が利用するバス(約5分)

○色々な人が利用できるような色々な工夫がされていることを予想する

▼色々な人が利用できる工夫を観察

色々な所に行けるバスをよく知ろう！
色々な所に行けるバスは、みんなが使いやすいように工夫がされている！

導入の整理をし、車両見学の動機づけを行う

② 車両見学

全体説明(約5分)

○見学の主旨、ポイントを理解する

見学のポイントの理解のため、代表的な工夫(ニーリング等)を例示

班分け(各班を初めに誘導する乗務員の紹介)、ローテーションの順番、観察時の留意点(ワークシートへの記入、安全等)の説明

車両見学(約35分)

○複数の班に分かれて、ローテーションで見学する

<基本パターン例>

外側

たくさんのミラー、インターホン、非常扉等を観察

車いす体験

車いす・スロープを使って、乗車を体験

車内・運転席

優先席、安全バー、運転席の仕組み等を観察

<コンテンツの考え方>

- スムーズに見学を行うには3、4班程度までが基本。
- 人数は1班は10名程度が望ましく、多い場合でも30名程度まで。
- 班の人数に応じて見学コンテンツを統合、追加。

【追加例】バス車両を増加(小型車両等)
市町村で保有している低公害車(電気自動車、天然ガス車等)
バス停、時刻表の見方、環境に関する紙芝居等

EV見学

紙芝居

③ まとめ

振り返り(約10分)

○工夫点発表・理由考察、共有する

▼どんな工夫があった？

発表を模造紙に書きながら結果を全体で共有

まとめ(約10分)

○振り返りを受け「地域の生活を支える」+「環境にもやさしい」バスの重要性を理解する

▼バスが地域の生活を支える！

バスは人にもやさしい
色々な工夫がされていたのが分かりましたか？
色々な人が乗っている
バスが生活を支えている！

▼環境にも優しいのはなぜ？

バスは環境にも優しい
どうして環境にも優しいのかな？
5年生を対象とする場合等で学校の興味があれば、社会科の工業生産に関わる技術的な工夫等も紹介

排気ガスの排出と温暖化の関係等から、バスが環境にも優しいことを示す

できることを考える(約10分)

○バスをうまく利用していくために、自分にできることを考える

▼できることの例示

バスを大切にしよう
バスを使って行けるところには、できるだけバスを使って行こう！
5分間への乗降のバスと乗降で行こう！

利用が多い地域では、将来の人口推移等も示して、時間的広がりを持つ

▼考えてみよう！

バスを大切にしよう
その他にもできることがないかな？
●その他に、バスを大切にするためにできること、バスで行ってみたいと思う場所などを考えてみよう。
●それぞれ、思いついたことを書いてみてください。

できることを考えてワークシートに記入(時間があれば発表)

2) 物流工夫プログラム

■プログラムアレンジのポイント/物流の工夫

① 導入

物流とは?(約5分)

○自分と関わりのあるものとして物流を認識する

▼普段利用する交通は?

交通ってなに?
家族で買い物に行く時の乗り物を使うかな?

身近な行動を例にだし、交通をイメージする

地域を支える物流(約3分)

○実例を用いて地域と物流の関わりを実感する

▼人の動きと物の動き

交通ってなに?
物の動きも観察してみよう

人の移動に加えて、物の移動があることを認識する

環境に対する工夫の必要性(約2分)

○地域にとって重要だが環境負荷の大きい物流において、環境に対する工夫がされていることを予想する

▼トラックが環境に与える影響

トラックが産業を支えているけど、環境への影響も

地域の産業や生活をトラックが支えているが、環境に影響を与えていることを認識する

② 車両見学

全体説明(約5分)

○見学の主旨、ポイントを理解する

班分け(各班を初めに誘導する乗務員の紹介)、ローテーションの順番、観察時の留意点(ワークシートへの記入、安全等)の説明

車両見学(約45分)

○複数の班に分かれて、ローテーションで見学する(各パートの特徴や機能に加えて、工夫の経緯や使い方を説明)

<基本パターン例>

天然ガス車

紙面に吹き付けた排気ガスの汚れ具合を観察し、普通車と比較

電気自動車

排気ガスが出ないこと、エンジンをかけている際の音、充電部分等を確認

スリーター

リアカーを牽引して走行できること、台車のままでも配送できること等を確認、乗車体験

通常の配送車

走行の仕方(エコドライブ)等による工夫を確認

<コンテンツの考え方>

- ・スムーズに見学を行うには3、4班程度までが基本。
- ・人数は1班は10名程度が望ましく、多い場合でも30名程度まで。
- ・班の人数に応じて見学コンテンツを統合、追加・変更。

【追加・変更例】 宅配便のしくみ
安全講習
環境にやさしい車の話

③ まとめ

振り返り(約3分)

○工夫点発表・理由考察、共有する

▼どんな工夫があった?

発表を模造紙に書きながら結果を全体で共有

まとめ(約3分)

○車が欠かせない物流でいろいろな工夫がされていることを認識する

▼物流には車が必要!

物流の工夫

地域の生活を支える物流に車は欠かせないことから、環境への影響を減らす工夫をしていることを確認

できることを考える(約6分)

○自分に置き換えて環境負荷を減らすためにできることを考える

▼物の動きの工夫から人の動きの工夫へ

みんなができること

物流だけでなく、人の動きにおいても車ははともも便利で、使用しない生活は難しいことを認識する

物流の工夫を踏まえ、人の動きの場合でもできることを考える

▼考えてみよう!

みんなができること

その他にもできることが思い浮かぶ?

- ① できるだけ車を使わないようにする...
- ② 車を環境にやさしく使う...

●その他にも、みんなにできることが何か考えてみよう。
●たとえば、電車やバスで行ってみようと思う場所などを考えてみよう。

できることを考えてワークシートに記入(時間があれば発表)

3) 鉄道プログラム

■プログラムアレンジのポイント/鉄道を支える仕事

① 導入

交通とは?(約5分)

○身近な交通として鉄道を認識する

▼普段利用する交通は?

身近な行動を例にだし、交通をイメージする

地域と関わりのある鉄道(約15分)

○鉄道が便利になっていった過程を知り、鉄道がまちの発展に寄与してきたことを認識する

▼学校の周りの鉄道を知ってる? ▼昔と比べて何が変わった?

身近な学校からはじめて、地域の鉄道を認識する

地域の鉄道がどのように変化してきたかを示し、便利になっていった過程を確認する

鉄道が便利になっていったことによって、まちも発展してきたことを確認する(⇒ワークシートを活用)

地域にとって重要な鉄道(約5分)

○地域にとって重要なことから、いろいろな工夫や努力で支えられていることを予想する

▼何かに支えられている?

導入の整理をし、仕事紹介の動機づけを行う

まちの発展を支えているから鉄道は地域にとって重要であることを認識する

② 仕事紹介

全体説明(約5分)

○説明に先立ってどのような仕事があるか考える

▼どんな仕事がある?

電車を走らせるためにどんな仕事があるか写真を見せて予想する(⇒ワークシート活用)

鉄道を支える仕事(約30分)

○動画等を用いて各パートの仕事内容や地域との関わり等を説明する

<基本パターン例>

建設の仕事

駅舎やホームの建設、線路の設置、複線化をする仕事であることを認識する

メンテナンスの仕事

安全な走行のため、機械が正常に作動するかをチェックしたり、部品を交換する仕事であることを認識する

駅の運営の仕事

体の不自由な方や妊婦の方等に案内をしたり、切符を販売する仕事であることを認識する

運輸の仕事

どんな点に注意して運行しているか等を認識する

まとめ(約10分)

○鉄道がいろいろな人に支えられているとともに環境にやさしいことを学ぶことによって、地域にとって重要なものであることを認識する

▼多くの人に支えられている! ▼環境にも優しい!

地域を支える鉄道は多くの人に支えられていることを認識する

排気ガスの排出と温暖化の関係等から、車より鉄道が環境に優しいことを示す

③ まとめ

できることを考える(約20分)

○地域にとって重要な鉄道をうまく利用していくために自分にできることを考える

▼鉄道を使うことや地域の人たちを支えるためにできることを考えてみよう!

地域・環境に対して重要な鉄道を大切にするためにできることを考える

(可能ならバスエコと絡めて)鉄道の利用を促す例を示す

乗った時にみんなが気持ち良く利用できる方法等の例を示す

将来の地域の鉄道等についても考えさせ、思想を深める(時間があれば発表)

<コンテンツの考え方>

- ・広くて話を聞きやすい場所がない、大人数である等により、座学だけの授業は難しい場合は、下記のコンテンツ等に変更することが考えられる。
- 【変更例】
- 1) 駅の非常ボタンの模型等を使った安全体験学習
- 2) アイマスク等の疑似体験器具を使った高齢者体験学習
- 3) 鉄道の環境に関する紙芝居等
- ・なお、変更を行った場合、前後の説明に整合しなくなるため、調整する必要がある。
- ・例えば、上記の場合では「上手に使う」等をキーワードにして地域にとって重要な鉄道の使い方を学ぶといった主旨で整理することが考えられる。

6-28

(6) 05_家庭向け授業チラシ・アンケート様式

家庭向けチラシ等の作成ポイント

1. 目的

授業の内容を家族に周知し、家庭での実践を促す。

2. 作成のポイント

- ・家庭でも追体験してもらえるよう、プログラムの概要や結果等を周知する。
- ・（可能な場合）親子での会話による伝達を促すため、宿題やアンケートを実施する。

(1) 家庭向けチラシ作成のポイント

(2) 宿題・アンケートのポイント



3. その他

子どもの記憶が新鮮なうちに伝達できるよう、授業実施後できるだけ早くチラシを配付する。

7. 協議会等の開催補助

7-1 開催概要

今年度開催した協議会の開催概要を以下に示す。

表 7-1 協議会開催概要

	開催日時	議題
第 6 回	平成 25 年 10 月 21 日	1. 開会挨拶 2. 規約の改訂について 3. 議事 (1) これまでの取り組み概要 (2) 今年度の取り組みについて 4. 総括
第 7 回	平成 26 年 3 月 13 日	1. 開会挨拶 2. 議事 (1) 今年度の取り組み結果 (2) これまでのまとめと目指す方向 (3) 普及・継続のしくみについて (4) 次年度の進め方について 3. 総括


7-2 第6回協議会

(1) 協議会の概要

第6回委員会の開催概要を以下に示す。

議事概要は次頁以降に、配付資料は巻末に示す。

表 7-2 第6回協議会の概要

項目	内容
開催日時	平成25年10月21日(月) 13時30分～15時
開催場所	亀岡市役所 202・203 会議室
出席者	<p>【委員長】松村暢彦(大阪大学大学院工学研究科 准教授)</p> <p>【委員】村上英之(京阪京都交通株式会社 運輸部貸切課長 管理部企画課担当)</p> <p>平野 剛(西日本旅客鉄道株式会社 京都支社 地域共生室 担当室長)</p> <p>山守貞之(京都交通株式会社 舞鶴営業所 所長)</p> <p>川手光春(京都府地球温暖化防止活動推進センター 事務局長)</p> <p>田中美賀子(亀岡子育てネットワーク 理事長)</p> <p>山下正巳(国土交通省 近畿運輸局 交通環境部 環境課 課長補佐)</p> <p>竹村 功(亀岡市 政策推進室 政策推進課 課長)</p> <p>大西芳夫(長岡京市 建設交通部 交通対策課 課長)</p> <p>木上晴之(京都府 教育委員会 学校教育課 担当課長)</p> <p>村尾俊道(京都府 建設交通部 交通政策課 課長)</p> <p>【事務局】交通エコロジー・モビリティ財団</p> <p>亀岡市 政策推進室 政策推進課</p> <p>福知山市 市民人権環境部 生活交通課</p> <p>京都府 建設交通部 交通政策課</p> <p>株式会社オリエンタルコンサルタンツ</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 規約の改訂について 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) これまでの取り組み概要 (2) 今年度の取り組みについて 4. 総括
資料	<p>資料-1 出席者名簿</p> <p>資料-2 京都府交通環境学習推進協議会規約(案)</p> <p>資料-3 これまでの概要と今年度の取り組みについて</p>
実施状況	

(2) 議事概要

1. 開会	
村尾委員：	京都府の学校 MM の取り組みは平成 17 年よりはじまり、エコモ財団に関してはお世話になって今年で 3 年目ということで、長い期間にわたって継続できおり、素晴らしいことだと思っている。それだけ交通を題材にしたテーマが学習に色々な意味で活用できるということが、学習プログラムをつくってきてわかってきたということである。しかし、毎年、担当の方が代わることでノウハウが積み重なっていかない等どのように普及させていくかということが相変わらずの課題として残っている。マニュアルをつくって継続できるものでもなく、人と人の繋がりやネットワークがあってはじめて事業を進めていけるものだと思う。本年度はエコモ財団の財源の終了等もあり、正念場であると感じている。本日は、課題も含め、来年度以降どのように継続させていくかについてみなさんのご意見をいただきたい。また、本年度は、KTR の新たな車両の運行や 200 円バスの取り組み等京都府内で新たな交通の事業が動き出し、地域の人たちに訴えかけるにはぴったりのタイミングでもある。
松村委員長：	村尾委員の言うとおり本年度は正念場の年であると思う。一般的に、3 年間にわたる成果という話になると報告書になるかと思うが、綺麗な報告書を作ることも重要だが、この 3 年間の成果を使ってどんなものがつくれるのかということと、それを活用できるネットワークを維持し、さらに発展させていくことができるか、という具体的な物と人を形成していくことの方が重要だと思う。本日は、良いプログラムをどんな人たちに広めていくことができるのか、そのためにはどういったものが必要なのか、どんなものがいらぬのか、という話ができれば、来年度以降、有意義な形で教育プログラムは広がっていくと思う。
2. これまでの概要と今年度の取り組みについて	
事務局：	【資料-3 を説明】
松村委員長：	事務局の方で試行錯誤を繰り返し、改善しながら取り組んでいるということであるため、正しい方向にいつているのではないかと感じる。
村尾委員：	知好楽という論語の言葉にあるように、授業で地域を知ってもらうことは大事だが、21 ページのように知ってもらうことに併せてバスを好きになれるようなプログラムをいれていくことも必要。亀岡市でやっているように、バスを持って行って子供たちをバスのファンにさせられるような取り組みを行っていけば、確実に利用に繋がっていくのではないかと感じる。
松村委員長：	バスに乗ってもらうということは極めて重要。これは京都府や市役所だけでは当然できないし、事業者の方と連携することが必要。また、どこに窓口を置いてどういった見せ方をするかということも重要で、学校の先生から見たときに市役所等はやはり少し遠いような気もする。しかし、今回、京都府教育委員会から長岡京市に出前授業を投げかけて、賛同していただ

	けたことは一つのヒントになったような気がする。学校の先生にとって近い窓口から話をすれば取り組んでもらいやすいということも考えられる。京都府の場合、投げかけ方で何か工夫はあったのか。
事務局：	京都府の教育委員会の方に、学校 MM を広めるような場はないかと持ちかけたところ、教育委員会が保有する出前授業リストに資料を掲載していただけた。教育委員会とやりとりをする中で資料の情報を共有できた。
木上委員：	小学校に紹介する方法は決まったルートは確立しておらず、色々な方法があると思う。例えば、ある会社がバスのメニューを持ち込んで学校で紹介する等特性に応じて色々な手段で取り組みを知らせる必要がある。
松村委員長：	交通事業者に直接紹介がくることはあるか。また、バリアフリーを題材にするような場合はどうか。
村上委員：	職場体験学習はあるが、教育として学校側からこれまでの取り組みのような交通環境学習の声をかけられたことはない。バリアフリー関係でも投げかけられたことはない。
松村委員長：	駅見学の投げかけはどうか。
平野委員：	見学はたくさんある。低学年だと社会科見学があるので、駅に来ていただくことはある。向日市では車両基地の工場見学等はしている。
松村委員長：	そういう場合は学校が直接申し込んでくるのか。教材等はあるか。
平野委員：	おそらく直接である。教材等はなく、その場その場で JR 職員が紹介するメニューを考えて行っている状況である。
松村委員長：	31 ページにある資料は現場の先生方とコミュニケーションを取りながらつくったのか。
事務局：	こちらでつくって持参した。久御山では平成 17 年から社会科見学でバスに乗る機会が設けられており、低学年に体験乗車をさせている。そのバスに乗る機会を活かし、MM の効果を高めるために学校側に取り組みを紹介した。
松村委員長：	新たに導入するのではなく、実際にバスを利用しているところをより充実させるように付け加えたということか。
事務局：	補足すると、今年は 2 回やるという言い方をされていて、1 回目は目的地の施設を見学することが目的とされ、2 回目はバスに乗ることがメインであったため、この資料を使いやすいとのことであった。写真等が入ったカラーの資料があると助かるといった話もあった。
田中委員：	学習を受けた子供たちに地域のマイスター的な称号をあたえ、自分はバスの乗り方やマナーを知っていて地域で役立つことができる一社会人である、というような意識付けをさせていくことも考えられる。学習を受けた子供たちがバスを利用する場面で、サポートやボランティア行動を行い、色々な人を支えるような役割を担える存在になっていたら素敵ではないか。バッジ等で称号を与える取り組みを行ってほしい。
松村委員長：	いいですね。缶バッジをもらえたというような、他者から評価してもらったことを具体的に形にする仕組みをつくっていくというのはおもしろい。バスの乗り方だけでなく、バスの意味をわかっているという風なことが

	マイスター制度のひとつの基準になるようなプログラムはいいと思う。
田中委員：	このような取り組みが学校に優先的に取り入れられていくためには、交通だけではなく、子供たちがどのように成長していくかというような部分を取り入れ、道徳的な入り方をやることも必要ではないか。
事務局：	継続的にしていく方法があればよい。方法を考えてみたい。
田中委員：	お金がかからない方法なら合言葉等でもよい。
松村委員長：	神社と連携してお守りにしていただくこと等も考えられるかもしれない。いずれにしてもアイデアを頂戴したということで、検討してみしてほしい。
村尾委員：	子供たちにマイスター制度を設けることもよいが、45Pのように経験者のリストにもマイスター制度を加え、実施した経験回数等がわかるようにすれば、経験者のネットワークで互いに聞いたりして暗黙知の部分やノウハウを共有し合えると考えている。
事務局：	このような経験者のリストがあると意識が高まり、共同でやっていこうという姿勢になり、良いと考えている。
松村委員長：	現段階では、京都府に経験回数の多いマイスターが集まっているが、だんだんと市町村の方にマイスターが出てくれば人としての繋がりは出てくると思う。手引きやポイント集を形式化しておき、暗黙知の部分は人的なネットワークで補っていくということがひとつの形であると思う。継続的な京都府の支援は必要だと思う。
木原委員： (川手代理)	プログラムを実施する担い手を増やしていくための資料や伝達物は、文字的なものではなく、映像的な資料もあった方が、授業実施風景をイメージしやすい。
事務局：	ビデオ映像は資料としてあるため、整理していきたい。
木上委員：	のってこバスのような地域の小さなバスを扱うような体験乗車を実施する場合は、学級の多い学校では安全面での問題が懸念されるため、学校側に具体的な安全面の説明が必要。
松村委員長：	久御山の場合はいまだに安全対策で町役場の方がでていらっしゃるのか。
村尾委員：	サポート車が入ったり保護者の方が同伴で乗っているということはあった。
事務局：	今年、体験乗車を実施する城陽市の富野小は3クラスが3日間に分かれて行う予定だが、市の方が後方にサポートを走らせるということになっている。
木上委員：	小規模な小学校では、実施できる学級数の基準について具体的なものがあればわかりやすい。
松村委員長：	安全対策や学級数に応じた対応の内容について、学校の先生に実際にできるということを思ってもらえるような手引き・資料をつくることができたら良い。
加藤委員： (岡本代理)	個人的にMMというのは、まちづくりや交通の話からバスや鉄道に子供たちが目をむける一つのきっかけになるものであって、バスの仕事をしてみたいとか行政の仕事をしたいといった事業者や市町村の視点でも考えられるようなプログラムに将来的にはなしてほしいと考えている。色々な

	関係者の方が参加してくれるような形にできれば良い。
松村委員長：	事業者の方でノウハウを蓄積してできると即効性がある。
村上委員：	子供たちに公共交通を伝えるアプローチは色々あるが、好きにさせることが重要であり、人・環境にやさしいバスは頭の片隅にでも残す・残ってくれたらいい、くらいの考えで伝えていければ良いと考えている。本来であれば、親御さんにも使っていただき、波及的に広がるような即効性も大事だが、まずは好きになってもらうことを重要視することも必要と考えている。
山守委員：	事業者が主になって取り組むことは当然のことであると認識している。京都府が中心になり、実施は事業者がやるというような考えで良いと思う。学校の方からの要請はないが、学校側がそういう取り組みを事業者が行っていたり、受け入れているという事実を知らないだけであり、お互いが結びついていないという現状がある。
松村委員長：	そのように、両者の縁を取り持つようなことを市町村が行うと非常に助かる。
大西委員：	一般の考え方からすると事業者に直接頼み込むという発想は出てこないもので、市町村が学校の窓口になれば良い。問い合わせに関しては、市を通してもらっても事業者に直接申し込みされても構わないということをもっとアピールできれば良いと思う。
竹村委員：	今年度まで、交通環境学習を亀岡で何度も取り組んでくださっている状況もあるので、自主的に取り組まなければならないということも考えていきたい。
松村委員長：	ぜひ来年度以降も継続させていってほしい。
田中委員：	関係機関や他団体との枠を越えた連携をもっと深めていくことができれば、良い情報交換をしていけると思う。京都府の地域力再生活動のメーリングリストを活用していくことも考えられる。
山守委員：	発信ということからすると、交通環境学習の出前授業のことを自社HPの「京都交通の安心と安全に関する取り組み【京都交通CSR】」というページに掲載している。ご覧になられた方で何かご意見があった場合には伺いたい。
松村委員長：	こういった取り組みはみなさんの成果として取り上げ、各所で宣伝していただきたい。JRは社会を支える鉄道として、少し違う角度からとらえて実施されたということでしたか。
平野委員：	電車を持っていくわけにはいかないもので、映像や小道具を使って鉄道のしくみを知ってもらうということを行った。「環境」とつながりにくい内容ではあるが、好きになってもらうことが一つ重要であるということであれば、またやっていけると思う。
松村委員長：	今日いただいたご意見として、取り組みとしてはこの方向性でいいのではないかということだと思う。それに加え、マイスター制度の導入や情報の発信方法として事業者・市町村が活用できるものはしていくこと、基本的には事業者の方でノウハウを溜めていければ即効性があること、学校から

	事業者への投げかけは見込めないので市町村・府がその窓口としての役割を担うということが必要であろうということだったと思う。今年度も引き続き実績を積んでいただいて、最終的に報告書の取りまとめとマテリアル、人のネットワーク等をつくっていかれば良いと思う。
事務局：	協議会としては、今回いただいたご意見を踏まえ、検討していく。


7-3 第7回協議会

(1) 協議会の概要

第7回委員会の開催概要を以下に示す。

議事概要は次頁以降に、配付資料は巻末に示す。

表 7-3 第7回協議会の概要

項目	内容
開催日時	平成26年3月13日(木) 15時~17時
開催場所	亀岡市役所 202・203 会議室
出席者	<p>【委員長】松村暢彦(大阪大学大学院工学研究科 准教授)</p> <p>【委員】村上英之(京阪京都交通株式会社 運輸部貸切課長 管理部企画課担当)</p> <p>平野 剛(西日本旅客鉄道株式会社 京都支社 地域共生室 担当室長)</p> <p>山守貞之(京都交通株式会社 舞鶴営業所 所長)</p> <p>木原浩貴(京都府地球温暖化防止活動推進センター 事務局長)</p> <p>狩谷英司(国土交通省 近畿運輸局 交通環境部 環境課 課長)</p> <p>竹村 功(亀岡市 政策推進室 政策推進課 課長)</p> <p>塩見正光(福知山市 市民人権環境部 生活交通課 主査)</p> <p>大西芳夫(長岡京市 建設交通部 交通対策課 課長)</p> <p>村尾俊道(京都府 建設交通部 交通政策課 課長)</p> <p>【事務局】交通エコロジー・モビリティ財団</p> <p>亀岡市 政策推進室 政策推進課</p> <p>福知山市 市民人権環境部 生活交通課</p> <p>京都府 建設交通部 交通政策課</p> <p>株式会社オリエンタルコンサルタンツ</p>
議事次第	<p>1. 開会挨拶</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 今年度の取り組み結果</p> <p>(2) これまでのまとめと目指す方向</p> <p>(3) 普及・継続のしくみについて</p> <p>(4) 次年度の進め方について</p> <p>3. 総括</p>
資料	<p>資料-1 出席者名簿</p> <p>資料-2 これまでの概要と今年度の取り組みについて</p>
実施状況	

(2) 議事概要

1. 開会	
村 尾 委 員 :	<p>今年度は3年間継続してきた本事業の一つの節目であり、これまで松村委員長をはじめ、委員の皆さまには大変お世話になり、感謝している。特に、エコモ財団の皆さまの財政的なご支援をいただいたことにより、良いプログラムをつくりあげることができたと思っている。また、担当者が変わってしまうことはよくあることだが、継続していくことができたのは、MMの取り組みを府が開始して以来、松村委員長の一貫したご指導によるものだと思う。</p> <p>設備投資を重視する時代から、人とのつながりや人材育成等に対する投資が重要視される時代へと変化する中で、本事業はまさにそのような無形財産を築き上げていけるものであると思う。このようなところにしっかりと投資をすれば移り変わる時代の変化に対応した施策を打ち続けられると感じる。そのため、これまで築き上げてきた人的資源や知識等を活かしながら次年度以降も取り組みを繋げていけるよう、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
松 村 委 員 長 :	<p>継続に繋がってきた要因としては、地元の方や現場の先生方に取り組みの良さをわかってもらえたことが一番であると感じている。また、それができたのは、全国的に京都府が先駆け、本協議会のような関係者同士が顔を合わせて情報交換をし、「やってみよう」という雰囲気をつくりあげたことによるものだと思う。今回できあがったプログラムは無理をしていないので、今後も継続していけるようなものであると考えられる。とはいえ、事業者や自治体の需要が変化していくことも考えられるため、本プログラムは、多様性にとんだ京都府の全地域に合わせられる形で今後展開していただくための土台になれば良いと思う。これまでの知見をさらに伸ばしていくという観点でご意見をいただければありがたいと思う。</p>
2. 今年度の取り組み結果について	
事 務 局 :	【資料-2 (スライド 1~19) を説明】
松 村 委 員 長 :	川東小は3年目であると思うが、学校に変化はあるか。
事 務 局 :	環境に関する出前授業をいくつか行い、その中の興味を持った内容について再度学習する取り組みが年間の総合学習に位置付けられ、実施されるようになった。これは、プログラムの内容について知ってもらえたことによるものだと思うし、継続して実施したことで定着に繋がったと感じている。
松 村 委 員 長 :	トピックを体験したあとに、興味や関心のあるものを選んで学習内容を深めるというのは、通常の教育プログラムとしてもかなり優秀であると思う。そういったことに活用していただけると良いが、やはりプログラムの内容を理解されていなければその段階までいくのは難しい。
狩 谷 委 員 :	来年度、我々は授業のみで学習を終わらせないために、授業で自分たちの行きたいところのマップを作成しておき、夏休み後等にどこに行ったかを

	確認させるフォローアップを考えている。今回、これらのプログラムを通じてバスや鉄道の魅力を学習した後に、実際の利用状況等を確認するアンケートをとったところはあるか。
事務局：	授業の内容や子どもの感想を記載したチラシを授業後に家庭へ配布している。それと併せて、子どもへの宿題と親へのアンケートを配布し、子どもに授業内容を振り返らせるとともに、親へのアンケートで実際に利用を促すフォローアップをしてきた。また、チラシを配布する時期がバス・エコファミリーの取り組みの時期と重なることが多くあるため、その内容を掲載するフォローアップもしている。
松村委員長：	1年目は効果をはかっていたのであったか。
事務局：	バス・エコファミリーの効果はほとんど変わらなかった。
3. これまでのまとめと目指す方向、普及・継続のしくみ、次年度の進め方について	
事務局：	【資料-2（スライド 20～45）を説明】
松村委員長：	非常に整理していただいていると思うが、ご意見等はあるか。
平野委員：	鉄道プログラムについて、社会科で使えるというご紹介をされているが、我々としては公共交通の利用促進を訴えたいと思っている。そのため、鉄道を支える仕事の紹介というよりは、環境にやさしいという面から利用促進に繋げていける内容であった方が良いと感じる。体験乗車を引き続き検討することは良いと思っており、乗車経験がない場合には切符を買う等の乗り方から勉強するようなプログラムをつくることができたら良かったとも感じている。また、普及・継続の考え方について、今後は府が示す情報に反応した学校や自治体が直接事業者とやり取りするイメージなのか。これまでは府が間に入り、学校と事業者の要望をうまく調整してくれていたが、事業者としては学校側の要望にすべて応えることは難しいため、仲介役がなくなるとやりづらい印象を受ける。
事務局：	たしかに事業者や自治体にとっては利用に繋げることが一番重要なことだと思っている。しかし、学校側が考える子どもたちに学んでほしい内容と、プログラムを実施することで学べる内容との考え方が合わなければ実施は難しい。事業を継続して実施することが、子供たちにとってまちの交通について考える機会となり、ゆくゆくは利用にも繋がっていくという考え方からすると、学校 MM において利用効果が出るまでは長いスパンを要するかもしれないが、学校に納得してもらい、かつ継続していけるようなプログラムにすることが望まれる。
村尾委員：	以前、松村委員長が学校は教育の現場であるから教育の観点以外のものを持ち込むことはできないとおっしゃっていた。継続していくためには学校の意向を踏まえることが必要であるが、それ以外にも市町の自治体や事業者等も参加していただいているため、これらの要望のバランスをどのように保っていくかということも問題である。今まで見てきた MM の事例では、利用増加人数や渋滞の減少量等の目に見える形で効果を示したことにより事業者の評価を得て継続・展開できているものがあった。それに対し、交通環境学習の世界では効果計測というよりは学校に広めていくことを

	<p>第一としているため、事業者には喜ばれるような効果計測等はしてこなかったが、事業者や自治体等に対してメリットを示していくことができれば、より協力を得やすく、継続に繋がっていくことも考えられる。また、今後は府でなく市町の自治体を中心となって取り組んでいくことが理想であると考えられ、ジョブローテーション等で担当者が変わって今まで積み上げてきたものがなくなってしまいそうなときは、マイスターリストのように経験者との繋がりを保つ仕組みを活用して対処することが考えられる。</p>
松村委員長：	<p>本事業でつくられた鉄道プログラムは、前半の鉄道の仕事を通じて地域の支え合いについて学ぶ部分では学校側の教育の考え方に整合する内容になっている一方、後半部分の自分の行動について考える部分では実際の利用にもつながるような内容に仕上がっていると思われる。さらに利用促進の観点から考えるなら、これまで開発されてきている TFP 等を使えばより十分なプログラムにしていけないことはないと思う。例えば、バスプログラムでは配布するチラシにバス・エコファミリーの情報を取り入れたりしている。実施回数が少ないこと等によりあまり効果は見られていないが、事業者に関心を持ってもらえるような取り組みも以前から継続して実施している。また、1年目に実施したガリバーマップのプログラムは、地勢等を広く学ぶことができたり、長距離移動を考えたときに自動車から鉄道への利用転換に期待できることから、先生方や事業者の方に喜んでもらえるものと考えられる。ただし、1年目ではうまく活用できなかったため、今後しっかりとしたプログラムとして活用していくためには検討が必要である。</p>
松村委員長：	<p>今後、実施に至るまでの調整をしてきた府がいなくなれば、経験が浅い担当者の負担は大きなものになると思われるが、府はどうしていくつもりか。</p>
事務局：	<p>マイスターリストを活用し、経験者に間に入ってもらう調整する等の対応が考えられる。</p>
松村委員長：	<p>府が仕切るのではなく、市町の自治体が主体として学校と調整をおこなえる体制が理想と考えられるが、ある程度市町でも調整ができるようになるまで、交通環境学習のすすめの11ページにみられる体制のように、今後、必要な場合は府が市町と学校との調整を仲介したり、マイスターリストを活用して手助けしていければ、市町に役割を託していくことができると考えられる。資料-2のスライド30の体制が理想形に近いひとつの形だと思われるので、この体制で回していくことが望まれる。</p>
村尾委員：	<p>要請があった場合は協力させていただきたいと思っている。また、学校MMに限らず、その地域で実施するMMの内容が合理的であれば実施につながり、その効果も現れると感じる。例えば、長岡京市の西山天王山駅の開業に伴い、西山天王山駅と長岡京駅と京阪淀駅らを結ぶ新規バス路線の運行に向けて、居住者向けのMMと職場向けのMMを実施したが、一日の乗車人数から利用が定着している等の効果がみられている。地域の交通環境が変わるタイミング等に効果的な情報提供ができれば、行動の変化も</p>

	みられるため、他にも地域の交通環境に変更があった場合等に実施できる機会があれば市町に協力していきたいと思っている。
加藤委員：	学校で実施できるかどうかは最終的に先生方の判断によるものと思われるが、実施できない場合には取り組みを実施していこうとする推進役が必要と思われる。今後、その役目は誰が担っていくのか。現時点だと、担当者個人のスキルや意識によって実施に結びついていると感じる。そのため、そういった方が人事異動でいなくなった場合にも対応できて、取り組みを推進していけるような組織的な体制にするべきではないか。
村尾委員：	担当者が変わってしまって取り組みの継続に影響が出てしまうことは大きな課題だと思っている。10年前に京都府の中でTDMに関する組織を立ち上げたが、その時にアドバイザー会議というものを設置し、担当者が変わっても学識経験者等にご意見をいただきながら対応していけるような仕組みをつくった。交通環境学習に関しては、松村委員長にその役目を担っていただいていたおかげで、継続してこられたと思っている。今後もアドバイザーとしてご協力をいただければ、担当者が変わる問題の解決策のひとつになるとしている。
加藤委員：	今の話では松村委員長の行動力に頼りすぎていると感じる。あまり費用をかけずにやる気があれば組織として推進していける気がするが、人事異動で取り組みが終わってしまいそうな体制では困る。
村尾委員：	ご指摘に対する明確な回答はできないが、社会の動きに応じて実施すべき取り組みがあり、9年間実施してきた経験からするとできることは一通りやってきていると感じる。現段階では、バスや鉄道そのものが地域からなくなってしまいうような動きが懸念されるため、こちらの対処も考えていかなければならないと考えており、交通環境学習の取り組みとバランスを取っていくことが今後必要と思われる。
加藤委員：	3年間で継続的な取り組みを実施していけるような仕組みをつくっていただくことを目的に支援を行ってきたが、他にもやっていかなければならないことがあるといわれると支援してきた意味に疑問を抱いてしまう。人が変わってしまうとこのようなことをおっしゃることがあるのではないかと心配している。やはり人が変わってしまったときに継続していかないとと思われるため、組織的な体制をつくっていただきたい。
木原委員：	継続的に実施していくことを実現させる方法を考えるとなかなか難しいと考えられるが、費用をあまりかけずに推進していく方法とはどのような形のものか。
加藤委員：	事業でつくった組織を事業が終了しても残し、取り組みを継続させた市がある。例えば現在の協議会も規模を縮小する等して残し、担当者と交通環境学習の取り組みの経緯を知っている経験者が集まって話合うことができるような体制のことである。
松村委員長：	今まで、MMの取り組みの失敗例をみているが、組織をつくっても形式的なものであった場合は組織をつくったことによる安心感で終わってしまうケースがみられる。しかし、組織がなければ継続していかないと考え

	<p>られる。また、資料-2のスライド31をみたとき、府が市町の自治体や学校に情報提供・啓発をし、それがうまくいかない場合は今後も府が考えていくという意思表示であろうと思った。府にはアドバイザー会議のように総合的なMMの推進体制・チェック体制があるため、年に一回程度になるとは思うが報告されるときまでに色々と取り込まれるということだと思っている。ただ、それだけでは支援してきた側からすると納得できないことも考えられるので、スライド30・31のフローを府が取り組んできたこれまでの実績を踏まえ、組織として埋めるような形で示すことが考えられる。ただ、まったく新しい組織をつくっても機能しないことを考えると、現在実際に動いている組織を使っていくのが良いと考えられる。</p>
村尾委員：	<p>推進組織を残していけるのであれば、残していきたいと思う。</p>
加藤委員：	<p>担当者も個人であり、面倒になればやめてしまうことも懸念されるため、外部からプレッシャーがかかる仕組みであれば良いと思う。</p>
村尾委員：	<p>本資料をみると、全体的に府が実施するというようになってきているので推進組織で今後はその役目を担っていく方が自然であると思われる。</p>
松村委員長：	<p>現在のフローでは一番上に府が位置しているため、府からスタートしなければ何もかも始まらないようなイメージに見えてしまうが、取り組みの始点はいろいろであることを踏まえると、どこの機関から始まっても良い循環するようなイメージにしてはどうか。取り組みの始点に関して、担当者が関わらずに学校と事業者間のみで取り組みを完結させてしまった例を聞いたが、それだけで終わってしまってもったいないので、情報として拾い上げて蓄積させ、次につなげていけるような仕組みにすることも望まれる。</p>
木原委員：	<p>ガリバーマップは使用したいときに提供してもらえるのか。</p>
事務局：	<p>亀岡市内のものであるため亀岡市で管理している。</p>
木原委員：	<p>ガリバーマップは活用しづらいものか。</p>
松村委員長：	<p>社会科で自分たちの住むまちについて知るという単元のとき等に使うことができる。使用したい場合は亀岡市に問い合わせれば使用可能であると思う。</p>
木原委員：	<p>了解した。機会があれば連絡させていただきたい。感想になるが、これまでの取り組みで大きな成果と思ったことは、本プログラムを小学校に使ってもらえるようになったということである。先生がうまく授業の中に組み込んでアレンジしてもらわないと全体の授業のプログラムから浮いてしまうことや押し付けられた思いがあるまま先生が実施してしまうと子どもたちにも伝わってしまうことが考えられるので、先生たちにどのように使ってもらえるかを考えている身からすると定着している学校があるというのは素晴らしいことであると感じる。また、結ネットによる引っ掛かりは多いと思われるため、継続して掲載していただくことをお願いしたい。その時に、交通環境学習を広めていただくと同時に、福祉等の他の視点で興味を持たれたところにうまく環境の視点も入れていただければ良いと思う。プログラムを実施する中で、交通環境学習の背景にあたる環境の部</p>

	分を我々が担当して、交通は専門家の方々に任せるといったことも考えられるので、今後、機会があればお声掛けいただければありがたいと思う。
4. 総括	
松村委員長：	府の交通環境学習の取り組みとしては一歩進んだと感じており、ご支援をいただいたエコモ財団に感謝する。さらにもう一歩進めていくには、今後も各機関全体で進めていくことが必要になると思われる。来年度も交通環境学習の取り組みを実施していく上では、組織的な体制とした中で事業の実施状況をチェックしながら行っていただくことをお願いして、本協議会を終了する。
加藤委員：	3年間にわたりご検討いただいたことをありがたく思う。先ほどは厳しい言い方をしたが、それはせつかく良いものをつくっていただいたので、今後、京都府の各地域で使っていただき、取り組みが根づいていってほしいという思いがあつたのである。ただ、これを先生方に自主的に使っていただくことや普及させていくためにはまだ課題があると思っている。そういう面では、スタート地点に立てたと感じている。来年度も普及に向けて、引き続き支援していきたいと思っているため、今後ともよろしく願いしたい。
事務局：	これを持って第7回京都府交通環境学習推進協議会は終了するが、事業としては継続させていきたいと思っているため、委員の皆さまに今後ともよろしく願いしたい。

8. まとめと今後の課題

8-1 まとめ

本事業では京都府における交通環境学習の普及・継続を目的として平成 23 年度からの 3 年にわたり、プログラムの開発・試行、普及・継続のしくみづくりを実施してきた。

本業務ではその最終年度として、府内 9 校でプログラムを試行するとともにこれまでの取り組みの評価を取りまとめ、今後の方向性とそのための仕組みを検討・構築した。

以下に本業務の主な成果を示す。

(1) プログラムのバリエーション強化・定着

3 年間の取り組みを通じた各地域での普及により今年度のは実施対象が 9 校に広がった。バス車両プログラムを実施した学校が 6 校と最も多かったが、それぞれバスのサービスレベルや地域の課題、学校での授業の位置づけ等の特性が異なっていた。

そのため、地域や学校のニーズに応じて昨年度までに構築していたプログラムに多く利用されている状況から地域におけるバスの役割を考えるパートを加えたり、5 年生の社会科（環境にやさしい車の生産）に対応してバス車両の環境面の工夫の説明を加えるなどの工夫を行った。さらにこれらの工夫は、今後府下で普及を進めていく際の取り組みの重要な視点となるため、実践資料集（プログラムアレンジのポイント）において、特性に応じた工夫点として取りまとめることができた。

また、3 年間継続した川東小学校では取り組みが学校行事として定着したことで、環境をテーマとした総合学習の題材の一つとして活用していただき、出前授業を振り返ったまとめが学校独自で実施された。成仁小学校や第十小学校においても、一連の福祉をテーマとした環境学習に位置付けて活用する形で出前授業が実施された。

学校教育の視点では、個別の出前授業が意義深いものであること以上に、プログラムが年間を通じた狙いを実現するために活用できるような意義を持った内容となっていることが重要と考えられる。また、そういった観点から学校でリフレインしてもらうことで公共交通に対する意識付け効果が加速的に高まることも明白である。そのため、これまでの取り組みが上記のように学校に浸透し活用され始めたこと、本事業で構築してきたプログラムがそのような可能性を持っているものであることが実証されたことは、今後の普及・継続に向けて特に重要な成果であったと考えられる。

(2) これまでの取り組みの評価

今年度の取り組み結果について、各学校・事業者・自治体を実施したヒアリング結果や、本事業で実施した過去のヒアリング結果、各種アンケート調査結果等を用いて、これまでの取り組みの経緯を整理するとともに、継続・停滞の要因、課題等について考察・整理を行った。

これにより、学校の視点では、バス車両は地域特性により難しい場合もあるが、多くの学校で身近な題材として子どもが興味を持つことができる素材であること、環境や人にやさしいバスの特性が教科や総合の学習（福祉・環境の視点）を深めるのに有用な要素であることが明らかとなった。また、事業者や行政の視点でも、対応数に限界はあるものの、子どもと接し、教える（ことを考える）機会が実施者にポジティブな影響を与えること、事業者のイメージに寄与すること、家庭での実際の利用の意識付けにつながる事が明らかとなった。

これらを踏まえて、京都府全体で（バスが身近な題材と言える地域では）教育の視点からも、

事業者・交通行政の視点からも（対応可能な範囲内で）”実施すべきもの”としての位置づけを行い、京都府の今後の進め方を明確にすることができた。

また、交通環境学習の取り組みは個別のプログラムや特定の地域で、（交通行政の視点から）「やらないよりはやるのが望ましいもの」といった前提で、どのように続けるかを検討されるケースが多いと考えられるが、今回の横断的な評価により、様々な視点から実施すべきといえる要素や地域特性は何なのか、（それを踏まえて広域的に）どう展開すべきかを整理できたことは、全国的にも有益な知見であると考えられる。

(3) 普及に向けたしくみ・ツール開発

上記の位置づけに基づき、府下の市町でバス車両プログラムを基本に交通環境学習を実施してらうことを目的に関係団体が連携した普及・継続のしくみやそのためのツール（交通環境学習のすすめ・実践資料集等）を検討・作成した。

作成したツール類は、本事業3年間での取り組みだけでなく、それ以前の京都府の取り組みを含め各実施者の暗黙知となっていた要素を形式知化したという側面もあり、京都府下に限らず取り組みを展開していく上で有益なツールになっていると考えられる。

8-2 今後の課題

今後、本事業で構築したしくみやツールを用いて、これまでの取り組みを継続、普及させていくことが必要となる。その際、課題となる点を以下に示す。

(1) 実施支援組織の設立

継続の仕組みとして継続的に協議会（松村会長）への報告や方向性確認を実施していくこととした。また、様々な取り組みを拾う形をつくり、情報集約・発展を促すとともに、担当者の異動等を考慮したマイスターの仕組みも検討した。これにより行政へ継続的に一定のインセンティブが発生するとともに、経験知の有効活用や行政に依存しないすそ野の拡大も期待される。

しかし、行政等の経験者がいなくなっていくことで、情報が入りにくくなり取り組みを進めにくくなることは、避けられない課題である。

これをさらに緩和するため、これまで実施してきたマイスターを中心とした任意団体（「京都府の交通環境学習を見守る会」等）を設立して定期的な会合（会議・懇親会）を行うことが考えられる。このようなしくみにより、普段なら会う機会がない現役の担当者と経験者の情報交換や意見交換、親睦を深め、関係者の実行的な人脈づくりやモチベーションづくりを行うことができると考えられる。

(2) 新たなプログラムの開発

本事業の実施を通じて、交通には学校教育面から様々な面で有効な題材であると言える可能性があることが分かってきた。一方、今回構築しているプログラムは基本的で汎用性が高いものであると考えられるが、取り組みを長く続けていけば、もっと多様なプログラムに対するニーズも出てくると考えられる。

そのため、継続的に進捗管理を行う協議会（松村会長）への報告の場等を中心に毎年の実施情報や結果、課題等を整理するとともに、関係の業務機会に得られる事業者や地域団体との人脈・情報等を活用しながら、新たなプログラムを検討していくことも視野に入れて活動していくことが必要となる。

また、これに対しても（1）の支援組織等の会合の場で議題として扱うことを通じて、良い取り組みにつなげていくことも考えられる。

(3) ツール類の更新

取り組みを継続していくと、府下で情報提供や普及に求められる情報の観点・力点が変わってくる考えられる。（一からの周知 or 知っていることを前提とした具体的な実施方法等）また、あらなた効果の発現事例やより効果的なプログラム等も蓄積されてくると考えられる。

そのため、今回作成した「交通環境学習のすすめ」で訴求している内容のニュアンスや情報も、継続的に取り組みの発展の段階を把握、評価しながら、必要に応じてツール類を更新していくことが望まれる。